ONKYO®

AV レシーバー

TX-DS797

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、
正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書と
ともに大切に保管してください。

主な特長

■ ルーカスフィルム社が提唱する「THX® select」規格に準拠
■ THXサラウンドEX®
■ ドルビー*デジタル、ドルビープロロジック II サラウンド再生可能
■ DTS*、DTS-ES Discrete 6.1、DTS-ES Matrix 6.1、DTS Neo:6サラウンド再生可能
■ MPEG-2 AAC再生可能
■ 再生周波数の広帯域化（10Hz〜100kHz）を実現する技術WRAT（Wide Range Amplifier Technology）
■ 信号のノイズ領域との近接を回避して聴感上のS/Nを向上させるリニア・オプティマム・ゲイン・ボリューム回路
■ ダウンミックスによるフロントL/Rチャンネルのダイナミックレンジの減少や、S/N劣化を防ぐ技術「ノン・スケーリング・コンフィグレーション」採用の回路
■ DVD-Audioプレーヤーなどへの拡張性を実現する6.1チャンネル入力端子装備
■ 高音域が強調された劇場用サウンドを家庭で適切なバランスに補正する「シネマ・リ・イコライザー（Re-EQ™*）」
■ 小音量でもサラウンドを楽しめる「レイト・ナイト（LATE NIGHT）」機能
■ 「ベーシック」と「アドバンスド」の2メニューのオンスクリーン機能
■ D4/コンポーネント映像入力端子2系統、出力端子1系統
■ S映像入力端子6系統/出力端子3系統
■ デジタル入力端子として光4系統、同軸3系統、デジタル出力端子として光1系統
■ 入力機器とチューナープリセット局に名前をつけるキャラクターインプット機能
■ 最大40局のFM/AMランダムプリセット
■ 他機の操作および短縮操作を可能にするラーニング＆プリプログラムド、マクロ機能搭載のバックライト付リモコン付属

THX select
THX selectの認証を取得したホーム・シアター・コンポーネントは、いずれも一連の厳しい品質/性能試験に合格しています。このような製品にのみ付与されているTHX selectのロゴは、ご購入いただいたホーム・シアター製品が、長期間にわたって卓越した性能を発揮することを保証するものです。THX selectの要件には、パワーアンプ性能、プリアンプ性能、デジタル/アナログ空間での動作などをはじめとする、何百ものパラメータが定義されています。またTHX selectレシーバーは、劇場用映画のサウンドトラックを正確にホーム・シアターで再現するための特許技術である、THX技術(THXモード、42ページ参照)を備えています。

• AAC パテントマーキング

Pat. 5,848,391	5,291,557	5,451,954	5 400 433	5,222,189	5,357,594	5 752 225
5,394,473	5,583,962	5,274,740	5,633,981	5 297 236	4,914,701	5,235,671
07/640,550	5,579,430	08/678,666	98/03037	97/02875	97/02874	98/03036
5,227,788	5,285,498	5,481,614	5,592,584	5,781,888	08/039,478	08/211,547
5,703,999	08/557,046	08/894,844	5,299,238	5,299,239	5,299,240	5,197,087
5,490,170	5,264,846	5,268,685	5,375,189	5,581,654	5,548,574	5,717,821

目次

箱を開けたら、まず

機能と接続

OSD（オンスクリーンディスプレイ）

音楽／映画を鑑賞をする

リモコンを使う

その他

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について

この「取扱説明書」および製品の表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
  煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

分解禁止

- 本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでくだい。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
- 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

- 本機を使用できるのは日本国内のみです。
- 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
  本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次の点に気をつけてご使用ください。
  - 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
  - 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
  - テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しないでください。
  - 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

■ 水のかかるところに置かない

水場での使用禁止

- 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

- 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない

- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれて中に入った場合、火災・感電の原因となります。

⚠警告

■ 中に物を入れない

● 本機の通風孔などから金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

● 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。
● 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■ 電源コンセントにはオーディオ機器以外接続しない

● 本機の電源コンセントはオーディオ機器専用です。表示された定格以内でご使用ください。表示された定格以上の機器やヘヤードライヤー、電気こたつなどの電熱器具、オーブン・レンジなどの調理器具は絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

接触禁止

● 雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■ 乾電池を充電しない

● 乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより、火災、けがの原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意

- 強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に他のオーディオ機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

- 本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

- 電源を入れたときは、音量に注意してください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意

- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
- 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

⚠注意

■ 電池について

● 電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナスーの向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

● 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
● 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■ スピーカーコードについて

● スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検・工事について

電源プラグをコンセントから抜いてください

● お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

● 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。
● 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。
● アンテナ工事には技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
● 屋外アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

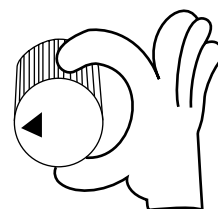
● シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

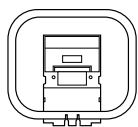
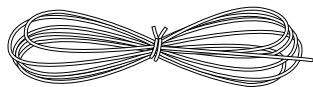
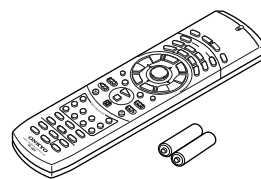
● 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。

隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。

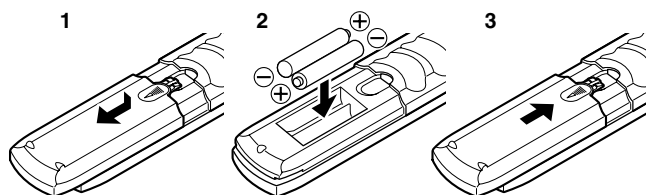
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

付属品を確認する

本機に以下の付属品が含まれているかどうかを確認してください。
（ ）内の数字は個数を表します。

AM室内アンテナ…（1）

FM室内アンテナ …（1）

リモコン（RC-460M）…（1）
乾電池（単三型）…（2）

取扱説明書…（本書1）
保証書…（1）

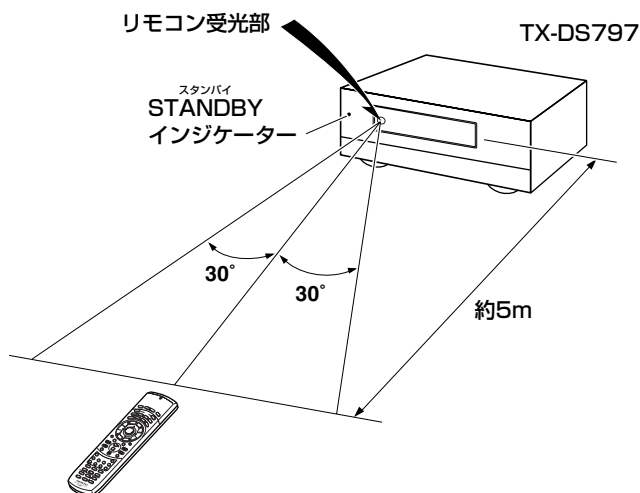
リモコンを準備する

乾電池を入れる

1. カバーを矢印の方向にずらしてあける
2. 中の極性表示にしたがって、付属の乾電池2個を＋（プラス）と－（マイナス）を間違えないように入れる
3. カバーを戻す

ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 寿命がなくなった電池を入れたままにしておくと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、ただちに古い電池を取り出して2本とも新しい電池と交換してください。
  電池の交換時には、単3型をご使用ください。

リモコンを使うには

リモコンは本機のリモコン受光部に向けて操作してください。リモコンからの信号を受信すると、本機のSTANDBYインジケーターが点灯します。

ご注意

- リモコン受光部に直射日光やインバーター蛍光灯などの強い光を当てないでください。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

フロントパネルのボタン

ここでは、フロントパネルの操作ボタンおよび表示部について説明します。

フロントパネル

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ 下図参照 ⑦ ⑧

ONKYO
STANDBY/ON
STANDBY
POWER
ON OFF
UPSAMPLING
DISPLAY DIMMER
REC OUT ZONE 2 OFF
MASTER VOLUME
TUNING PRESET SETUP ENTER RETURN
DIRECT STEREO SURROUND THX DSP FM MODE MEMORY A-FORM LISTENING MODE MEMORY CLEAR
PHONES AUDIO SELECTOR
ZONE 2 (GRN) REC (RED) DVD VIDEO 1 VIDEO 2 VIDEO 3 VIDEO 4 VIDEO 5 TAPE FM AM PHONO CD
VCR 1 VCR 2
VIDEO 5/VIDEO CAM INPUT
DIGITAL S VIDEO VIDEO L-AUDIO-R
AV RECEIVER TX-DS797

⑬ ⑫ ⑪ ⑩ ⑨

⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱

⑵ ⑵ ⑳ ⑲

保護用キャップ

VIDEO 5 INPUT DIGITAL端子には、保護用のキャップが付いています。
接続時は、このキャップを取り外してください。接続しない場合は、キャップを元どおりに取り付けてください。

フロントパネル表示部

フロントパネル

詳しい説明は、［　］のページをご覧ください。

① POWERスイッチ（主電源）［28］

本機の主電源を入れます。主電源が入ると、STANDBYインジケーターが点灯します。

- 主電源を入れる前に、すべてのコードが正しく接続されていることを確認してください。
- 主電源を入れると瞬間的に大きな電流が流れ、他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。コンピューターなど繊細な機器とは別系統のコンセントに接続してください。

② STANDBY/ONボタン［28］

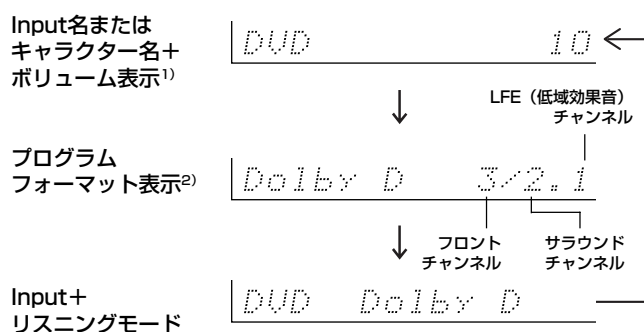
主電源が入っているときに押すと、電源がオンになり、表示部が点灯します。もう一度押すと、本機をスタンバイ状態にします。スタンバイ状態では、表示部が消灯し、操作はできません。

③ STANDBYインジケーター［9、28］

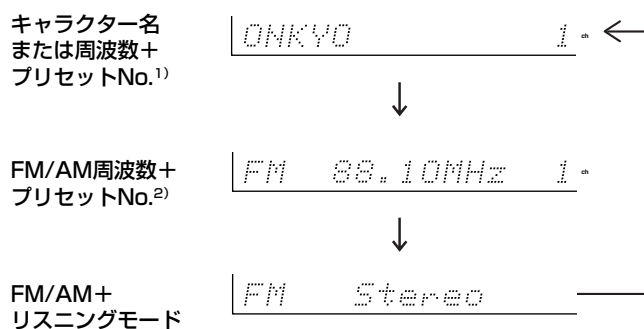
スタンバイ状態の時やリモコンからの信号を受信するたびに点灯します。

④ DISPLAYボタン

押すたびに、表示内容が次のように切り換わります。

FM、AM以外の入力信号を選択しているとき：

1）入力信号に名前をつけているときは（39ページ）、名前（キャラクター名）が表示されます。

2）入力信号にプログラムフォーマットがないときは表示されません。

FM、AMを選択しているとき：

1）プリセットチャンネルに名前をつけていないときは表示されません。

2）プリセットチャンネルに名前をつけているときは、入力信号がFMまたはAMに切り換わるたびに、3秒間だけ2の内容が表示されます。

また、FM、AMのどちらかをキャラクター名（または、周波数+プリセットNo.）表示にしているときは、もう一方も同じ表示になりますし、リスニングモードにしているときも同様です。

⑤ DIMMERボタン

表示部の明るさを設定します。「通常」「暗く」「さらに暗く」のいずれかに設定できます。

- 表示部の明るさはリモコンのDIMMERボタンでも調整できます。

⑥ 表示窓

⑦ REC OUT/ZONE 2切り換えボタン、OFFボタン［54、55］

本機の出力先を選択します。REC OUTまたはZONE 2ボタンを押して切り換えます。

REC OUTを選択すると、本機に接続した機器を使って録音・録画ができます。

ZONE 2を選択すると、別室（ZONE 2）で音楽を楽しむことができます。

REC OUTまたはZONE 2を押すと、表示窓に現在選択されている録音ソースまたはZONE 2再生ソースが表示されます。「SOURCE」表示のときは、現在の再生ソースと同じソースが選択されています。

録音ソースまたはZONE 2再生ソースを選ぶには、それぞれのボタンを押してから5秒以内に入力切り換えボタンを押します。

REC OUTまたはZONE 2出力を「SOURCE」にするには、それぞれのボタンを2回押します。

REC OUTまたはZONE 2出力をOFFにするには、それぞれのボタンを押してから5秒以内にOFFボタンを押します。

ご注意

ゾーン2出力と録音・録画出力は同一回路を使用しているため、同時に使用できません。REC OUTが選ばれているときは、ZONE 2端子からは何も出力されていません。ZONE 2が選択されているときは、REC OUTは自動的に「SOURCE」に固定されます。

⑧ MASTER VOLUMEつまみ［52］

音量を調整します。別室（ZONE 2）には影響しません。

⑨ VIDEO 5/VIDEO CAM INPUT端子［22］

ビデオカメラやゲーム機器などを接続します。

⑩ 入力切り換えボタン（DVD、VIDEO 1～5、TAPE、FM、AM、PHONO、CD）とインジケーター［28、50～52］

ソースを選びます。ZONE 2端子や録音出力端子（REC OUT）用のソースを選ぶには、ZONE 2またはREC OUTボタンを押してから、入力切り換えボタンを押します。
インジケーターが赤く点灯している入力はREC OUTに出力されており、緑色に点灯している入力はZONE 2に出力されています。

オーディオ　セレクター
⑪ AUDIO SELECTORボタン［53］

オーディオ入力信号の種類を選びます。

押すたびに、Auto→Multich→Analogと表示が切り換わります。

Auto（自動識別）：入力信号のデジタル/アナログを自動識別します。デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。この設定は、2-1. Digital Setupサブメニューのa. Digital Input（☞ 36ページ）で、いずれかのデジタル入力が選択されているとき有効です。

Multich（マルチチャンネル入力）：MULTI CHANNEL INPUT端子に接続したソース機器を再生するとき選びます。この設定は、2-2. Multichannel Setupサブメニューのa. Multichannel（☞ 38ページ）が「Yes」になっているとき有効です。

Analog（アナログ入力）：AUDIO IN端子に接続したソース機器を再生するとき選びます。この設定では、同じ機器からデジタル信号が入力されていても、アナログ信号を選択します。

ホーンズ
⑫ PHONES端子［52］

ステレオヘッドホンを接続するための標準ステレオ端子です。左右フロントスピーカーの音声がヘッドホンに出力されます。ヘッドホンプラグを挿入するとスピーカーからの音は出なくなります。ヘッドホンでは、リスニングモードは「Direct」「Stereo」「Mono」のみです。また、サラウンドを選んでいるときにヘッドホンプラグを挿入すると、リスニングモードは自動的に「Stereo」になり、スピーカーへの出力が停止します。ヘッドホンプラグを抜くと、元のリスニングモードに戻ります。

アップサンプリング
⑬ UPSAMPLINGインジケーター［44］

アップサンプリング処理時に点灯します。
この機能は、入力ソースがAnalog/PCMで、リスニングモードがステレオまたはサラウンド（ドルビープロロジック II）のときに働きます。

⑭ リモコン受光部［9］

チューニング
⑮ TUNING（▲/▼）ボタン、PRESET（◀/▶）ボタン、カーソル（◀/▶/▲/▼）ボタン［30、50、51］

放送局をチューニングするときに▲/▼ボタンを使います。受信周波数は表示部に表示され、FMの場合は100kHz単位、AMの場合は9kHz単位で変わります。

FMの場合は ▲（または▼）ボタンをしばらく押してから手をはなすと、自動的に周波数が上がり（下がり）、放送を受信すると止まります。（自動受信）
メニュー操作時は、カーソル（反転された項目）を上下に移動します。

MEMORYボタンで登録した放送局を選ぶときに◀/▶ボタンを使います。
メニュー操作時は、TUNING（▲/▼）ボタンで選択した値や項目を選択します。

また、SETUPボタンを押したときには、カーソル表示が点灯し、メニュー操作ボタンとして使用します。

セットアップ
⑯ SETUPボタン［30］

ボタンを押すと、メニュー操作状態になり、カーソル（◀/▶/▲/▼）表示が点灯ます。表示窓とテレビ画面にメニュー項目が表示されます。

エンター
⑰ ENTERボタン［30、51］

メニュー操作時、選択している項目の画面を表示します。

リターン
⑱ RETURNボタン［30］

メニュー操作時に押すと、ひとつ前の画面に戻ります。メイン画面で押すと、メニュー操作を終了します。

メモリー
⑲ MEMORYボタン［51］

現在受信しているFM/AM放送局のプリセットチャンネルへの登録や、登録の取り消しを行います。

エフエム　モード
⑳ FM MODEボタン［51］

FMステレオ放送を受信している場合、音が途切れたり雑音が多いとき、モノラルにします。ボタンを押すたびに、AUTO表示が点灯/消灯し、STEREO MODEのオート/モノラルが切り換わります。

㉑ リスニングモードボタン［52］

リスニングモードを選びます。

STEREO：通常のステレオ音声になります。

SURROUND：ドルビープロロジックII、Neo:6、ドルビーデジタル、DTS、AACを聞くとき選びます。

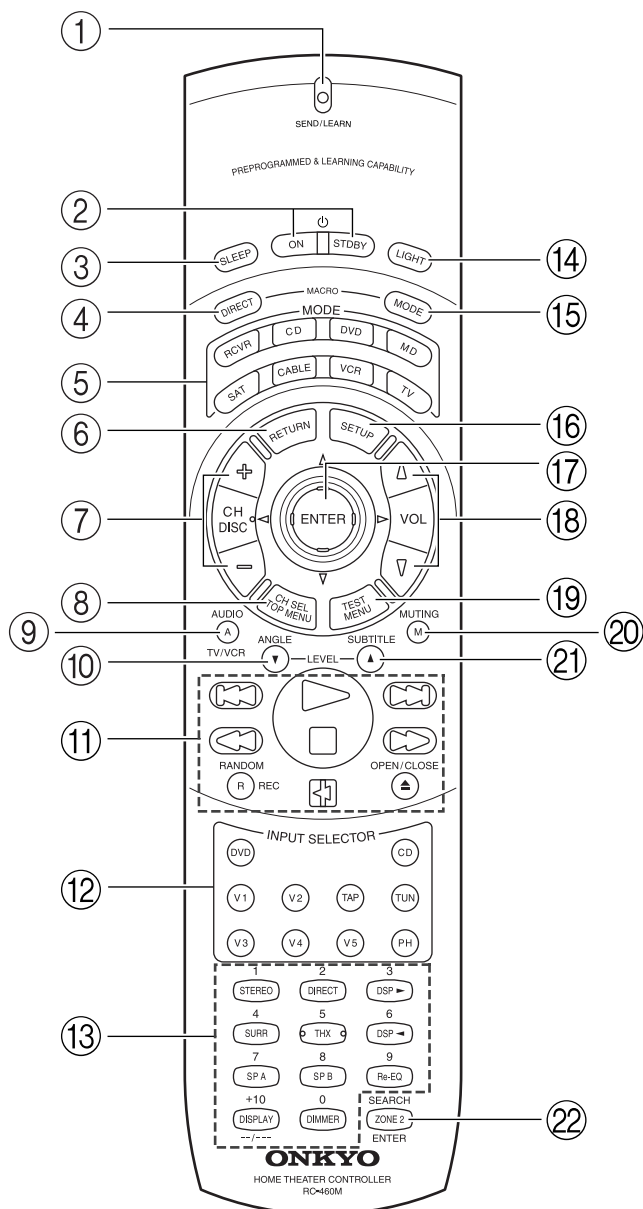
THX：THXで聞くとき選びます。

DSP ◀/▶：前後のリスニングモードに切り換えます。

ダイレクト
㉒ DIRECTボタン［52］

音質調整回路を通さないダイレクトな音になります。
DIRECTモードでは、1-1. Speaker Configサブメニューのa. Subwoofer（☞32ページ）が「Yes」に設定されていても、サブウーファーから音は出ず、左右チャンネルのソースがそのまま左右のスピーカーへ出力されます。

マルチチャンネル入力信号再生時にも、音質調整回路は通りません。

リモコン

① SEND/LEARNインジケーター

信号送信時に赤く点灯します。また、リモコンの電池の残りが少なくなるとボタンを押したときに点滅します。

② ON/STDBYボタン

ONボタン：本機の電源を入れます。

STDBYボタン：本機をスタンバイ状態にします。

③ SLEEPボタン

スリープ時間を設定します。
一定時間経過後に自動的に本機の電源が切れるように設定できます。SLEEPボタンを1回押すと90分後に本機の電源が切れます。その後、SLEEPボタンを1回押すごとに本体の電源が切れるまでの時間が10分ずつ短くなります。スリープ機能が有効になっているときにSLEEPボタンを押すと、電源が切れるまでの時間が表示されます。表示時間が10分より短くなった時にSLEEPボタンを押すと、スリープ機能が解除されます。

④ DIRECT MACROボタン

ダイレクトマクロ機能の設定や実行時に押します。

⑤ MODE（モード切り換え）ボタン

操作する機器を選びます。押すと8秒間緑色に点灯します。また、ボタンを押したときに現在選ばれているMODEボタンが緑色に点灯します。

⑥ RETURNボタン

設定を確定し、1つ前の画面に戻ります。

⑦ CH +/– /DISC+ボタン

チューナーのプリセットチャンネルを選択します。
CDチェンジャーのディスクを選択します。

⑧ CH SEL/TOP MENUボタン

スピーカーセットアップ時は、スピーカーを選択します。
DVD操作時は、メニューを表示します。

⑨ AUDIO/TV/VCRボタン

オーディオ入力信号の種類を選びます。押すたびにAuto→Multich→Analogと表示が切り換わります。

他機のリモコン信号を記憶させるときは、TV/VCR切り換えモードを記憶させます。

⑩ ANGLE/LEVEL ▼ ボタン

マルチアングル再生対応のDVD操作時、カメラアングルを選びます。
CH SELボタンで選択したスピーカーのレベルを下げます。

⑪ CD/TAPE/DVD/MD 操作ボタン

本機にRI接続したオンキヨー製品を操作します。

⑫ INPUT SELECTOR（入力切り換え）ボタン

入力ソースを選びます。

⑬ 数字ボタン/STEREO/DIRECT/DSP◀/▶/SURR / THX/SPA/SPB/Re-EQ/DISPLAY/DIMMERボタン

曲番などの数字を指定します。

リスニングモード選択、スピーカーシステムの切り換え、表示窓の明るさ調整（DIMMER）なども行えます。

STEREO：リスニングモードをステレオに切り換えます。現在のソースのListening Mode Preset（☞40ページ）もステレオに変わります。

リスニングモードがステレオの時

MPEG-2 AAC (音声多重)再生時
Multiplex設定を次のように切り換えます。
Main（主音声）→ Sub（副音声） → Main+Sub（主音声+副音声）

DIRECT：リスニングモードをダイレクトに切り換えます。現在のソースのListening Mode PresetもDirectに変わります。

DSP◀/▶：リスニングモードを次のように切り換えます。
Mono → Direct → Stereo → Theater-Dimensional → Surround* → THX* → Mono Movie → Enhanced 7 → Orchestra → Unplugged → Studio-Mix → TV Logic → All Ch Stereo → Mono･･･
現在のソースのListening Mode Presetも変わります。

* その時の信号フォーマットによって表示は異なります。

SURR：リスニングモードを入力信号に合ったサラウンド（Dolby Digital、Dolby Pro Logic II、DTSまたはAAC）に切り換えます。現在のソースのListening Mode Presetもサラウンドに変わります。

リスニングモードがサラウンドの時

• DTSソース再生時
DTS-ESのAuto（自動切換）→ On → Offを切り換えます。

• Analog/PCMソース再生時
Pro Logic II Movie → Pro Logic II Music → DTS Neo6:Cinema → DTS Neo6:Musicを切り換えます。

• D.F.2chソース再生時
Pro Logic II Movie → Pro Logic II Music

THX：リスニングモードをTHXに切り換えます。

リスニングモードがTHXの時

• ドルビーデジタル／AACソース再生時

THX サラウンドEX再生が可能なソースのTHX サラウンドEXの動作モードを切り換えます。
Auto → On→ Off（ドルビーデジタル再生時）
On→ Off（AACソース再生時）

• Analog/PCMソース再生時
THX処理のためのデコードモードを切り換えます。
Pro Logic II Movie → DTS Neo6:Cinema

• DTSソース再生時
DTS-ESのモードを切りかえることによって、DTS THX Cinema、DTS-ES Discrete6.1 THX Cinema、DTS-ES Matrix6.1 THX Cinemaを楽しむことができます。
DTS-ESのAuto（自動切換）→ On → Off
サラウンドバックスピーカーを接続していないときは、THX Surround EX、DTS-ES Discrete 6.1、DTS-ES Matrix 6.1は選べません。

SPA/SPB：本機では使用しません。

Re-EQ：リスニングモード設定によって、Re-EQのオン/オフを切り換えます。
映画館用にミキシングされた音声をホームシアターのスピーカーで再生すると、高音域が強調される傾向があります。Re-EQは、高音域をホームシアター音声用に補正します。

DISPLAYボタン： 表示を切り換えます。（☞11ページ「DISPLAYボタン」）

DIMMERボタン： 表示部の明るさを調整します。3段階の調整ができます。

⑭ LIGHTボタン

リモコンのボタンを点灯/消灯させます。

⑮ MODE MACROボタン

マクロ機能の設定や実行時に押します。

⑯ SETUPボタン

SETUPメニューを呼び出します。

⑰ ▲/▼/◀/▶、ENTERボタン

メニュー操作時、カーソル位置を上下に移動します。左右に倒すと、設定項目が変更されます。

ENTERボタンを押すと、次の項目に進みます。

⑱ VOL ▵/▿ ボタン

音量を調整します。

⑲ TEST/MENUボタン

スピーカーの出力レベルを設定するときに使います。LEVEL ▲/▼ボタン、CH SELボタンと合わせて使用すれば、OSDメニューを使用せずにスピーカーレベルを調節できます。
TESTボタンを押すとザーというテスト音が出力されますので、LEVEL ▲/▼ボタンで音量を調節してください。CH SELボタンは、スピーカーの切り換えに使用します。
DVDを選んでいるときは、DVDのメニューを表示します。

⑳ MUTINGボタン

音を一時的に小さくします。
音楽を聞いているときに、電話がかかってきてすぐに音を下げたいときなどに役立ちます。ボタンを押すと、本機の表示部にMutingの表示が現れ、スピーカーとヘッドホンの音声出力が消えます。もう一度押すと、元の音量に戻ります。

㉑ SUBTITLE/LEVEL ▲ボタン

DVD操作時、DVDビデオの字幕言語を選びます。
スピーカーセットアップ時は、CH SELボタンで選択したスピーカーのレベルを上げます。

㉒ ZONE 2/SEARCH/ENTERボタン

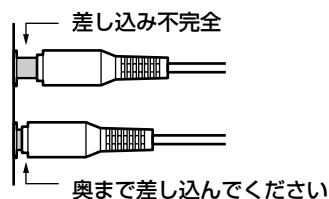
SEARCH：DVD操作時は、再生したい部分を探します。

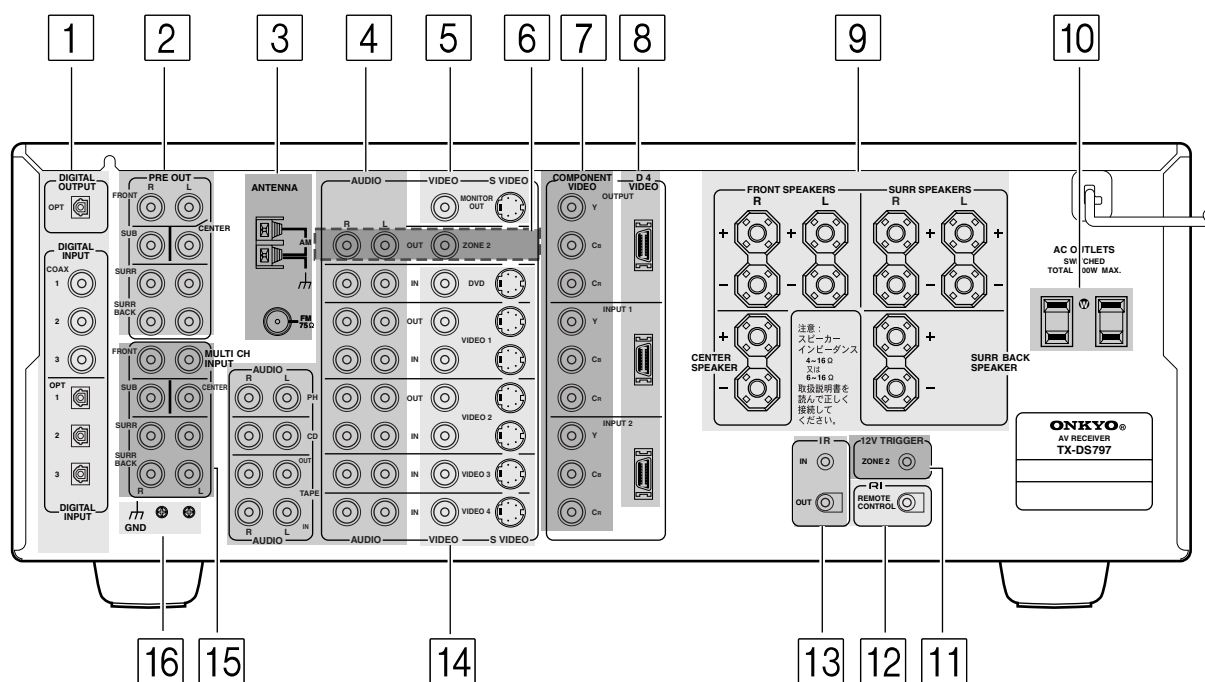
ZONE 2：RCVR選択時は、ZONE 2の操作をします。

ENTER：MD操作時は、選曲を確定します。

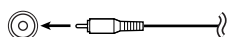
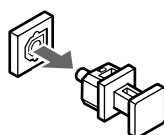
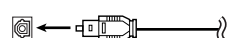
リアパネルの接続端子

ここでは、リアパネルの端子およびその使用方法について説明します。AV機器を接続する前に必ずこの章を読み、各機器の接続方法の説明にお進みください（☞19ページ「各機器の接続例」）。

- **接続する機器に付属の説明書も必ずお読みください。**
- **電源コードは、他のすべての接続が終わるまで接続しないでください。**
- **入力端子は、赤いコネクター（Rの表示）を右チャンネル、白いコネクター（Lの表示）を左チャンネル、黄色のコネクター（Vの表示）をビデオチャンネルに接続してください。**
- **コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因となります。**

- **ビデオコード、オーディオ用ピンコード類は、電源コードやスピーカーコードと一緒に束ねないでください。音質や画質が悪くなることがあります。**

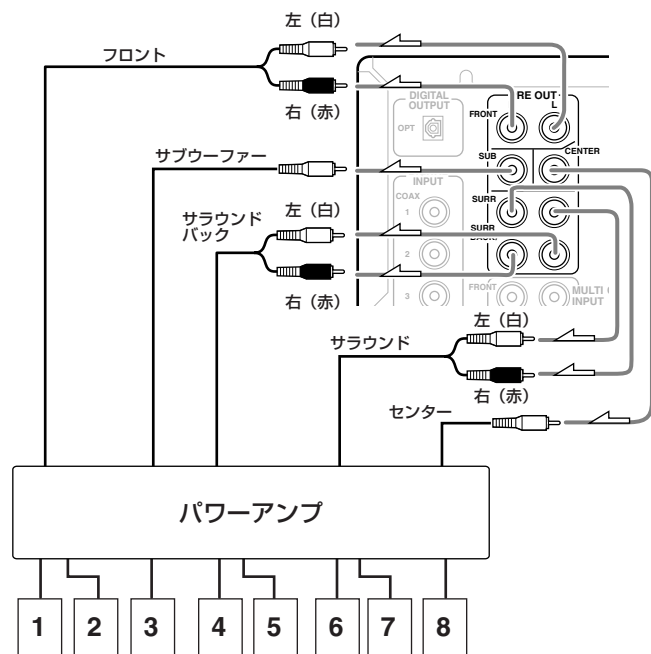
機能と接続

1 **DIGITAL INPUT/OUTPUT端子（COAX、OPT）**（デジタル インプット アウトプット　コアキシアル オプティカル）

リアパネルには、デジタル入力端子として、同軸端子（COAX）が3つ、光端子（OPT）が3つあります。これらの入力端子に、CDプレーヤー、LDプレーヤー、DVDプレーヤーなどのデジタルソース機器を接続します。デジタル出力端子には、MDレコーダー、CDレコーダー、DATなどを接続します。

COAX　同軸ケーブル（RCAタイプ）

OPT　光ケーブル

光デジタル入力端子/出力端子
光デジタル端子には保護用キャップが取り付けられています。接続時は、このキャップを取り外してください。使用しない場合、キャップを元どおりに取り付けてください。

- REC OUTやZONE 2を使用するときは、アナログ接続が必要です。デジタル接続だけでなくアナログ接続もしてください。
- 光入力端子または出力端子を使用する場合、保護用キャップを取り外した後、なくさないように保管してください。端子を使用しない場合、キャップを元どおりに取り付けてください。
- 光入力端子または出力端子に接続する場合、必ず光ケーブルを使用してください。

2 PRE OUT端子

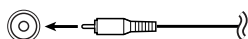
本機をプリアンプとして使用するときに、パワーアンプを接続します。
パワーアンプを接続すると、本機だけでは出力できない大音量で再生できるようになります。パワーアンプを使用する場合、対応するパワーアンプに各スピーカーを接続してください。

1. 左フロントスピーカー
2. 右フロントスピーカー
3. サブウーファー
4. 左サラウンドバックスピーカー
5. 右サラウンドバックスピーカー
6. 左サラウンドスピーカー
7. 右サラウンドスピーカー
8. センタースピーカー

3 ANTENNA端子

FMアンテナとAMアンテナを接続します。（☞26ページ「アンテナを接続する」）

4 AUDIO IN/OUT端子

アナログ音声の入出力端子です。音声入力は8系統あり、音声出力は3系統あります。音声入出力端子の接続には、RCAタイプのオーディオ用ピンコードが必要です。

RCAタイプ

- ビデオデッキなどのビデオ機器を接続する場合、オーディオ用ピンコードとビデオコードは同じ系統の端子（たとえばVIDEO 3）に接続してください。
- 本機のPHONO（PH）入力端子は、ムービングマグネット（MM）カートリッジを使用するレコードプレーヤー用に設計されています。

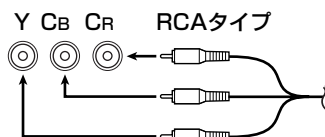
5 MONITOR OUT端子

モニター出力には、コンポジット映像端子とS映像端子があります。テレビまたはプロジェクターを接続することができます。

6 ZONE 2 AUDIO/VIDEO OUT端子

別室(ZONE 2)で使用する機器を接続します。接続方法については、「ZONE 2スピーカーを接続する」（☞25ページ）をご覧ください。

7 COMPONENT VIDEO INPUT/OUTPUT端子

DVDプレーヤーなどの映像機器にコンポーネント映像端子がある場合、コンポーネント信号（Y、C_B、C_R）を直接入力できます。コンポーネント映像出力端子は、テレビまたはプロジェクターのコンポーネント入力端子に接続します。

8 D4 VIDEO INPUT/OUTPUT端子

BSデジタル受信機などにD端子（D1～D4）がある場合、信号を直接入力できます。D出力端子は、テレビまたはプロジェクターのD4入力端子に接続します。

ご注意

D4 VIDEO INPUT/OUTPUT端子とCOMPONENT VIDEO INPUT/OUTPUT端子は内部で並列に接続されていますので、同時に使用することはできません。

9 SPEAKERS端子

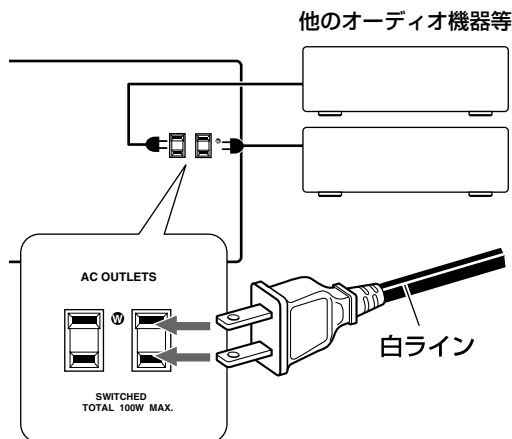
左右フロント、センター、左右サラウンド、サラウンドバックの各スピーカーを接続します。

ご注意

接続するスピーカーにより、スピーカーインピーダンスの設定をしてください。（☞31ページ）

10 AC OUTLETS（電源コンセント）

エーシーアウトレッツ

本機裏面の電源コンセントに他機の電源コードを接続することができます。他機の電源スイッチをオンのままにしておけば、本機のPOWER スイッチと連動させて他機の電源も入れたり切ったりすることができます。

ご注意

本機には2つの電源コンセントがありますが、合計で100Wを超える機器は絶対に接続しないでください。

接続する前に
本機の電源コンセントはより良い音で聞いていただくために、極性の管理がされています。以下のことに留意してつないでください。（他機の電源コードに極性表示がない場合はどちらを接続してもかまいません。）

- 他機の電源コードの白いラインなどの目印側を、本機の電源コンセントの広い方（Wマーク側）に合わせてください。

11 12V TRIGGER ZONE 2 端子

トリガー　ゾーン

本機がZONE 2モードのとき、この端子から12V/100mAの電圧／電流を出力します。

12 RI REMOTE CONTROL 端子

リモート　コントロール

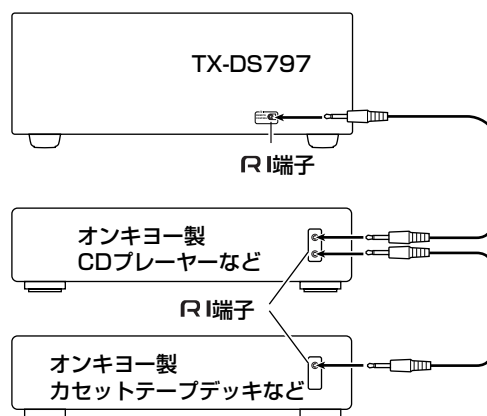
本機のRI端子は、同じRI端子を持つオンキヨー製品と接続するためのものです。RI接続した機器は、本機のリモコンで操作することができます。
さらに、次のようなシステム操作ができます。

電源オン／レディ機能
本機がスタンバイ状態のとき、RI接続した機器の電源を入れると、本機の電源が自動的に入り、入力ソースも接続機器に切り換わります。ただし、RI接続した機器の電源コードが本機の電源コンセント（AC OUTLETS）に接続されている場合や、本機の電源が入っている場合は、この機能は働きません。

ダイレクトチェンジ機能
RI接続した機器を再生すると、本機の入力ソースが自動的に再生中の機器に切り換わります。

電源オフ機能
本機をスタンバイ状態にすると、RI接続した機器すべてがスタンバイ状態になります。

ご注意

- RIシステム操作をするときは、ZONE 2は使用しないでください。
- MDレコーダーは本機のTAPE端子に接続してください。またその場合は、本機の入力をTAPEからMDに切り換えてください。（☞28ページ）
- 機器による接続順序は特にありません。
- RI接続した場合も、ピンコードでの接続は必要です。
- 製品によっては、RI接続しても一部の機能が働かないことがあります。

本機に RI接続した機器が2つの RI端子を持っている場合は、もう一方の RI端子にさらに RI端子付きの機器を接続することができます。

アイアールインアウト
13 IR IN/OUT端子

別室からリモコン操作したいときや本機をラックに入れたときに、リモコンセンサーを取り付けたり、リモコンでさらに別の機器を操作するための端子です。

ビデオ　イン　アウト
14 VIDEO IN/OUT端子

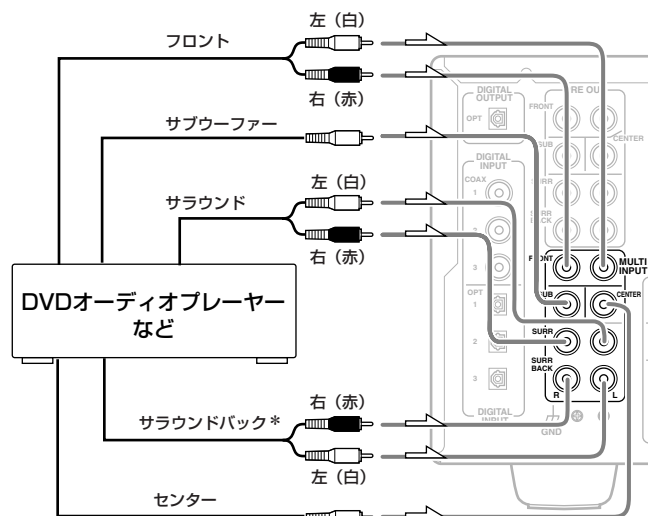
リアパネルには、5系統の入力と2系統の出力があり、それぞれにコンポジット映像端子とS映像端子があります。
2系統ある映像出力には、ビデオデッキ等の録画機器を接続します。

コンポジット映像端子

S映像端子

- ビデオデッキなどのビデオ機器を接続する場合、オーディオ用ピンコードとビデオコードは同じ系統の端子（たとえばVIDEO 3）に接続してください。
- フロントパネルには、VIDEO 5 INPUT端子があります。

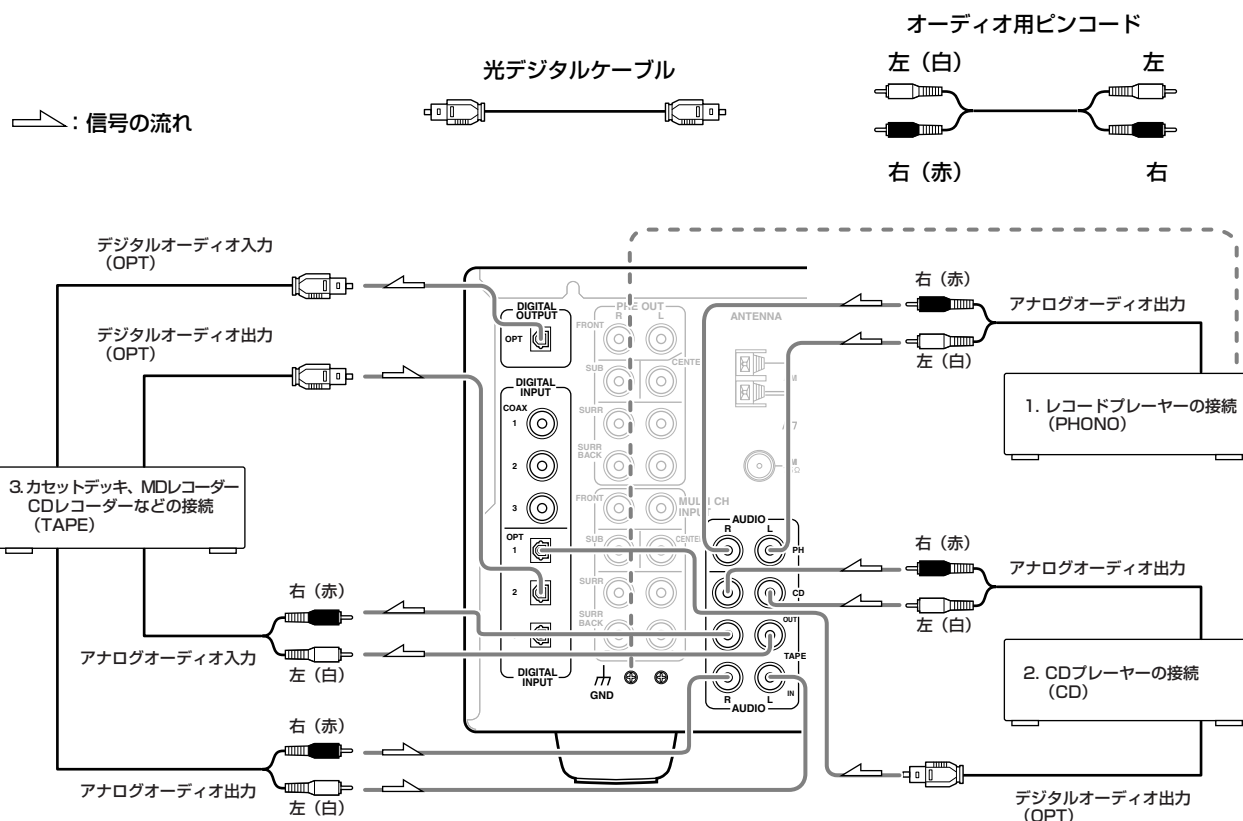
マルチ　チャンネルインプット
15 MULTI CH INPUT端子

5.1チャンネルまたは7.1チャンネルの外部デコーダーを接続することができます。

＊本機のSURR BACK SPEAKER端子へは、SURR BACK Rから入力した信号が出力されます。

グランド
16 GND端子

レコードプレーヤーを接続した場合、アース（接地）線を接続します。19ページの「レコードプレーヤーの接続」を参照してください。

各機器の接続例

ここでは本機に接続できる機器の接続方法について説明します。ここでの説明は一例です。各コネクターや端子の特性や各機器の特長を十分理解し、最適な方法で接続してください。

オーディオ機器を接続する

ここでは、本機にオーディオ機器を接続する例を説明します。本ページの図を参考にして接続してください。

1. レコードプレーヤーの接続（PH）

RCAタイプのオーディオ用ピンコードを使って、レコードプレーヤーの出力端子と本機のPH IN L/R端子を接続します。左チャンネルをL端子、右チャンネルをR端子に間違えないように接続してください。

ご注意

本機は、ムービングマグネット（MM）カートリッジを使用するレコードプレーヤー用に設計されています。レコードプレーヤーが正しく動作するように、アース（接地）線をGND端子に接続してください。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続するとノイズが大きくなることがあります。その場合、アース線は不要ですので接続しないでください。

2. CD プレーヤーの接続（CD）

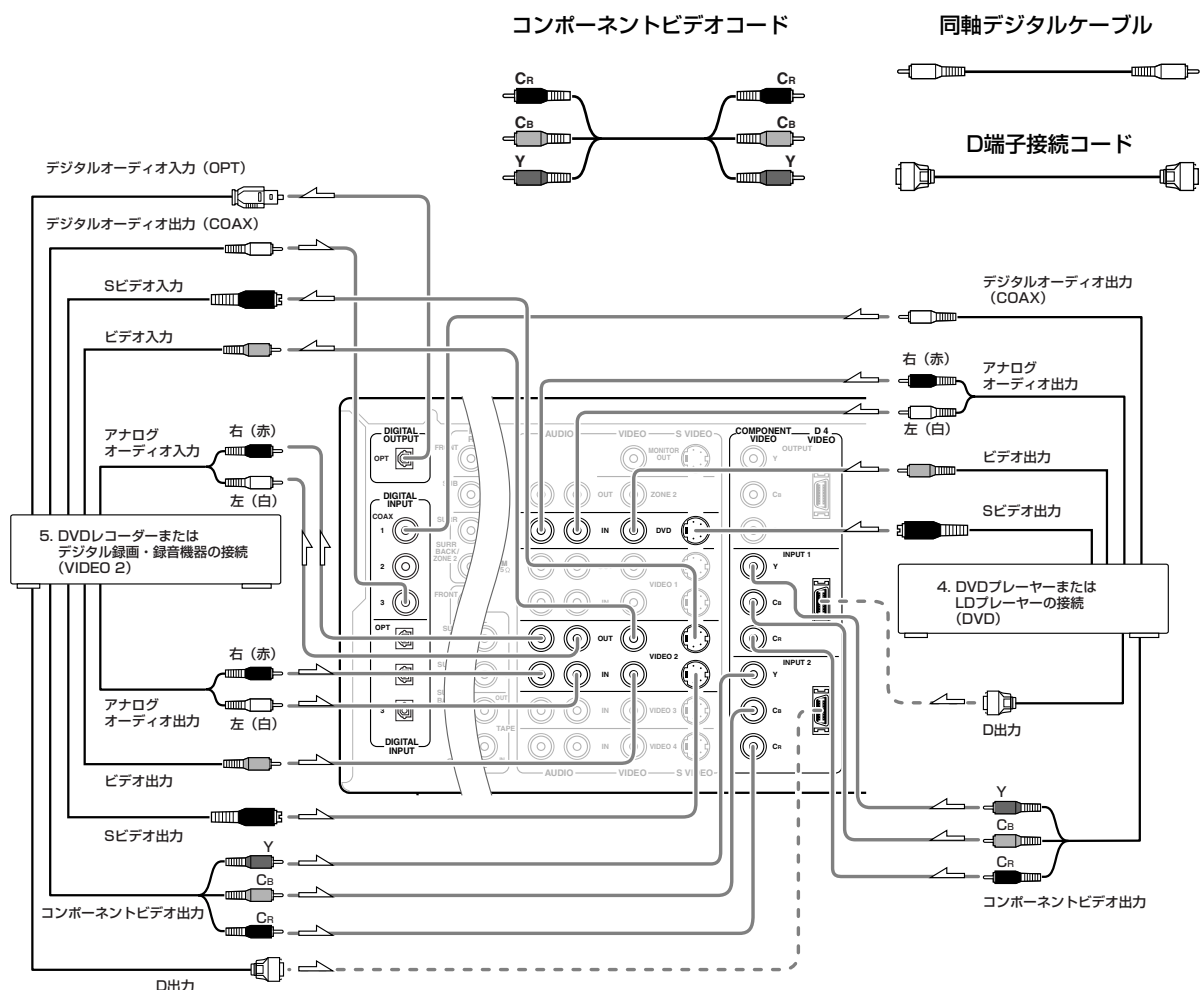
RCAタイプのオーディオ用ピンコードを使って、CDプレーヤーの出力端子と本機のCD I N L/R端子を接続します。左チャンネルをL端子、右チャンネルをR端子に間違えないように接続してください。
デジタル出力端子のあるCDプレーヤーの場合は、端子のタイプに合わせて、本機のDIGITAL INPUT（COAX）端子またはDIGITAL INPUT（OPT）端子に接続します。

CDのデジタル入力は、初期設定ではOPT 1に設定されています。OPT 1以外の端子にCDプレーヤーを接続したときは、2-1.Digital Setupサブメニュー（☞36 ページ）で設定を変更してください。

3. カセットデッキ、MDレコーダー、DAT、CDレコーダーの接続（TAPE）

RCAタイプのオーディオ用ピンコードを使って、各機器の出力端子（PLAY）を本機のTAPE IN L/R端子に、入力端子（REC）を本機のTAPE OUT L/R端子に接続します。左チャンネルをL端子、右チャンネルをR端子に間違えないように接続してください。
デジタル出力端子のある機器の場合は、端子のタイプに合わせて、本機のDIGITAL INPUT（COAX）端子またはDIGITAL INPUT（OPT）端子にも接続します。
TAPEのデジタル入力は、初期設定ではOPT 2に設定されています。OPT 2以外の端子に機器を接続したときは、2-1.Digital Setupサブメニュー（☞36 ページ）で設定を変更してください。
デジタル入力端子のある機器は、本機のDIGITAL OUTPUT（OPT）端子に接続すると、RECセレクターで選択された信号をデジタル録音できるようになります。

ご注意

本機のDIGITAL OUTPUT端子から出力される信号は、DIGITAL INPUT端子に入力されたデジタル信号のみです。

ビデオ機器を接続する

ここでは、本機にビデオ機器を接続する例を示します。本ページの図を参考にして接続してください。
映像信号の流れは、次のとおりです。

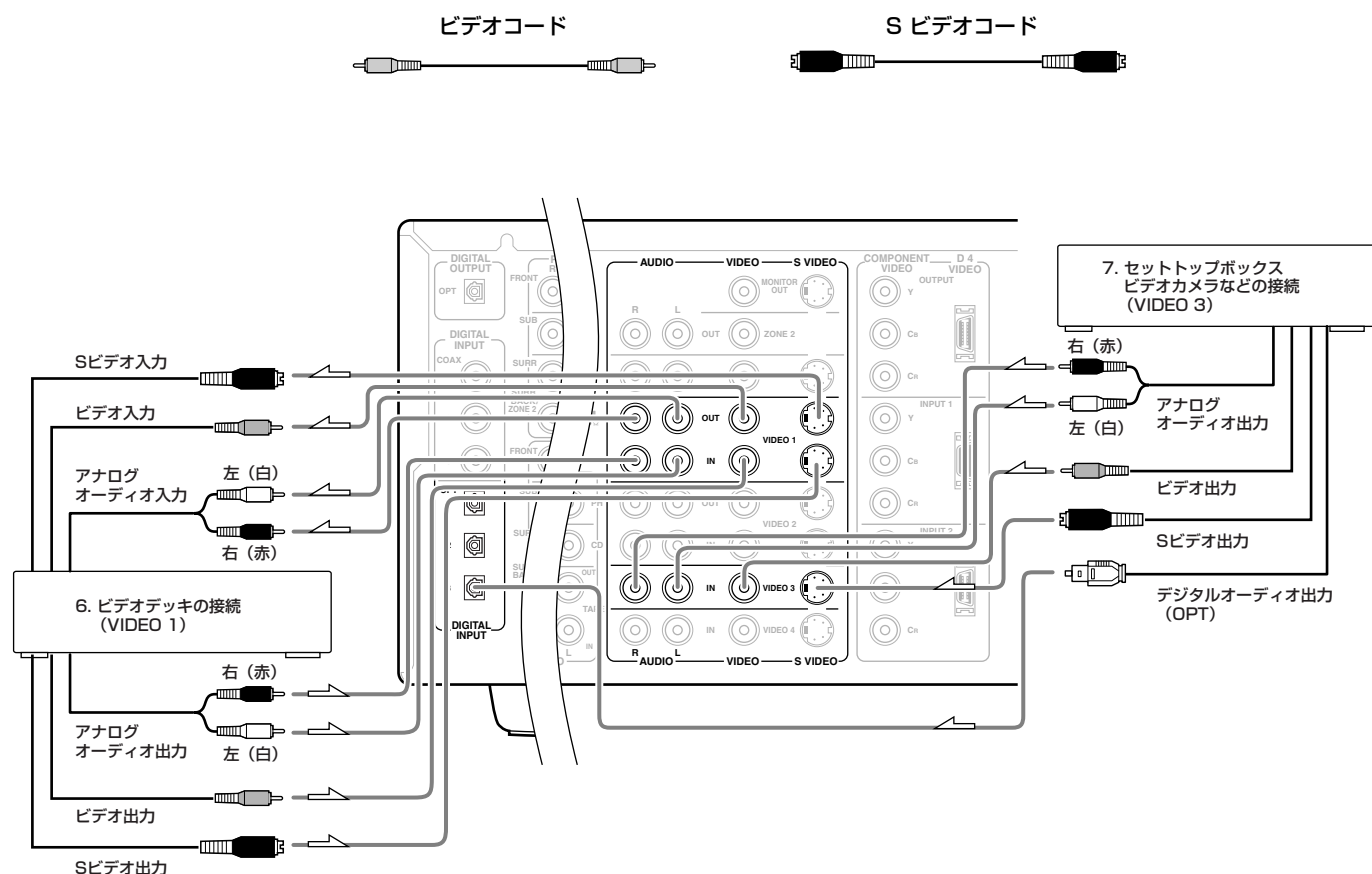
- VIDEO IN端子からの信号は、VIDEO OUTとS VIDEO OUT端子に出力されます。
- S VIDEO IN端子からの信号は、S VIDEO OUTとVIDEO OUT端子に出力されます。
- COMPONENT VIDEO INPUT端子からの信号は、COMPONENT VIDEO OUTPUTとD4 VIDEO OUTPUT端子に出力されます。お手持ちの映像機器と本機をコンポーネント接続しているときは、本機とテレビもコンポーネントまたはD4端子で接続してください。
- D4 VIDEO INPUT端子からのの信号は、D4 VIDEO OUTPUT端子とCOMPONENT VIDEO OUTPUT端子に出力されます。お手持ちの映像機器と本機をD4端子で接続したときは、本機とテレビもD4またはコンポーネント端子で接続してください。

ご注意

- D4 VIDEO INPUT/OUTPUT端子とCOMPONENT VIDEO INPUT/OUTPUT端子は内部で並列に接続されていますので、同時に使用することはできません。
- MONITOR OUTのVIDEO端子だけを接続した場合、コンポーネント映像端子からソース機器の信号を入力したときでも、映像は表示されません。また、MONITOR OUTのS VIDEO端子だけを接続した場合も、S映像は表示されません。

4. DVDプレーヤーまたはLDプレーヤーの接続（DVD）

RCAタイプのビデオコードを使って、DVDプレーヤー/LDプレーヤーの映像出力端子（コンポジット）と本機のDVD 、VIDEO IN端子を接続します。
DVDプレーヤー/LDプレーヤーにS映像端子がある場合は、S映像コードで本機のDVD S VIDEO IN端子に接続します。コンポーネント映像端子がある場合は、どちらかのCOMPONENT VIDEO INPUT端子に接続します。D端子がある場合は、本機のD4 VIDEO INPUT端子に接続します。
コンポーネント映像入力／D4映像入力は、初期設定ではINPUT 1に設定されています。INPUT 2に接続したときは、2-3 Video Setupサブメニュー（☞38 ページ）で設定を変更してください。

次に、RCAタイプのオーディオ用ピンコードでDVDプレーヤー/LDプレーヤーの音声出力端子と本機のDVD IN L/R端子を接続します。左チャンネルをL 端子、右チャンネルをR端子に間違えないように接続してください。
デジタル出力端子のあるDVDプレーヤー/LDプレーヤーの場合は、端子のタイプに合わせて、本機のDIGITAL INPUT（COAX）端子またはDIGITAL INPUT（OPT）端子にも接続します。
DVDのデジタル入力は、初期設定ではCOAX 1に設定されています。COAX 1以外の端子にDVDプレーヤーまたはLDプレーヤーを接続したときは、2-1.Digital Setupサブメニュー（☞36 ページ）で設定を変更してください。

5. DVD レコーダーなどのデジタル録画・録音機器の接続（VIDEO2）

RCAタイプのビデオコードを使って、機器の映像出力端子（コンポジット）と本機のVIDEO 2 IN端子を接続し、機器の映像入力端子と本機のVIDEO 2 OUT端子を接続します。
機器にS映像端子がある場合は、S映像コードで本機のS VIDEO 2 IN/OUT端子に接続します。
機器にコンポーネント映像端子出力がある場合は、どちらかのCOMPONENT VIDEO INPUT端子に接続します。
機器にD端子がある場合は、本機のD4 VIDEO INPUT端子に接続します。
コンポーネント映像入力／D4映像入力は、初期設定ではINPUT 2に設定されています。INPUT 1に接続したときは、2-3 Video Setupサブメニュー（☞38 ページ）で設定を変更してください。

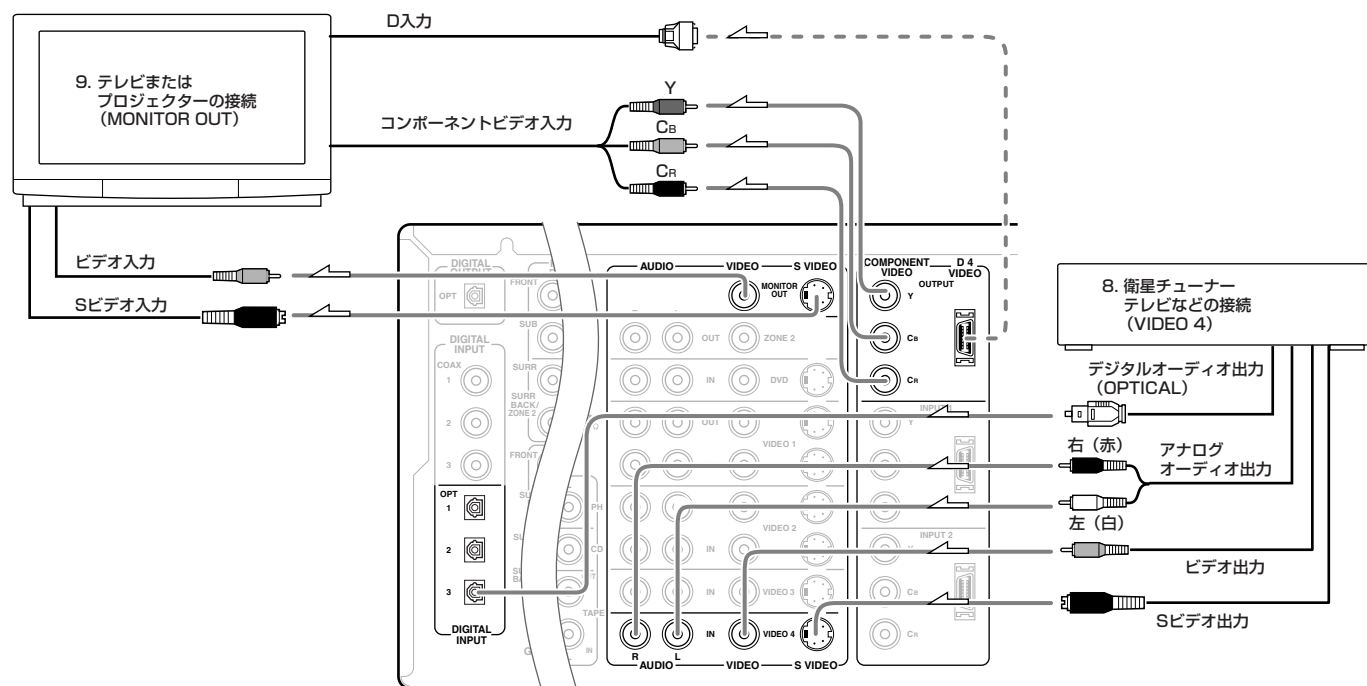
次に、RCAタイプのオーディオ用ピンコードで機器の音声出力端子と本機のVIDEO 2 IN L/R端子を接続します。左チャンネルをL 端子、右チャンネルをR端子に間違えないように接続してください。
機器にデジタル出力端子がある場合、機器のデジタル出力端子のタイプに合わせて、本機のDIGITAL INPUT（COAX）端子またはDIGITAL INPUT（OPT）端子にも接続します。
VIDEO 2のデジタル入力は、初期設定ではCOAX 3に設定されています。COAX 3以外の端子にデジタル機器を接続したときは、2-1.Digital Setupサブメニュー（☞36 ページ）で設定を変更してください。
デジタル入力端子のある機器を、本機のDIGITAL OUTPUT（OPT）端子に接続すると、RECセレクターで選択された信号をデジタル録音できるようになります。

ご注意

本機のDIGITAL OUTPUT端子から出力される信号は、DIGITAL INPUT端子に入力されたデジタル信号のみです。

6. ビデオデッキの接続（VIDEO1）

RCAタイプのビデオコードを使って、ビデオデッキの映像出力端子（コンポジット）と本機のVIDEO 1 IN端子を接続し、ビデオデッキの映像入力端子と本機のVIDEO 1 OUT端子を接続します。
ビデオデッキにS映像端子がある場合は、S映像コードで本機のS VIDEO 1 IN/OUT端子に接続します。コンポーネント映像出力端子がある場合は、どちらかのCOMPONENT VIDEO INPUT端子に接続します。D端子がある場合は、本機のD4 VIDEO INPUT端子に接続します。
コンポーネント映像入力／D4映像入力は、初期設定ではINPUT 2に設定されています。INPUT 1に接続したときは、2-3 Video Setupサブメニュー（☞38 ページ）で設定を変更してください。

次に、RCAタイプのオーディオ用ピンコードでビデオデッキの音声出力端子と本機のVIDEO 1 IN L/R端子を接続し、ビデオデッキの音声入力端子と本機のVIDEO 1 OUT L/R端子を接続します。左チャンネルをL 端子、右チャンネルをR端子に間違えないように接続してください。
VIDEO1のデジタル入力は、初期設定ではCOAX 2に設定されています。COAX 2以外の端子に機器を接続したときは、2-1.Digital Setupサブメニュー（☞36 ページ）で設定を変更してください。

7、8. 衛星放送チューナーやテレビ、セットトップボックスなどの接続（VIDEO 3またはVIDEO 4）

RCAタイプのビデオコードを使って、機器の映像出力端子（コンポジット）と本機の映像入力端子を接続します。
機器にS映像端子がある場合は、S映像コードで本機のS VIDEO 3（または4） IN端子に接続します。
機器にコンポーネント映像端子がある場合は、どちらかのCOMPONENT VIDEO INPUT端子に接続します。
機器にD4映像出力端子がある場合は、本機のD4 VIDEO INPUT端子に接続します。

次に、RCAタイプのオーディオ用ピンコードで機器の音声出力端子と本機のVIDEO 3（またはVIDEO 4） IN L/R端子を接続します。左チャンネルをL端子、右チャンネルをR端子に間違えないように接続してください。

機器にデジタル出力端子がある場合、機器のデジタル出力端子のタイプに合わせて、本機のDIGITAL INPUT（COAX）端子またはDIGITAL INPUT（OPT）端子にも接続します。
VIDEO 3のデジタル入力は、初期設定ではOPT 3に設定されています。OPT 3以外の端子にデジタル機器を接続したときは、2-1.Digital Setupサブメニュー（☞36 ページ）で設定を変更してください。

VIDEO4のデジタル入力は、初期設定では何も割り当てていません（----）。この端子に機器を接続したときは、2-1.Digital Setupサブメニュー（+36 ページ）で設定を変更してください。

9. テレビまたはプロジェクターの接続（MONITOR OUT）

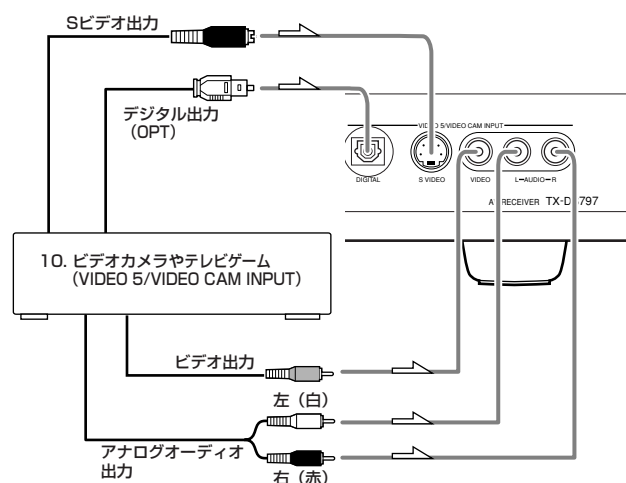
RCAタイプのビデオコードを使って、テレビの映像入力端子（コンポジット）と本機のMONITOR OUT端子を接続します。

テレビにS映像入力端子がある場合は、S映像コードで本機のS VIDEO MONITOR OUT端子に接続します。機器にコンポーネント映像入力端子がある場合は、COMPONENT VIDEO OUTPUT端子に接続します。D4映像入力端子がある場合は、本機のD4 VIDEO OUTPUT端子に接続します。

ご注意

本機のOSDメニューは、MONITOR OUTにのみ出力されます。コンポーネント映像出力やD4映像出力端子からは、出力されません。

10. ビデオカメラやテレビゲームの接続（VIDEO 5）

RCAタイプのビデオコードを使って機器の映像出力端子（コンポジット）と本機の映像入力端子を接続します。
機器にS映像端子がある場合は､S映像コードで本機のS VIDEO 5 VIDEO CAM INPUT端子に接続します。
VIDEO 5のデジタル入力は、フロントパネルの光入力固定です。

スピーカーを接続する

まずお持ちのスピーカーを配置してください。次に本機との接続をします。スピーカーの取扱説明書をご覧になりながら、正しい配置と接続をしてください。
サラウンド再生には、スピーカーシステムの構成内容と配置を対応したものにする必要があります。

THX Surround EX の再生には、ルーカスフィルム社認定 THX スピーカーシステムのご使用をお勧めします。

理想的なスピーカー構成

- **左右フロントスピーカー**
- **センタースピーカー**
  映画におけるセリフの中央定位の役割をになう重要なスピーカーです。
- **左右サラウンドスピーカー**
  音の立体的な動きを表現し、背景をイメージした環境音、また場面を盛り上げる効果音を作りだして臨場感を高めます。
- **サラウンドバックスピーカー**
  THX Surround EXで楽しむときに必要です。
  左右サラウンドバックスピーカーを使用するには、別売りの2チャンネルパワーアンプが必要です。
  THXサラウンドEXのパフォーマンスを最大限引き出すため、ルーカスフィルム/THXでは2本のサラウンドバックスピーカーをご使用になるように推奨しています。ただし、2本のサラウンドバックスピーカーを使用するには、プリアンプ出力端子に外部ステレオアンプを接続する必要があります。
  また、リスニングルームに2本のスピーカーを設置できない場合には、本機の内蔵アンプによりサラウンドスピーカーを1本使用することもできます。
- **サブウーファー**
  迫力のある重低音効果を最大限に発揮します。

サラウンド音声を再現するのに最低限必要なスピーカー構成

- **左右フロントスピーカー**
- **左右サラウンドスピーカー**
  センタースピーカーやサブウーファーの音声は、左右フロントスピーカーに最適に配分され、可能な限り最高のサラウンド音声を再現します。

スピーカーの配置

スピーカーの配置は、実際には部屋の大きさや壁の材質などによっても違ってきますが、ここでは各スピーカーの基本的な配置例と配置するポイントを紹介します。
より高品位な音場を再生するために、リスニングポジションと各スピーカーごとの距離の差は6.0m以内にしてください。

設置のポイント

左右フロントスピーカーとセンタースピーカー

- 3つのスピーカーがすべて同じ高さになるように設置する。
- 音楽や映画を鑑賞する位置と姿勢で、視聴者の耳に向かうように配置する。
- 左右フロントスピーカーは、同じ距離に配置する。

左右サラウンドスピーカー

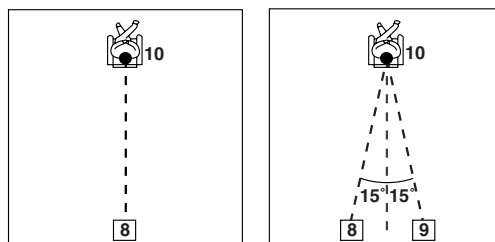
- 視聴者の耳より1メートル高くなるように設置する。

サラウンドバックスピーカー

- 視聴者の耳より1m高い位置にスピーカーを配置する。
- 視聴者と各スピーカーの角度が約15°になるように、視聴者の後部に配置する。（左右サラウンドスピーカーの場合）

左右のサラウンドバックスピーカーを使用するには、別売の2チャンネルパワーアンプが必要です。

（サラウンドバックスピーカー1本の場合）

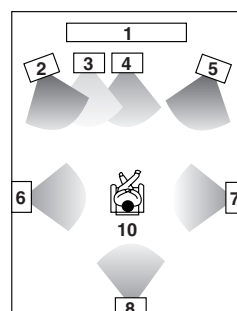
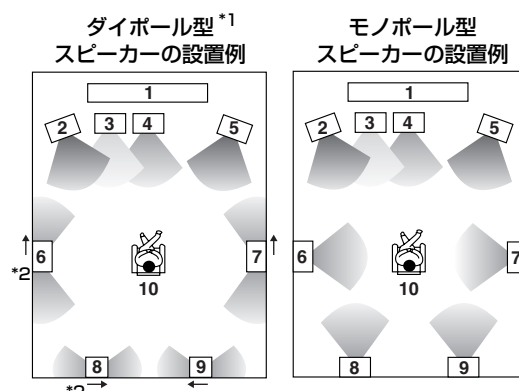
（サラウンドバックスピーカー2本の場合）

サブウーファー

低音の効果を最大限に得るためには、サブウーファーを設置してください。

（サラウンドバックスピーカー1本の場合）

（サラウンドバックスピーカー2本の場合）

ダイポール型 *1 スピーカーの設置例

モノポール型 スピーカーの設置例

1 テレビまたはスクリーン
2 左フロントスピーカー
3 サブウーファー
4 センタースピーカー
5 右フロントスピーカー
6 左サラウンドスピーカー
7 右サラウンドスピーカー
8 左サラウンドバックスピーカーまたはサラウンドバックスピーカー（1本の場合）
9 右サラウンドバックスピーカー
10 リスニングポジション

*1 ダイポール型スピーカーとは、前と後ろなど、二つの方向に同じ音を出す、双指向性スピーカーのことです。

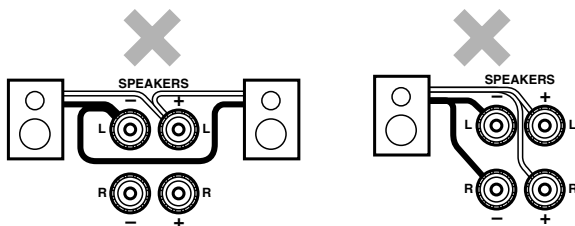
*2 矢印は、位相を表します。ダイポール型スピーカーには位相があり、多くは矢印表示が書いてあります。サラウンドスピーカーは矢印（↑）がスクリーンへ向かうように配置し、サラウンドバックスピーカ ーは、お互いの矢印（→）が向き合うように配置してください。

スピーカーを接続する

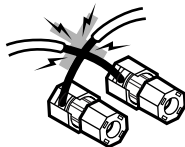
スピーカーの接続

スピーカーの配置が終わったら、今度は本機との接続をします。

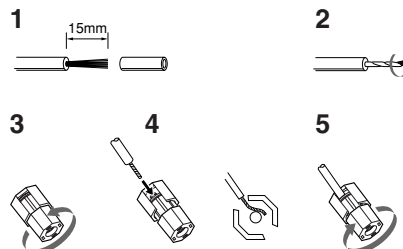
ご注意

- **本機には、インピーダンスが4Ω〜16Ωのスピーカーが接続できます。接続するスピーカーの中の1台でもインピーダンスが4Ω以上6Ω未満の場合は、必ずスピーカーインピーダンスの設定（☞31ページ）をしてください。**
- 1台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合、1台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。

危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスを絶対にショートさせないでください。

ご注意

- プラス（＋）とマイナス（－）を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続しないでください。音声が不自然になります。
- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。故障の原因になります。
- SURR BACK SPEAKER端子には、サウンドバックスピーカーを接続します。

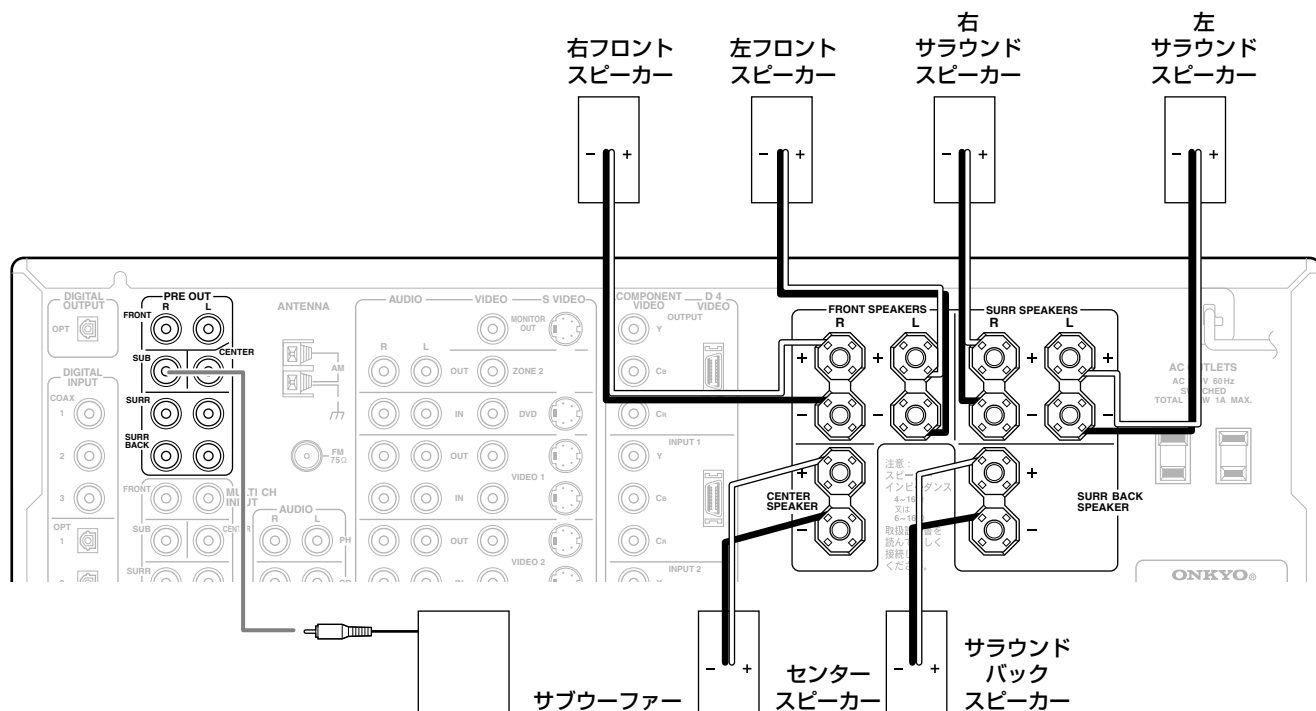
スピーカーコードの接続

1. スピーカーコードの被覆を15mmカットする
2. しん線の先端をしっかりとよじる
3. ねじをゆるめる
4. しん線を差し込む
5. ねじを締め付ける

サブウーファーの接続

パワーアンプ内蔵のサブウーファーは、PRE OUT SUBWOOFER端子に接続します。

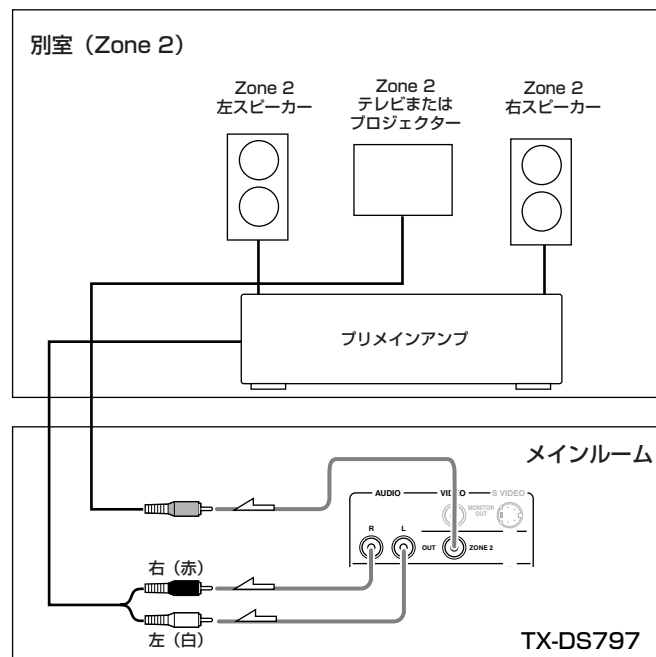
アンプを内蔵していないサブウーファーの場合は、アンプをPRE OUT SUBWOOFER端子に接続し、サブウーファーをアンプに接続してください。

ZONE 2スピーカーを接続する

ゾーン

はじめに

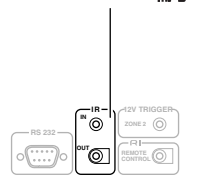
ZONE 2に別室用のスピーカーを接続すると、本機を設置している部屋で音楽を楽しむのと同時に、別室で別のソースを選んで音楽を楽しむことができます。
下図を参照し、手順どおりに接続してください。接続が終わるまで、機器の電源コードを接続しないでください。

本機と別室用の機器との接続

別室で使用するスピーカーを接続したプリメインアンプのライン入力を、本機のZONE 2 OUT端子に接続する

ご注意

本機のZONE 2 OUT端子は固定出力です。
音量は、別室（Zone 2）で使用するプリメインアンプ側で調整してください。

* 別室から本機をリモコン操作するには、IR IN端子を使いますが、この接続にはマルチルームシステム用のキットが必要です。2001年8月時点では、この端子は日本国内モデルでは対応していません。

IR IN/OUT端子

アンテナを接続する

ここでは付属のFM とAM アンテナの準備と接続をします。

- FM/AM アンテナの受信状態による調整や設置は、実際に放送を聞きながら行います。
- 調整しても受信状態がよくならない場合は、屋外アンテナの設置をお勧めします。

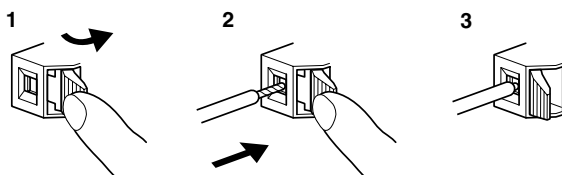
付属のAM室内アンテナの組み立て

図のように、AM室内アンテナを組み立てます。

- AM室内アンテナの接続方法については、次ページを参照してください。

溝に差し込む

AM アンテナ線の接続

1. アンテナ端子のレバーを押す
2. アンテナコード線の先を挿入する
3. 指を離すとレバーが元の位置に戻る

付属アンテナの接続

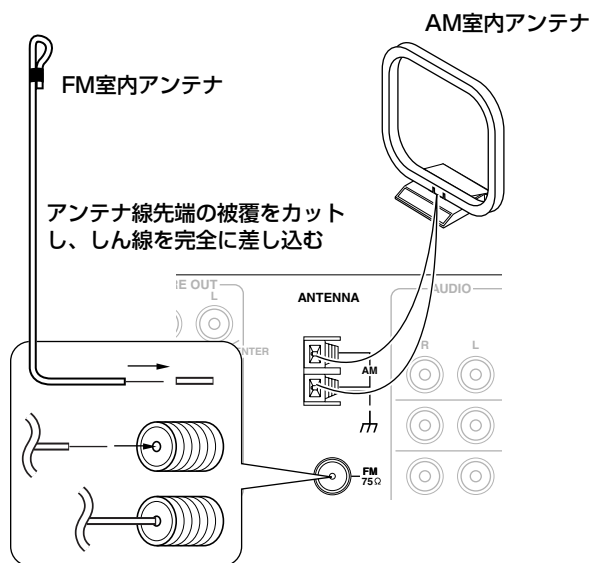
FM室内アンテナを接続する

FM室内アンテナは必ず室内で使用してください。FM室内アンテナを使用する場合、アンテナを伸ばし、信号が最もきれいに受信される方向に動かして、ひずみが最も小さい位置で壁などに固定します。

付属のFM室内アンテナできれいに受信できない場合、屋外アンテナの使用をお勧めします。

AM室内アンテナを接続する

AM室内アンテナは必ず室内で使用してください。AM室内アンテナは、信号が最もきれいに受信される方向と位置にセットします。本機、テレビ、スピーカーコード、電源コードからは、できるだけ離してください。

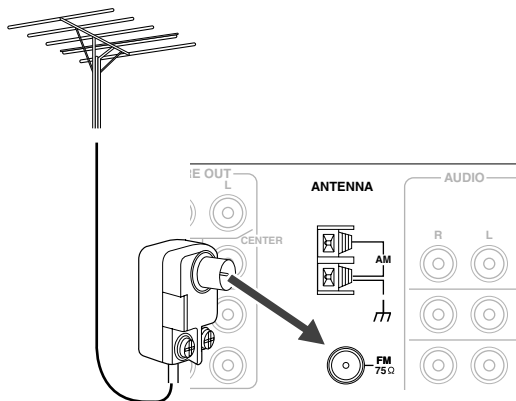
付属のAM室内アンテナできれいに受信できない場合、屋外アンテナの使用をお勧めします。

ヒント

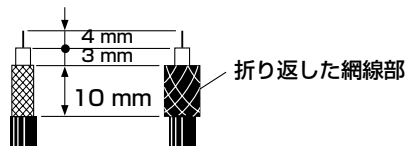
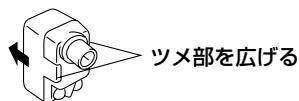
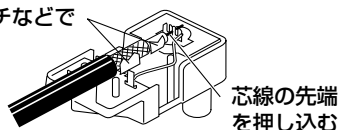
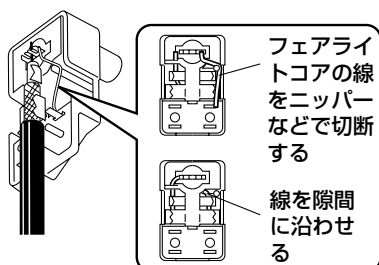
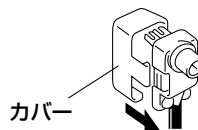
AMアンテナのコードは、分岐した先端を上下端子のどちらに接続してもかまいません。（スピーカーコードのように、極性などによる区別はありません。）

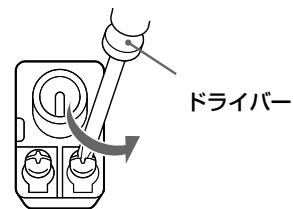
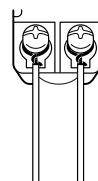
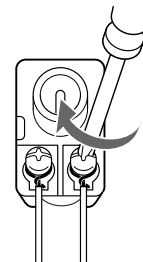
アンテナを接続する

FM屋外アンテナの接続

FM屋外アンテナは次の点を考慮して接続してください。

- なるべく建物の陰にならず、FM 放送電波が直接受信できるところに設置してください。
- 自動車のエンジンによる雑音を避けるため、道路からできるだけはなれたところに設置してください。
- アンテナ工事は技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
- 送電線の近くは危険ですので、絶対に設置しないでください。

市販のアンテナアダプターに同軸ケーブル（5C-2Vまたは3C-2V）を接続する場合

1. 同軸ケーブルの準備をする

2. アンテナアダプターのカバーをはずす

3. 同軸ケーブルをしっかりと固定する

4. フェライトコアを外す

5. カバーを取り付ける

市販のアンテナアダプターに平行フィーダー線を接続する場合

1. 両方のねじをゆるめる

2. 平行フィーダー線の先端をねじに巻きつける

3. 両方のねじを締める

AM屋外アンテナの接続

鉄筋住宅などでAM 室内アンテナだけでは受信状態が悪いときは、5m 以上のビニール被覆線を窓際や屋外に張ってください。

- AM 屋外アンテナを接続するときには、必ず付属のAM室内アンテナもそのまま接続しておいてください。

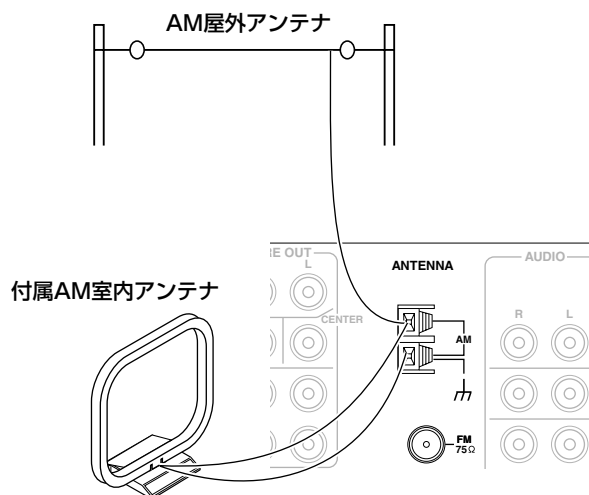
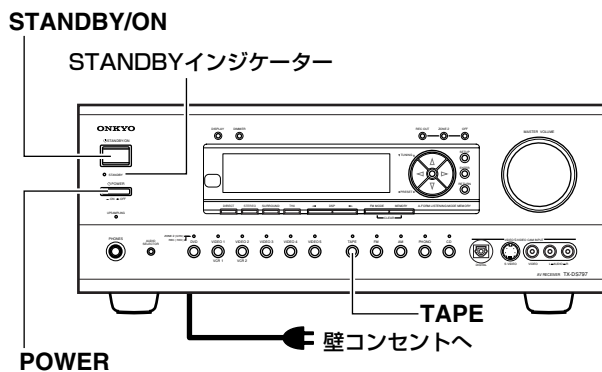
電源を入れる

STANDBY/ON

STANDBYインジケーター

TAPE

壁コンセントへ

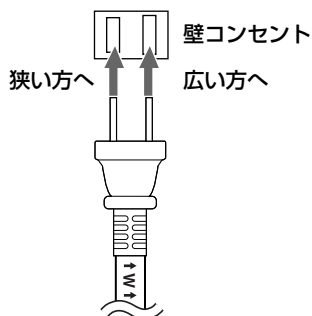
POWER

接続する前に

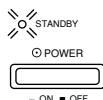
- 本機の電源コード以外の、すべての接続が完了していることを確認してください。
- 本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続するようにしてください。
- 電源コードはより良い音で聞いていただくために、極性の管理がされています。電源コードの矢印（↑W↑）の方を家庭用の電源コンセントの溝の広い方に合わせて差し込んでください。

ご注意 **本機を最初にお使いになるときは**

本機は主電源スイッチ（POWER ）を入（▁ ON）の状態で工場を出荷されますので、最初に電源コードのプラグをコンセントに差し込むとスタンバイインジケーターが点灯し、下記の手順2 と同じ状態になります。

■ **本機で電源を入れる**

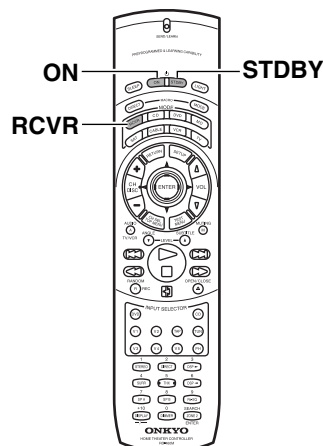
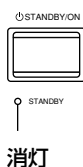
1. **家庭用ACコンセントに電源コードを接続する**

2. **POWERスイッチを押してスタンバイ状態にする**

   STANDBYインジケーターが点灯します。

3. **STANDBY/ONボタンを押して電源を入れる**

   表示部が点灯し、STANDBYインジケーターが消灯します。もう一度STANDBY/ONボタンを押すと、スタンバイ状態に戻ります。

STANDBY/ON

STANDBY

消灯

■ **リモコンで電源を入れる**

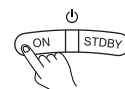
リモコンを操作する前に、「本機で電源を入れる」のステップ1〜2により本機をスタンバイ状態にしてください。

1. **RCVRボタンを押す**

   RCVRボタンが緑色に点灯します。

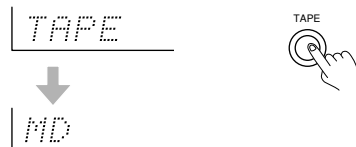
RCVR CD

2. **ONボタンを押して、本体の電源を入れる（スタンバイ状態を解除する）**

   スタンバイ状態に戻すには、STDBYボタンを押します。

■ **表示部の入力表示をTAPEからMDに切り換える**

本機のTAPE端子にMDレコーダーが接続されている場合、TAPEボタンを押したときに、MDと表示させることができます。表示を変えることによって、オンキヨー製のMDレコーダーをRI接続している場合は、RIシステム操作が可能になります。

表示を変えるには

TAPEボタンを、TAPE表示がMDに切り換わるまで（約3秒間）押し続けます。

表示を元に戻すには、同じ操作をします。
この設定は、接続したオンキヨー製のカセットデッキやMDレコーダーのRIシステム機能を有効にするために必要です。

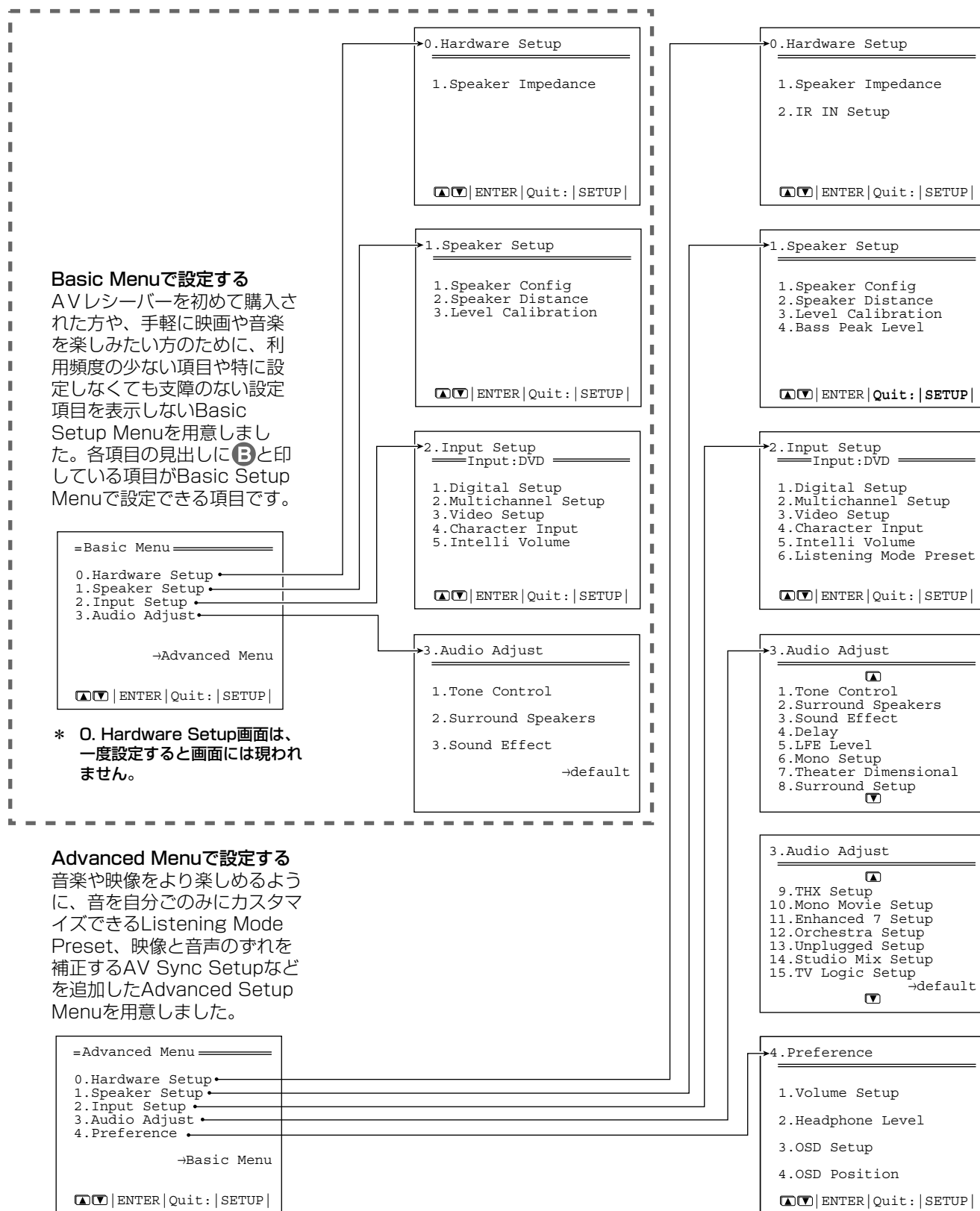
メモリー保持について

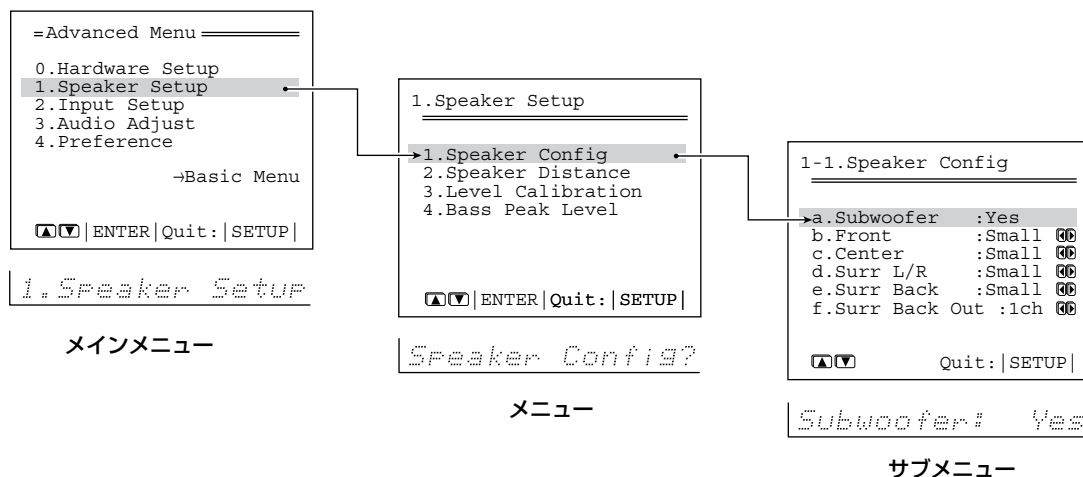
本機には、メモリー保持用の予備電源装置が内蔵されています。これは、登録したスピーカー設定やサラウンド設定などを停電時などに保持するためのものです。2週間以上本機の主電源を切った状態にしておくと、メモリー内容は消えてしまいます。

誤動作するときは

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、静電気などをひろって誤動作するときがあります。このようなときは、主電源スイッチ（POWER）を切（▇ OFF）にし、5 秒以上たってから再度入（▁ ON）にしてください。

Setup（セットアップ）メニュー

オンスクリーンのセットアップメニュー（OSD: オンスクリーンディスプレイ）はテレビ画面上に表示される設定メニューです。OSDメニューにより、スピーカー設定、ソースの選択、オーディオ設定などが行えます。機器の接続と配置が終わったら、まず 0. Hardware Setupと、1. Speaker Setupでスピーカーに関する設定をしてください。この設定は、通常、本機の設置時やホームシアターのレイアウト変更時に行います。

Setup（セットアップ）メニュー

サブメニュー

Setupメニュー操作のしかた

メニュー操作は本機のフロントパネルとリモコンの両方で行えます。
リモコンの各ボタンと本体のボタンとの対応は下の表のようになっています。

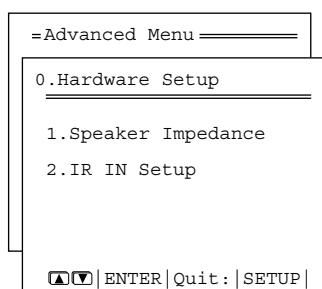
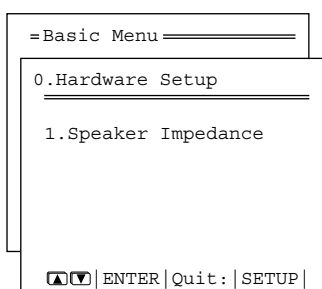
リモコン	本機
SETUP	セットアップ
ENTER ボタンの上端	上へ
ENTER ボタンの下端	下へ
ENTER ボタンの左端	左へ
ENTER ボタンの右端	右へ
ENTER ボタンの中央	選ぶ
RETURN	戻る

1. **SETUPボタンを押す**
   画面上にメインメニューが表示されます。
2. **▲または▼ボタンを押してメニューを選ぶ**
3. **ENTERボタンを押して、選択したメニューの画面を表示する**
   選択した項目のメニュー画面が表示されます。
4. **▲または▼ボタンを押してサブメニューを選び、ENTERを押す**
   設定を変更するには、▲/▼ボタンで項目を選択し、次に◀/▶ボタンで変更します。
5. **RETURNボタンを押すと設定内容が確定し、メニュー画面に戻る**
   もう一度RETURNボタンを押すと、メインメニュー画面に戻ります。

ヒント

Setupメニューを一度で消すには、SETUPボタンを押します。

ハードウェアセットアップ (Hardware Setup)

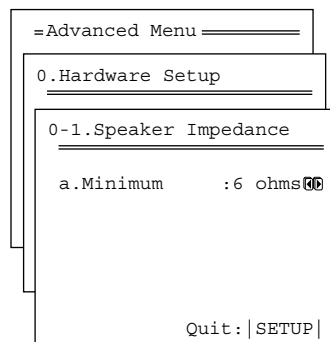
0. Hardware Setupメニュー

0.HardwareSetup

0.HardwareSetup

Basic Menuでは
Hardware Setupメニューは、初めに本機をご使用になる時に設定してください。
Hardware Setupメニューで、一度スピーカーインピーダンスを設定すると、つぎにBasic Menuを表示させたときには表示されません。
後日設定を変えたいときは、Advanced Menuを選ぶと、Hardware Setupメニューが表示されます。

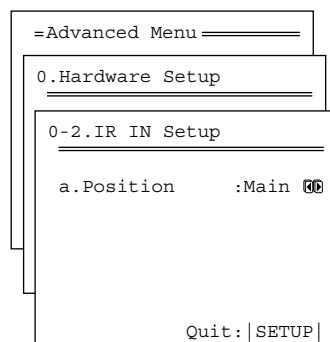
0-1. Speaker Impedanceサブメニュー B

使用するスピーカーに合わせて、インピーダンスを設定します。
接続するすべてのスピーカーのインピーダンスが6Ω～16Ωであれば、「6 ohms」を選びます。接続するスピーカーの中に1台でも4Ω以上6Ω未満のスピーカーがあれば「4 ohms」を選びます。

ご注意

設定を変更するときは必ず本機の音量を最小にしてください。

Sp Impedance?

0-2. IR IN Setupサブメニュー

IR IN端子に接続したリモコン受光部の位置を選択します。

IR IN Setup?

Main：IR IN端子に接続したリモコン受光部がメインルームにあるときに選びます。

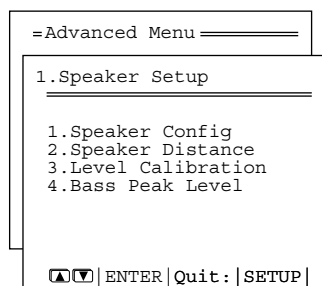
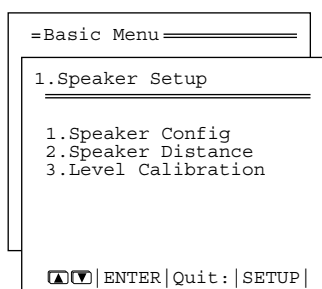
ZONE 2：Zone 2ルームからZone 2の操作をするときに選びます。リモコンのZONE 2ボタンを押さなくてもON/STANBY、 INPUT SELECTOR、CH+/−でZONE 2操作できます。

スピーカーセットアップ（Speaker Setup）

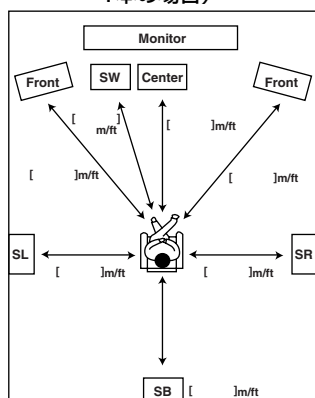
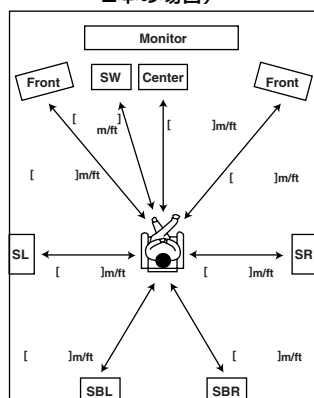
1. Speaker Setup（スピーカー設定）メニュー

映画や音楽を楽しむための最適な音場環境をつくり上げるために、各スピーカーの大きさや視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。

設定を行う前に、まず次の内容を確認してください。

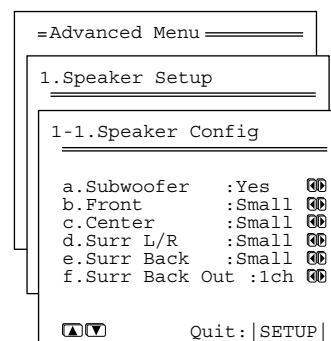
- 接続されているスピーカーの大きさ
- 各スピーカーから通常の視聴位置までの距離

1.Speaker Setup

1.Speaker Setup

設定メモ：

（サラウンドバックスピーカー1本の場合）

（サラウンドバックスピーカー2本の場合）

ヒント

Large（ラージ）を選んだときは、そのチャンネル信号の全帯域がそのスピーカーに出力されます。
Small（スモール）を選んだときは、そのチャンネル信号の80Hz以下の低音域は、サブウーファーに出力されます。サブウーファーのないときは、フロントスピーカーのL/Rに出力されます。（THXスピーカーシステムの場合は、すべてSmallにします。）

1-1. Speaker Config（大きさや種類の設定）サブメニュー B

接続しているスピーカーの種類および各スピーカーの大きさを設定します。

Speaker Config?

a. **Subwoofer（サブウーファー）**
 Yes：サブウーファーを接続している
 No：サブウーファーを接続していない

b. **Front（フロント）**
 Large：大型のフロントスピーカーを接続している
 Small：小型のフロントスピーカーを接続している
 - Subwooferの設定で「No」を選択した場合は、「Large」に固定されます。

c. **Center（センター）**
 None：センタースピーカーを接続していない
 Large：大型のセンタースピーカーを接続している
 Small：小型のセンタースピーカーを接続している
 - Frontの設定で「Small」を選択した場合、「Large」は選択できません。

d. **Surround L/R（左右サラウンド）**
 None：左右サラウンドスピーカーを接続していない
 Large：大型の左右サラウンドスピーカーを接続している
 Small：小型の左右サラウンドスピーカーを接続している
 - Frontの設定で「Small」を選択した場合、「Large」は選択できません。

e. **Surround Bk（サラウンドバック）**
 None：左右サラウンドバックスピーカーを接続していない
 Large：大型の左右サラウンドバックスピーカーを接続している
 Small：小型の左右サラウンドバックスピーカーを接続している
 - Surround L/Rの設定で「None」を選択した場合は、項目が表示されません。
 - Surround L/Rで「Small」を選択した場合は、「Large」は選択できません。

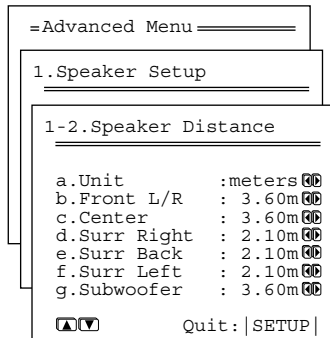
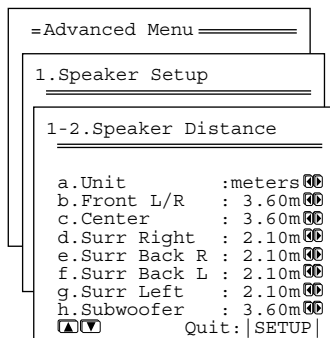
f. **Surr Back Out（サラウンドバック出力）**
 1ch：サラウンドバックスピーカーが1本の場合
 2ch（PREOUT Only）：サラウンドバックスピーカーが2本の場合（プリアウト出力のみ）

1-2. Speaker Distance（距離の設定）サブメニュー Ⓑ

各スピーカーからリスニングポイントまでの距離を設定します。

ご注意

- 前項のSpeaker Configサブメニューで「No」または「None」を選択したスピーカーは表示されません。
- リスニングポジションと各スピーカーごとの距離の差は、6.0m（20ft）以上には設定できません。

（サラウンドバックスピーカー1本の場合）

（サラウンドバックスピーカー2本の場合）

Sp Distance?

a. Unit (単位)
feet：距離をフィートで指定する
meters：距離をメートルで指定する

b. Front L/R (左右フロント)
左右フロントスピーカーから通常の視聴位置までの距離を、0.3〜9mの範囲、0.15m単位(1〜30ftの範囲、0.5ft単位)で設定します。

ご注意

左右フロントスピーカーは、同じ距離に設置してください。そうでない場合は、ステレオのセンター定位が損なわれます。

c. Center (センター)
センタースピーカーから通常の視聴位置までの距離を、0.3〜9mの範囲、0.15m単位(1〜30ftの範囲、0.5ft単位)で設定します。

d. Surr Right (右サラウンド)
0.3〜9mの範囲、0.15m単位(1〜30ftの範囲、0.5ft単位)で設定します。

e. Surr Back (サラウンドバック)
サラウンドバックスピーカーが1本のとき、この項目が表示されます。
サラウンドバックスピーカーから通常の視聴位置までの距離を、0.3〜9mの範囲、0.15m単位(1〜30ftの範囲、0.5ft単位)で設定します。

f. Surr Left (左サラウンド)
左サラウンドスピーカーから通常の視聴位置までの距離を、0.3〜9mの範囲、0.15m単位(1〜30ftの範囲、0.5ft単位)で設定します。

g. Subwoofer (サブウーファー)
サブウーファーから通常の視聴位置までの距離を、0.3〜9mの範囲、0.15m単位(1 〜30ftの範囲、0.5ft単位)で設定します。

サラウンドバックスピーカーが2本の場合は、上記e. Surr Backが、下記のように表示されます。

e. Surr Back R (右サラウンドバック)
サラウンドバックスピーカーが2本のとき、この項目が表示されます。
右サラウンドバックスピーカーから通常の視聴位置までの距離を、0.3〜9mの範囲、0.15m単位(1〜30ftの範囲、0.5ft単位)で設定します。

f. Surr Back L (左サラウンドバック)
サラウンドバックスピーカーが2本のとき、この項目が表示されます。
左サラウンドバックスピーカーから通常の視聴位置までの距離を、0.3〜9mの範囲、0.15m単位(1〜30ftの範囲、0.5ft単位)で設定します。

ご注意

左右サラウンドバックスピーカーを使用するには、別売りの2チャンネルパワーアンプが必要です。

1-3. Level Calibration（レベル調整）サブメニュー B

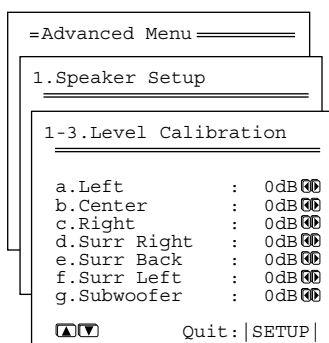
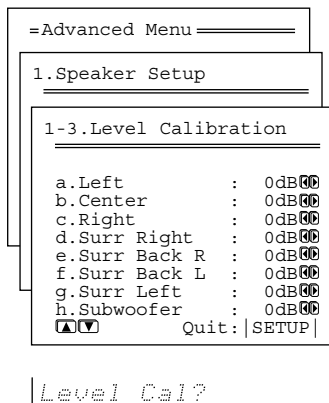
各スピーカーからの音が同じ大きさに聞こえるように設定します。正しい音場再生をするためには、必ず設定してください。

ご注意

- **このサブメニューに入ると、かなり大きな音が出力されますのでご注意ください。**
- マルチチャンネル入力を使用する場合、ここで行ったスピーカーレベル設定は無効になります。マルチチャンネル入力のスピーカーレベルは、リモコン（RC-460M）のCH SEL、LEVEL▲/▼ボタンを使って調整します（☞53ページ「マルチチャンネル音声を楽しむ」）。

（サラウンドバックスピーカー1本の場合）

（サラウンドバックスピーカー2本の場合）

Level Cal?

スピーカーレベルの調整

(1) このサブメニューに入ると、左フロントスピーカーからザーというテスト音が出ます。このときボリュームが自動的に標準レベル（0dB）（またはRef）まで上がります。このテスト音の大きさを記憶し、▼ボタンを押すと、テスト音がセンタースピーカーから出ます。（テスト音のレベルは－12～12dBの範囲を1dB単位で調整できます）

(2) センタースピーカーから出るテスト音が左フロントスピーカーのときと同じ大きさに聞こえるように、◀/▶ボタンで調整します。2つのスピーカーから交互に音を出してテスト音の大きさを比較してください。

(3) ▼ボタンを押します。テスト音が右フロントスピーカーから出ます。

(4) (2)と(3)を繰り返し行い、すべてのスピーカーから出るテスト音が同じ大きさに聞こえるように調整します。

ご注意

Speaker Configサブメニューで「No」または「None」を選択したスピーカーは表示されません。

ヒント

出力レベルを正しく設定するには、サウンドプレッシャーレベルメーター（SPL）を使用して、C-WeightingおよびSlow averagingに設定し、チャンネルごとにSPLの値が75dBになるように調整することをおすすめします。

a. Left（左）
テスト音が左フロントスピーカーから出ます。テスト音のレベルは－12～12dBの範囲を、1dB単位で調整できます。

b. Center（センター）
テスト音がセンタースピーカーから出ます。テスト音のレベルは－12～12dBの範囲を、1dB単位で調整できます。

c. Right（右）
テスト音が右フロントスピーカーから出ます。テスト音のレベルは－12～12dBの範囲を、1dB単位で調整できます。

d. Surr Right（右サラウンド）
テスト音が右サラウンドスピーカーから出ます。テスト音のレベルは－12～12dBの範囲を、1dB単位で調整できます。

e. Surr Back R（右サラウンドバック）
サラウンドバックスピーカーが2本のとき、この項目が表示されます。
テスト音が右サラウンドバックスピーカーから出ます。テスト音のレベルは－12～12dBの範囲を、1dB単位で調整できます。

f. Surr Back L（左サラウンドバック）
サラウンドバックスピーカーが2本のとき、この項目が表示されます。
テスト音が左サラウンドバックスピーカーから出ます。テスト音のレベルは－12～12dBの範囲を、1dB単位で調整できます。

f. Surr Back（サラウンドバック）
サラウンドバックスピーカーが2本のとき、この項目が表示されます。
テスト音がサラウンドバックスピーカーから出ます。テスト音のレベルは－12～12dBの範囲を、1dB単位で調整できます。

ご注意

左右サラウンドバックスピーカーを使用するには、別売りの2チャンネルパワーアンプが必要です。

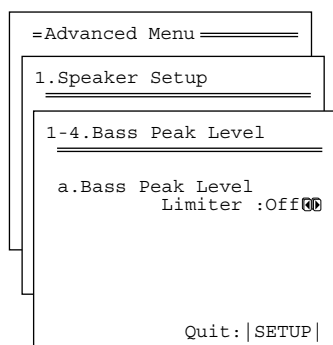
g. Surr Left（左サラウンド）
テスト音が左サラウンドスピーカーから出ます。テスト音のレベルは－12～12dBの範囲を、1dB単位で調整できます。

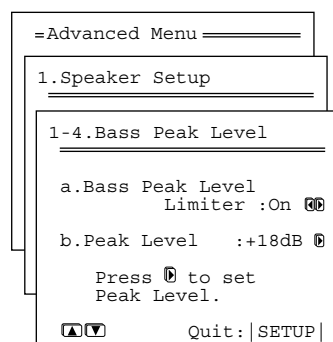
h. Subwoofer（サブウーファー）
テスト音がサブウーファーから出ます。テスト音のレベルは－15～12dBの範囲を、1dB単位で調整できます。

1-4. Bass Peak Level（低音の最大レベル調整ーバスピークレベルマネージャー*）サブメニュー

バスピークレベル（低音の最大レベル）は、過大な低音信号が出力されてサブウーファーが壊れることがないように設定します。ご使用のサブウーファーにリミッターが内蔵されている場合は、「Off」に設定してください。

ご注意

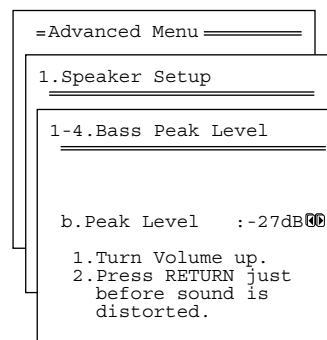
サブウーファーを使用しない場合、ここでの設定はフロントスピーカーのバスピークレベルになります。

Bass Peak Lvl?

a. Bass Peak Level Limiter（バスピークレベルリミッター）

BassLimiter:On

On：バスピークレベルリミッターを動作させせます。このとき、下にそのピークレベルが表示されます。

Off：バスピークレベルリミッターを無効にします。

b. Bass Peak Level（ピークレベル）

現在のバスピークレベル設定値が表示されます。設定値を変更するには▶ボタンを押します。サブウーファーからテスト音が出力されますので、▶ボタンまたはMASTER VOLUMEつまみを使って、テスト音がひずむ位置までゆっくりと音量を上げていき、ひずんだら少しだけ戻し、RETURNボタンを押します。これにより、正しいバスピークレベルが設定されます。

BassPeakLvl:-27.

ご注意

- バスピークレベルは－∞、または－81～＋18dBの範囲を1dB単位で設定できます。
- 長時間サブウーファーからひずみ音を出力すると、サブウーファーが壊れる場合があります。

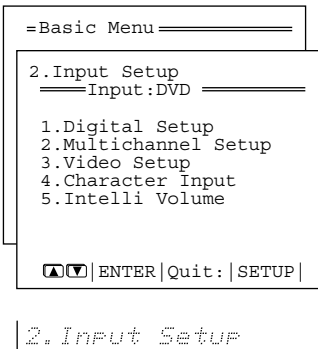
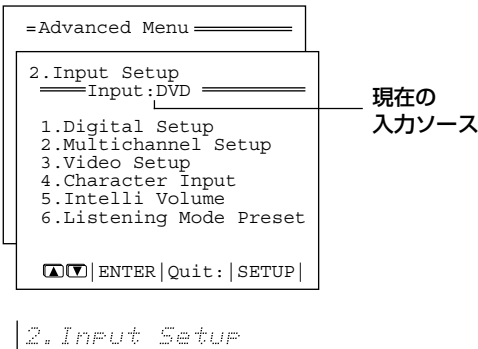
* バスピークレベルマネージャーは、ルーカスフィルム社の登録商標です。

入力ソースごとの設定（Input Setup）

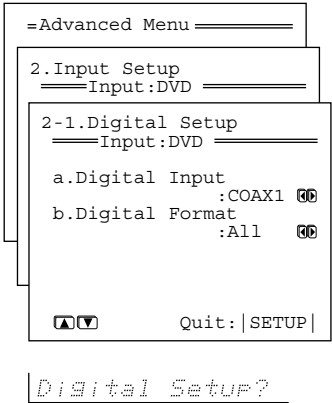
2. Input Setupメニュー

ここで行う設定はフロントパネルの入力切り換えボタンで現在選択しているソースに対して有効です。
本機に接続したさまざまなソース機器からの入力信号の設定を行います。ソースごとに多数の設定項目があるため、後で混乱しないように設定値および対応する機器をメモしておくことをお勧めします。

2.Input Setup

2.Input Setup

2-1. Digital Setupサブメニュー B

入力切り換えボタンでAMまたはFMを選択している場合、このサブメニューは表示されません。また、VIDEO 5はフロントパネルの光入力固定ですので、VIDEO 5を選択した場合もこのサブメニューは表示されません。

Digital Setup?

a. Digital Input（デジタル入力）

フロントパネルの入力切り換えボタンがリアパネルのどのデジタル入力端子に割り当てられているかを設定します。設定を行うには、まずフロントパネルの入力切り換えボタンでデジタルソースを選択し、次にそのデジタルソースが接続されているデジタル入力端子を設定します。

たとえば、フロントパネルの入力切り換えボタンでCDを選択し、CDプレーヤーをDIGITAL INPUT（OPT）1端子に接続している場合、ここで「OPT1」を選択します。入力切り換えボタンで選択した機器をデジタル入力端子に接続していないときは、「----」を選択します。

OPT1～3：デジタル機器をDIGITAL INPUT（OPT）1～DIGITAL INPUT（OPT）3端子に接続している

COAX1～3：デジタル機器をDIGITAL INPUT（COAX）1～DIGITAL INPUT（COAX）3端子に接続している

----：デジタル機器をデジタル入力端子に接続していない

入力ソースの初期設定と割り付け可能項目

入力ソース	デジタル入力
CD	OPT 1
PHONO	----
FM	
AM	
TAPE	OPT 2
DVD	COAX 1
VIDEO 1	COAX 2
VIDEO 2	COAX 3
VIDEO 3	OPT 3
VIDEO 4	----
VIDEO 5	フロントパネルの光入力固定

---- ：初期設定では、割り付けられていません。

（斜線）：割り付けられません。

b. Digital Format（デジタルフォーマット）

割り当てたデジタル入力端子に、優先して検出を行うデジタル信号を設定します。
初期設定は「All」です。Digital Inputの設定で「----」を選択した場合、この項目は表示されません。初期設定をそのまま使用してもかまいませんが、入力信号のフォーマットに合わせて変更できます（たとえば、ある特定のソースの入力信号フォーマットだけしか再生しない場合など）。

All：入力信号のフォーマットを自動的に検出します。選択したソースが使用する信号フォーマット（ドルビーデジタル、DTS、PCM、AAC）が自動的に検出され、必要なデコード処理が行われます。

DTS：DTS信号のデコード処理を行うときに選択します。デコード処理が行われるのは、DTS信号が入力されたときだけです。

PCM：PCM信号のデコード処理を行うときに選択します。デコード処理が行われるのは、PCM信号が入力されたときだけです。

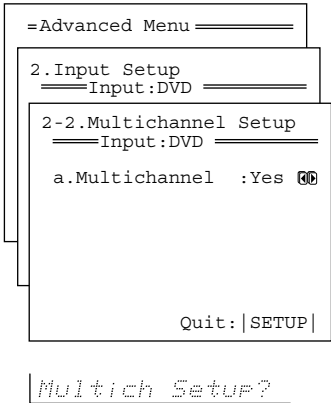
ご注意

- 「All」を選択してPCM信号を再生する場合、CDやLDの早送り後の再生時に音飛びが発生することがあります。その場合は、設定を「PCM」に変更してください。
- 「DTS」を選択しているときは、AUDIO SELECTORボタンで「Auto」を選択していてもDTS信号が入力されていない場合は、Analogに切り換わりません。

DTSについてのご注意

- DTSフォーマットで記録されたCDやLDをAnalogやPCMの設定で再生すると、DTSエンコード信号をそのまま再生するため、ノイズが出力されます。このノイズを再生すると、アンプやスピーカーにダメージを与える恐れがありますので、DTSソースを再生するときは必ずデジタル（OPT/COAX）入力端子に接続し、AllまたはDTSモードの設定で再生してください。
- DTSフォーマットで記録されたCDやLDをAllモードの設定で再生すると、本機が最初のDTSエンコード信号を識別してDTSデコーダーを作動するまでの短時間、ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。
- DTSソースを再生している時にプレーヤー側でポーズやスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。このようなときはDTSモードにして再生してみてください。
- DTSソースを再生しているときには、本機のDTSインジケーターが点灯します。DTSソースの再生が終了してプレーヤーからのDTS信号が止まっても、DTSモードのままとなりDTSインジケーターが点灯したままとなります。これは、プレーヤー側で行うポーズやスキップなどの操作時に発生するノイズを防止するためです。このため、DTS信号からPCM信号に急に切り替わるソースでは、PCM信号がすぐには再生されない場合があります。このようなときには、プレーヤー側でいったんソースの再生を約3秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。デジタル出力に何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機では正しいDTSデータとみなすことができないからです。このような処理を行いながらDTSソースを再生すると、ノイズを発生してしまいます。
- 本機のVIDEO 1 OUT、VIDEO 2 OUT、TAPE OUT、ZONE 2 OUTの各出力端子はアナログ音声を出力しています。このため、DTSフォーマットで録音されたCDやLDを録音しようとする場合、DTSエンコード信号をそのままノイズとして録音することになりますので、アナログ録音はしないでください。
- 「PCM」を選択してDTSフォーマットのCDやLDを再生した場合、ノイズだけが出力されます。DTSフォーマットの信号を再生する場合は、必ず「All」または「DTS」を選択してください。

2-2. Multichannel（マルチチャンネル） Setup（セットアップ）サブメニュー B

DVDプレーヤーやMPEGデコーダーなど、5.1チャンネルまたは7.1チャンネル音声出力を備えた機器をMULTI CHANNEL INPUT端子に接続したときに「Yes」に設定します。たとえば、DVDプレーヤーをMULTI CHANNEL INPUT端子に接続した場合は、フロントパネルの入力切り換えボタンでDVDを選択した後、このサブメニューを呼び出してMultichannelを「Yes」に設定します。「Yes」に設定すると、AUDIO SELECTORボタンで、Multich（マルチチャンネル）を選ぶことができます。

Multich Setup?

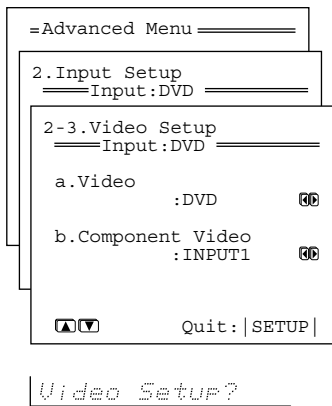
入力ソースの初期設定

入力ソース	Multichannel
CD	No
PHONO	No
FM	No
AM	No
TAPE	No
DVD	Yes
VIDEO 1	No
VIDEO 2	No
VIDEO 3	No
VIDEO 4	No
VIDEO 5	No

ご注意

実際にMULTICHANNEL INPUT端子に接続をした機器を再生するときは、AUDIO SELECTORボタンでMultichを選んでください。

2-3. Video（ビデオ） Setup（セットアップ）サブメニュー B

Video Setup?

a. Video（映像）

入力切り換えボタンに割り当てられた各ソースの映像信号だけを切り換えることができます。映像を別の入力信号にすると、ビデオデッキの映像を見ながら、CDの音声を聞くことなどができます。

初期設定は下の表のようになっています。

選択中のソース	Video
CD	Last Valid
PHONO	Last Valid
FM	Last Valid
AM	Last Valid
TAPE	Last Valid
DVD	DVD
VIDEO1	VIDEO1
VIDEO2	VIDEO2
VIDEO3	VIDEO3
VIDEO4	VIDEO4
VIDEO5	VIDEO5

Last Valid（最後に選択したソースを有効にする）：
「Last Valid」に設定すると、直前のソースの映像が継続されます。たとえば、入力切り換えボタンでVIDEO 1を選択した後でCDに変更すると、VIDEO 1の映像を継続しながらCD入力端子からの音声が演奏されます。

- 割り当てをしない場合は、「----」に設定します。

b. Component Video（コンポーネントビデオ）

COMPONENT VIDEO入力端子、またはD4 VIDEO入力端子（1または2）のいずれかに機器を接続した場合は、ここで入力の設定を行う必要があります。

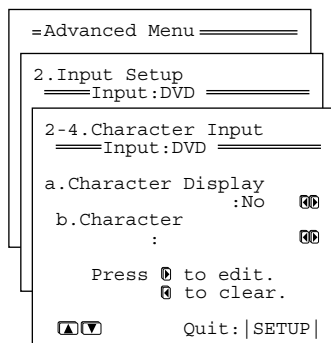
入力ソースの初期設定と割り付け可能項目

選択中のソース	コンポーネント映像入力/D4映像入力
CD	Last Valid
PHONO	Last Valid
FM	Last Valid
AM	Last Valid
TAPE	Last Valid
DVD	INPUT 1
VIDEO 1	INPUT 2
VIDEO 2	INPUT 2
VIDEO 3	INPUT 2
VIDEO 4	INPUT 2
VIDEO 5	INPUT 2

Last Valid（最後に選択したソースを有効にする）：直前の割り付けが継続されます。

2-4. Character（キャラクター） Input（インプット）サブメニュー B

プリセット登録した放送局や接続した機器(チューナーを除く)に名前を付けることができます。10文字までの名前を入力できます。たとえば、VIDEO 4の入力端子にDVDを接続して「DVD2」という名前を付けることができます。また、複数のビデオデッキを接続した場合には、各ビデオデッキの型名やメーカーの名前を入力することができます。

プリセット登録した放送局に名前をつけるときは、名前をつけたいプリセット局を選んでから、名前を入力してください。

CharacterInput?

a. Character Display (文字表示)

YES：ソースを切り換えた時、入力した名前を表示します。

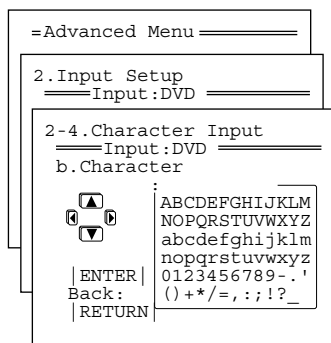
No：文字表示をしません。

ご注意

FM/AMの場合は、FMまたはAMどちらかで設定を変えると、もう一方も同じ設定になります。

b. Character (文字)

◀：入力されているキャラクタがある場合は、全てクリアします。

▶：名前を入力する画面に進みます。

Char:

この画面では、カーソルボタンで希望する文字のところへカーソルを持っていきENTERボタンを押すと、上の10文字のところにその文字が順に入っていきます。入力した文字を間違えた場合は、RETURNボタンを押すとカーソルを左へ動かすことができます。10文字まで入力すると前の画面に戻ります。10文字に満たない場合は、空白（最下段の右端）を選んでください。

すでに何か文字が入っていて修正したいときは、ENTERボタンを押して修正したい文字の上までカーソルを進めます。次に、差し替える文字を選んでENTERボタンを押します。修正したら、前の画面に戻るまでENTERボタンをくりかえし押してください。

本機でキャラクタ入力するには

1. **SETUPボタンを押す。**
2. **▼ボタンを押して「2.INPUT Setup」を表示させて、ENTERを押す。**
3. **▼ボタンを押して「Character Input？」を表示させて、ENTERを押す。**
4. **▼ボタンを押して「Char:　　」を表示させて、▶ボタンを押す。**
5. **入力経過表示（「<　>」）が表示された後、文字選択表示（「ABCDEF・・」）になる。**

   ▲/▼/◀/▶ボタンで希望の文字を選んで、ENTERを押して確定すると入力文字表示になり（2秒間）、文字選択表示に戻ります。

   入力した文字を間違えた場合は、RETURNボタンを押すとカーソルを左に動かすことができます。

   この操作を繰り返し10文字入力し終えると入力した名前が表示されます。
6. **SETUPボタンを押して終了する。**

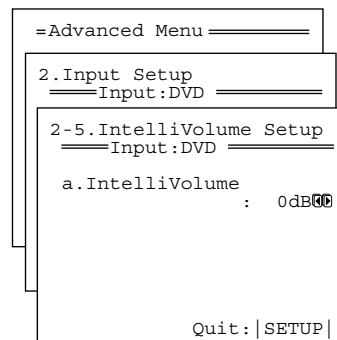
入力した文字を修正するには

手順1～4までの操作は同じです。
手順4で▶ボタンを押すと、入力済みの名前が表示されます。ENTERボタンを押して修正したい文字の上までカーソルを進め、差し替えたい文字を選んでENTERボタンを押します。

入力されている名前を消去するには

手順1～3までの操作は同じです。手順4で◀ボタンを押します。

2-5. Intelli（インテリ） Volume（ボリューム） Setup（セットアップ）サブメニュー B

各入力ソース間の音量差をなくす補正をしておくことができます。

IntelliVolume?

a. IntelliVolume（インテリボリューム）

接続している機器やソースによって出力レベルが異なるため、入力を切り換えたときに同じボリューム位置にしていても音が大きかったり、小さすぎたりして、そのたびにボリュームで音量調整をし直さなければならないことがあります。そのような不都合を解消するため、各入力ソースの補正をあらかじめ行うことができます。IntelliVolumeを設定するには、まずフロントパネルの入力切り換えボタンでソースを選択し、他の機器よりも出力レベルが低い場合は▶ボタンでdB値を上げ、高い場合は◀ボタンでdB値を下げます。

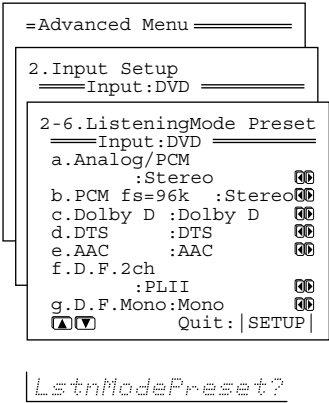
－12dB～＋12dBの範囲で調整できます。

2-6. Listening Mode Presetサブメニュー

（リスニング モード プリセット）

各ソースの入力信号の種類ごとに異なるリスニングモードを設定できます。たとえば、CD再生のできるDVDプレーヤーを使用する場合、DVDのDolby Digital信号とCDのPCM音声信号に、それぞれ適したリスニングモードを設定できます。

この機能は、同じ種類の映画を再生したり音楽を演奏する場合には特に便利です。

LstnModePreset?

5.1チャンネルデジタルオーディオフォーマットについて

5.1チャンネルとは、フルレンジ（20Hz~20kHz）の5チャンネル（左右フロント、センター、サラウンド2チャンネル）と、低域効果音を記録したLFE（Low Frequency Effect）チャンネルを、それぞれ混ぜ合わせることなく独立して記録・再生するデジタル・オーディオ・フォーマットで、ドルビーデジタルや、DTS、MPEG-2 AACなどがあります。データの転送レートなどに違いはあるものの、いずれのフォーマットでも、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドをご体験いただけます。

入力ソースとリスニングモードの関係

入力信号の種類	ANALOG/PCM (2ch)	PCM fs=96kHz	Dolby D (Multi CH)	DTS (Multi CH)	AAC (Multi CH)	AAC (音声多重)	D.F.2ch (Digital Audio Format)	D.F.Mono
代表的なソース リスニングモード	カセットテープ、CD、MD レコード、FM/AM/TV放送 DVD(Stereo)、LD、 BSデジタル放送(Stereo)	DVD (96k/24bit)	DVD	DVD DTS-CD	BSデジタル放送	BSデジタル放送	DVD BSデジタル放送	DVD
Multiplex						●		
Direct	●	●						
Stereo	●	●	●	●	●		●	
Mono	●						●	●
Theater-Dimensional	●		●	●	●		●	
Dolby Pro Logic II	●	●					●	
Dolby Digital			●					
DTS Neo:6	●							
DTS				●				
DTS-ES Discrete				●				
DTS-ES Matrix				●				
AAC					●			
THX Cinema(PLII)	●		●	●	●		●	
THX Cinema(Neo:6)	●							
THX Surround EX			●		●			
DTS-ES THX Cinema				●				
Mono Movie	●						●	●
Enhanced 7	●		●	●	●		●	
Orchestra	●		●	●	●		●	
Unplugged	●		●	●	●		●	
Studio-Mix	●		●	●	●		●	
TV Logic	●		●	●	●		●	
All Ch Stereo	●						●	

ソースの信号フォーマットにより、選べるリスニングモードが異なります。

注）Speaker Configurationの設定や入力信号によっては、上表のすべてのリスニングモードを選べないことがあります。

入力信号の種類

a. Analog/PCM（アナログ/PCM）
アナログソースには、レコード、AM/FM放送、カセットテープなどがあります。PCM（パルスコードモジュレーション）は一種のデジタル音声信号で、圧縮を行わずにCDやDVDに直接記録されます。

b. PCM fs = 96 k
96kHzのサンプリングレートで記録されたデジタルPCMソースのときのリスニングモードを設定します。

c. Dolby D（ドルビーデジタル）
AC-3方式で圧縮されたデジタルデータです。最大5.1チャンネルのサラウンド音声を提供します。DOLBY DIGITALマークが付いたDVDやLDなどがあります。ドルビーデジタル対応のデジタル衛星放送でも使用されています。

ダイアログノーマライゼイション(Dialog norm)
「ダイアログノーマライゼイション(Dialog Norm)は、ドルビーデジタルが備えている機能のひとつです。ドルビーデジタル方式で録音されたソフトウェアを再生するときに、フロントパネルのディスプレイに“Dialog Norm X”(Xは数値)という短いメッセージが表示される場合があります。ダイアログノーマライゼイションとは、再生するソフトウェアが通常より高いレベル、または低いレベルで録音されていることを知らせる機能です。例えばフロントパネルのディスプレイに“Dialog Norm +4”というメッセージが表示されたときは、音量を4dB下げるだけで、全体的な出力レベルを一定にすることができます。つまりこの場合は、再生するソフトウェアが通常より4dB高い（大きい）レベルで録音されているということです。メッセージが表示されなければ、音量を調整する必要はありません。

Dialog Norm: +4

d. DTS（ディーティーエス）
DTS（デジタルシアターシステム）は、最大5.1チャンネル（DTS-ES Discreteの場合は最大6.1チャンネル）のサラウンド出力が可能な圧縮されたデジタルデータです。きわめて高音質の音声を提供します。再生するにはDTS出力が可能なDVDプレーヤーが必要です。ソースとしてdtsマークが付いたCD、DVD、LDなどがあります。

e. AAC（エーエーシー）
MPEG-2 AAC方式で圧縮されたデジタルデータです。最大5.1チャンネルのサラウンド音声を提供します。BSデジタル放送に採用されています。

f. D.F. 2ch（デジタルフォーマット2チャンネル）
ドルビーデジタルなどの2チャンネルデジタル方式（PCMを除く）の信号です。2チャンネル音声で録音されたDVD、LDなどがあります。

g. D.F. Mono（デジタルフォーマットモノラル）
ドルビーデジタルなどのモノラルデジタル方式（PCMを除く）の信号です。モノラル音声で録音されたDVD、LDなどがあります。

リスニングモード

Mono（モノ）
モノラル信号で収録されている古い映画ソフトを再生したり、音声多重のソースなどで左右のチャンネルを独立して再生するモードです。DVDなどのメディアに記録されたマルチプレックス方式のサウンドトラックを再生できます。

Direct（ダイレクト）
音質調整やフィルターを効かさずピュアな音を聞くことができます。

ステレオサウンドを聞いていただくためソースの音声は左右フロントスピーカーでのみ再生され、サブウーファーからは出力されません。

Stereo（ステレオ）
すべての音声が左右のフロントスピーカーから出力されます。サブウーファーを使うこともできます。

Theater-Dimensional（シアターディメンショナル）
本格的なホームシアターを楽しんでいただくためには、少なくとも左右フロント、センタ ー、左右サラウンドのスピーカーを用意することをお勧めしますが、現状ではフロントスピーカーしか用意できないといったような場合には、このモードを使用することでマルチチャンネル再生をお楽しみいただけます。

このモードは、左右それぞれの耳に届く音声の特性を制御することによって実現していますので、最もその効果を体験できる視聴位置（スイートスポット）が存在します。後述のリスニングアングルの説明を参考にして下さい。

また、反射音成分が大きいと期待した効果が得られない場合もありますので、できるだけ反射音の影響の少ないセッティングで視聴される事をお勧めします。

Dolby Pro Logic II（ドルビープロロジックII）
ドルビープロロジックが「左右フロント」「センター」「モノラルのサラウンドチャンネル」の4チャンネル信号をマトリックス処理によって2チャンネルに記録し、再生時に4チャンネルに復元していたのに対し、ドルビープロロジックIIは、フィードバックロジック回路により、ドルビーサラウンドなど2チャンネルにマトリックスエンコードされた信号を元の状態に正確に組み替え、5.1チャンネル再生をしています。

映画に最適なMovieモードと音楽再生に最適なMusicモードの2つのモードが選択できます。

Movieモードでは、従来モノラルで、音域の狭かったサラウンドチャンネルがステレオ再生になり、より移動感のある再生が楽しめます。

Musicモードでは、2チャンネルの音楽に対しても自然な音場感をサラウンドチャンネルより再生します。

DOLBY SURROUNDマークのついたVHSやDVDビデオ、または一部のTV番組再生時に楽しむことができます。また、MusicモードはCDなどのステレオ音楽で楽しむことができます。

サラウンドスピーカーを使用しない場合、サラウンド音声は、左右フロントチャンネルに振り分けられて出力されます。（3ステレオ）

Dolby D（ドルビーデジタル）
ドルビーデジタルソースを再生するために使用します。

DTS Neo:6（ディーティーエス ネオシックス）
PCMやアナログ音源など、2チャンネルのソースを6.1チャンネルで再生するモードです。6チャンネルすべてに広い周波数帯域が確保され、チャンネル間のセパレーションも優れています。

DTS Neo:6モードでは、映画の再生に適したCinemaモードと音楽の再生に適したMusicモードの2種類を切り換えることができます。

映画鑑賞に適したCinemaモードでは、6.1チャンネルのソースとしてリアルな移動感にあふれたサラウンドサウンドが再現されます。音声がステレオのVHSソフトやテレビ番組などに使用します。

音楽再生に適したMusicモードは、サラウンドチャンネルを使用することで通常のステレオ出力では得られない自然な音場を生み出します。音楽CDをはじめとする各種ステレオ音源の再生に使用します。

DTS（ディーティーエス）
DTSソースを再生するために使用します。

DTS-ES Discrete 6.1（ディーティーエス イーエス ディスクリート6.1）
追加されたサラウンドバックチャンネルを含め、6.1チャンネルすべてがデジタルデスクリートで独立して記録される新フォーマットです。全チャンネルが独立記録されているため、セパレーション感の高いサラウンド再生が可能となります。

DTS-ES Matrix 6.1（ディーティーエス イーエス マトリックス6.1）
追加されたサラウンドバックチャンネルをあらかじめ左右サラウンドチャンネルへマトリックスエンコードして挿入し、再生時に高精度マトリックスデコーダーによって左右サラウンド、サラウンドバックの各チャンネルにデコードするフォーマットです。

AAC（エーエーシー）
AACソースを再生するために使用します。

Multiplex（マルチプレックス）
MPEG-2 AAC音声多重放送のとき、このモードになります。

THX
THX方式で再生します。

THXサウンドを忠実に再生するには、ルーカスフィルム社認定THXスピーカーシステムのご使用をお勧めします。

- **THX Cinema**
  従来の5.1チャンネルでのTHX方式です。映画館のような広い場所で再生することを想定して録音編集された劇場用映画を見るときに適します。
- **THXサラウンドEX**
  「THXサラウンドEX－ドルビーデジタルサラウンドEX」はドルビーラボラトリーズとルーカスフィルム社で共同開発されたフォーマットです。

  ドルビーデジタルサラウンドEXの技術でエンコードされたサウンドトラックを映画館で使用すると、ミキシング時に追加されたチャンネルが独立して再生されます。サラウンドバックと呼ばれるこのチャンネルは、従来の左右フロント、センター、左右サラウンド、サブウーファーの各チャンネルに加えて、視聴者の背後に新たな音場を作り出します。

  サラウンドバックチャンネルにより、視聴者背後の臨場感にリアルさが増すとともに、これまで以上に、音場に深みと広がりが加わり、定位感が向上します。

  ドルビーデジタルサラウンドEXの技術にもとづいて制作された映画が家庭用に発売される際は、パッケージにそのことが記載されるはずです。この技術にもとづいて制作された映画の一覧はドルビーラボラトリーズのホームページ（http://www.dolby.com）をご覧ください。

  THXサラウンドEX技術を家庭で再生する際は、認定ロゴを冠したレシーバーおよびコントローラーをTHXサラウンドEXモードで使用した場合のみ、正しい効果が得られます。

  本機は、ドルビーデジタルサラウンドEXでエンコードされていない5.1チャンネルプログラムでも、「THXサラウンドEX」モードで再生できます。このような場合、サラウンドバックチャンネルから出る音声の内容はプログラムによってさまざまであり、場合によってはお好みに合わない場合があります。

Mono Movie（モノムービー）
古い作品などモノラル録音の映画ソースの再生に適したモードです。センターチャンネルからは処理していない音声をそのまま、他スピーカーからは適度な残響処理を施したセンター音声を出力します。モノラルでも臨場感のある雰囲気をお楽しみいただけます。

Enhanced 7（エンハンスト7）
7チャンネルのスピーカーにより自然なサラウンドを再現します。効果音は、自然にサラウンドバックスピーカーに移動します。音楽鑑賞やテレビのスポーツ番組を見るのに適しています。

Orchestra（オーケストラ）
クラシックやオペラに適したモードです。センターチャンネルをカットするとともに、音場イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。大きなホールで聴いているような、自然な響きが楽しめます。

Unplugged（アンプラグド）
アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聴いているような音場イメージをつくります。

Studio-Mix（スタジオミックス）
ロックやポップに適したモードです。生き生きとした躍動感にあふれ、まるでライブハウスにでもいるかのような、迫力ある音場イメージが特長です。

TV Logic（TVロジック）
スタジオ収録のTV番組で、豊かな臨場感を楽しむためのモードです。全体的なサラウンド感とセリフの明瞭度を高めています。

All Ch Stereo（オールチャンネルステレオ）
BGMとして音楽をかける時に便利なモードです。フロントとサラウンドチャンネルの両方でステレオイメージをつくり出します。

オーディオアジャスト（Audio Adjust 音声信号に関する設定）

3. Audio Adjustメニュー

（オーディオ　アジャスト）

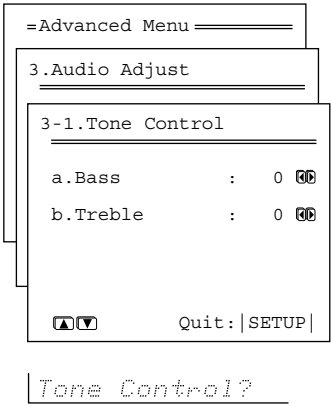
音声信号に関する各パラメーターの設定を行います。

3.Audio Adjust

3.Audio Adjust

3-1. Tone Control Ⓑ

低音（Bass）または高音（Treble）の強弱を2単位で調整します。
Tone controlはフロントL/R、センター、サブウーファーに有効です。（サブウーファーは、Bassのみ有効です）

Tone Control?

項目	パラメーター	初期値
a Bass	－12～＋12	0
b Treble	－12～＋12	0

ご注意

リスニングモードでDIRECT、THXを選んでいるときは、この項目は設定できません。他のリスニングモードを選んでください。

3-2. Surround Speakers Ⓑ

サラウンドバックスピーカーを接続しているときの、5.1チャンネル出力時、サラウンド信号を出力するスピーカーを選択できます。

項目	パラメーター	初期値
a Surround Speakers	Surround L/R、Surround Back、 Surround L/R＋Surround Back	Surround L/R

Surround L/R：左右サラウンドスピーカーに対して通常どおり音声出力を行います。サラウンドバックスピーカーには信号は出力されません。

Surround Back：サラウンドバックスピーカーに対して音声出力を行います。左右サラウンドスピーカーには信号は出力されません。

Surr L/R+Back：左右サラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーの両方に音声出力を行います。

ご注意

3-2. Surround Speakersは、1-1. Speaker Configサブメニューのf. Surr Back Outの設定を「1ch」にしたときは無効になります。

3-3. Sound Effect Ⓑ

各サウンド効果を設定します。

項目	パラメーター	初期値
a Re-EQ	On、Off	Off
b Upsampling	On、Off	Off
c Subwoofer (Ana/PCM)	On、Off	On
d Late Night	Off、Low、High	Off
e Multiplex	Main、Sub、Main+Sub	Main

a) Re-EQ（リ・イーキュー）

映画館用にミキシングされた音声をホームシアターのスピーカーで再生すると、高音域が強調される傾向があります。Re-EQは、高音域をホームシアター音声用に補正します。「On」または「Off」の設定が可能です。
このパラメーターは、T-D、THX、Direct、PL II MusicまたはNeo:6 Music以外のリスニングモードの時に有効です。

b) Upsampling（アップサンプリング）

デジタル入力信号（アナログ入力信号はA/D変換後）のサンプリング周波数を現在の2倍に変換し、より細かな音の再生が可能になります。「On」または「Off」の設定が可能です。「On」にすると、UPSAMPLING表示が点灯します。
このパラメーターは、リスニングモードがStereo、PL IIの時に有効です。

c) Subwoofer（サブウーファー）

Speaker ConfigでSubwooferを「Yes」にしていても、Analog/PCMソースの場合のみサブウーファーからの出力をオフにすることができます。Speaker ConfigサブメニューのSubwooferで「No」を選択した場合は表示されません。

d) Late Night（レイトナイト）

劇場用に作られた映画音声は、大きな音と小さな音の差（ダイナミックレンジ）が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聞こうとすると、かなり音量をあげる必要があります。このパラメーターは、ダイナミックレンジを小さくし、全体の音量をあげずに小さな音も聞こえるように調整します。特に夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに役立ちます。「Off」「Low」「High」の設定が可能です。

Off：レイトナイト機能をオフにします。

Low：ダイナミックレンジを小さくします。

High：ダイナミックレンジをさらに小さくします。

- レイトナイトは、ドルビーデジタルソフトでのみ有効です。
- レイトナイトの効果は、ドルビーデジタルソフトによって決まっているため、ソフトによっては効果が少なかったり、効果がない場合もあります。

e) Multiplex（マルチプレックス）

BSデジタル放送などで、MPEG-2 AAC音声多重放送を再生しているときに、音声を選びます。「Main」は主音声、「Sub」は副音声、「Main+Sub」は、主音声と副音声です。

3-4. Delay（ディレイ）

音声と映像のタイミングのずれを補正したり、音声出力の時間差を変えることにより、音場を変えることができます。

項目	パラメーター	初期値
a A/V Sync	0.0ms ～ 74.0ms	0.0ms
Relative Delay		
b Center	－4.0ms ～＋6.0ms	0.0ms
c Surr L/R	－4.0ms ～＋6.0ms	0.0ms
d Surr Back	－4.0ms ～＋6.0ms	0.0ms

a) A/V Sync（A/Vシンク）

ラインダブラーなどのデジタルシグナルプロセッサーを使用した場合、音声と映像の同期が一致せず、音声が先に聞こえる場合があります。この場合、この設定により音声と映像を正しく同期させることができます。設定は、0～74.0msの範囲を0.5ms単位で行います。通常は0msに設定します。設定を25.0ms～74.0msの間にしている場合、アップサンプリング時は強制的に24.0msに設定されます。マルチチャンネル端子に接続したソースの場合、このサブメニューは表示されません。

Relative Delay
b) Center, c) Surr L/R, d) Surr Back

スピーカー間の相対的な位置を変更・調整します。レベルと距離の調整に加えてこの機能を用いることにより、リスニングポイントにおける音場の微調整が可能となります。調整には、当社独自の「エンハンスド・スペーシャル・ポジショニング・アルゴリズム (拡張三次元配置アルゴリズム)」が採用されています。このアルゴリズムにより、スピーカーの出力に対して最大10ミリ秒の時間差(ディレイ)をつけることができます。これは、スピーカー間の位置を約3メートル変えることに相当します。調整可能な範囲は、リスニングポイントに対して－4.0～+6.0ミリ秒(約－1.2～+1.8メートル)です。
スピーカー出力のレベル調整と距離の調整で音場を大まかに設定した後、この機能を使って、サラウンド環境を設定(標準またはワイド)してください。スピーカー間の位置を調整することにより、音場により広がり(厚み)を持たせたり、反対に、まとめる(シャープにする)ことができます。

3-5. LFE Level Setup

ドルビーデジタル、DTS、およびAACソフトのLFE（Low Frequency Effect）レベルを設定します。

項目	パラメーター	初期値
a Dolby Digital	－∞、－ 10dB ～ 0dB	0dB
b DTS	－∞、－ 10dB ～ 0dB	0dB
c AAC	－∞、－ 10dB ～ 0dB	0dB

a. Dolby Digital（ドルビーデジタル）

LFEレベルは－∞、または－10～0dBの範囲を1dB単位で調整できます。ドルビーデジタル入力信号の場合、ここで設定したLFEレベルが使用されます。最適なLFE効果が得られる推奨値は0dB(初期設定)ですが、低音域が強調されすぎる場合、必要に応じて値を下げてください。

b. DTS（ディーティーエス）

LFEレベルは－∞、または－10～0dBの範囲を1dB単位で調整できます。DTS入力信号の場合、ここで設定したLFEレベルが使用されます。最適なLFE効果が得られる推奨値は0dB(初期設定)ですが、音楽ソフトなどで低音域が強調されすぎる場合、必要に応じて値を下げてください。

c. AAC（エーエーシー）

LFEレベルは－∞、または－10～0dBの範囲を1dB単位で調整できます。AAC入力信号の場合、ここで設定したLFEレベルが使用されます。最適なLFE効果が得られる推奨値は0dB(初期設定)ですが、低音域が強調されすぎる場合、必要に応じて値を下げてください。

3-6. Mono Setup

リスニングモードで「Mono」を選んだとき、下記の設定が有効になります。

項目	パラメーター	初期値
a Academy	On、Off	Off
b Input Channel	Auto L+R、Left、Right	Auto L+R

a) Academy（アカデミー）

古いモノラル映画のミキシングでは、上映時に高音を下げることで音のバランスを調節します。これは、フィルムの構造上再生されるヒスノイズが聞こえないようにするためです。高音は、一般に、光学スリット、電気的フィルター、スピーカーレスポンス、スクリーンの組み合わせで下がります。映画によっては、高音域を下げずにビデオへの転送を行った結果、高音が強調されたヒスノイズの多い音が再生されます。本機は、当時、多くのシステムに使用された再生手法に基づいた「アカデミーフィルター」を内蔵しており、「On」または「Off」の設定が可能です。

b) Input Channel（入力チャンネル）

モノラル音声の入力チャンネルを設定します。

AUTO L+R：通常の設定です。ソースがセンターチャンネルの場合は、そのセンターチャンネルをモノラル音声の入力チャンネルとします。それ以外の場合は、L/Rチャンネルのミックス信号をモノラル音声の入力チャンネルとします。

Left/Right：2か国語の情報を含むビデオソースを再生する場合、「Left」または「Right」を選択します。その場合、左右のチャンネルには異なる言語の情報が含まれているので、使用したい言語のチャンネルを選択してください。

3-7. Theater-Dimensional Setup

このサブメニュー画面でパラメーターを設定しておくと、リスニングモードにTheater-Dimensional（T-D）を選んだときに、その設定になります。

項目	パラメーター	初期値
a Listening Angle	20deg, 40deg	20deg
b Center	Off, On	Off
c Front Expander	Off, On	On
d Virtual Surr Level	－3dB ～ +3dB	0dB
e Dialog Enhance	Off, On	Off

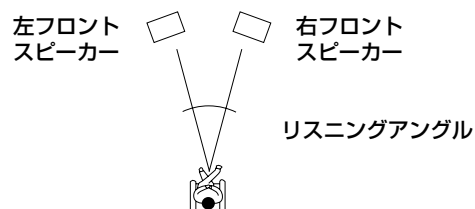
Theater-Dimensional（シアターディメンショナル）

本格的なホームシアターを楽しんでいただくためには、少なくとも左右フロント、センター、左右サラウンドのスピーカーを用意することをお勧めしますが、現状ではフロントスピーカーしか用意できないといった場合には、このモードを使用することでマルチチャンネル再生を楽しめます。

このモードは、左右それぞれの耳に届く音声の特性を制御するモードなので、最もその効果を体験できる視聴位置（スイートスポット）が存在します。下記のリスニングアングルの説明を参考にしてください。

また、反射音成分が大きいと期待した効果が得られない場合があるので、できるだけ反射音の影響の少ないセッティングで視聴されることをお勧めします。

a) Listening Angle（リスニングアングル）

リスニングアングルとは、視聴者から見た左右フロントスピーカーに対する角度です。バーチャルサラウンド処理は、この角度をもとに信号処理を行います。20゜と40゜の二つの角度を選べるようになっています。左右フロントスピーカーから等距離で、かつ選択したリスニングアングルに近い視聴位置がスイートスポットとなります。

b) Center（センター）

Theater-Dimensionalモードでは、システムにセンタースピーカーがある場合にはセンターチャンネルの信号をセンタースピーカーで再生することもできます。これにより、左右フロントスピーカーの負担が軽減され、より明瞭度の優れた音響空間を創造できます。（この場合、左右フロントスピーカーとセンタースピーカーのレベルと到達時間がマッチしていることが大事ですが、「1-2. Speaker Distance」と「1-3. Level Calibration」が正しく設定されていれば、自動的にこの条件は満足されます。）

On：センターチャンネルの信号はセンタースピーカーに出力されます。

Off：センターチャンネルの信号は左右フロントスピーカーに出力されます（ファントムセンター）。

c) Front Expander（フロントエクスパンダー）

前方のステレオステージが狭く感じる場合は、左右フロントスピーカーの位置が実際の位置よりも外側にあるかのような処理をすることで、前方ステレオイメージを拡大することができます。特にリスニングアングルが20゜といったような狭いリスニング条件の場合 に有効な機能です。

On：フロントエクスパンダーをオンにし、前方のステレオイメージを拡げます。

Off：フロントエクスパンダーをオフにします。

d) Virtual Surr Level（バーチャルサラウンドレベル）

バーチャル処理したサラウンド信号のレベルを調整します。－3～＋3dBの範囲で調整できます。また、明瞭度が悪い時や不自然な音がする時にこのレベルを下げることで改善される 場合もあります。

e) Dialog Enhance（ダイアログエンハンス）

Theater-Dimensionalモードで、センターチャンネルにあるセリフや会話が聞き取りにくい場合は、このパラメーターで明瞭度を改善することができます。

On：センターチャンネル信号のボーカルレンジを強調します。

Off：センターチャンネル信号は変更なしにそのまま出力されます。

3-8. Surround Setup

このサブメニュー画面でパラメーターを設定しておくと、リスニングモードにプレーンなDolby DigitalやDTS、AAC、Pro Logic IIを選んだときに、その設定になります。

項目	パラメーター	初期値
a Surr Mode (Analog/PCM)	Pro Logic II Movie Pro Logic II Music DTS Neo:6 Music DTS Neo:6 Cinema	Pro Logic II Movie
b Surr Mode (D.F.2ch)	Pro Logic II Movie Pro Logic II Music	Pro Logic II Movie
c DTS-ES	Auto, On, Off	Auto
<Pro Logic II Music> d Panorama	On、Off	Off
e Dimension	0、1、2、3、4、5、6	3
f Center Width	0、1、2、3、4、5、6、7	3

a) Surr Mode（Analog/PCM）

2チャンネルアナログ/PCM信号入力時のサラウンドモードを切り換えます。

b) Surr Mode（D.F.2ch）

2チャンネルデジタル信号入力時のサラウンドモードを切り換えます。

c) DTS-ES（ディーティーエス・イーエス）

DTS-ESモードを切り換えます。

Auto：DTS-ESフラグ（DTS-ESの識別信号）のあるDTSソースが入ってきたときに自動的にDTS-ES Discrete 6.1、DTS-ES Matrix 6.1に切り換わります。フラグがなければ、DTS 5.1再生になります。

On：DTS-ESフラグがあれば、自動的にDTS-ES Discrete 6.1、DTS-ES Matrix 6.1に切り換わります。フラグがない場合でも、強制的にDTS-ES Matrix 6.1再生になります。

Off：DTS-ESフラグがあっても、DTS-ES再生は行いません（常にDTS 5.1再生になります）。

d) Pro Logic II Music Panorama
（プロロジック II ミュージック パノラマ）

前方の音場を横方向まで広げることができます。

On：PL II Music Panorama効果をオンにします。

Off：PL II Music Panorama効果をオフにします。

e) Pro Logic II Music Dimension
（プロロジック II ミュージック ディメンション）

音場を前方あるいは後方に少しずつ調整できます。
3を中心に、2、1、0にすると前方へ、4、5、6にすると後方へ移動します。
録音に広がり感がありすぎたりサラウンドが強すぎる場合、良好なバランスを得るためには、音場を前方に調整します。逆に、ステレオ録音がいくぶんか「モノラル」あるいは「狭い」感じの音である場合、より包み込まれるようにするためには後方へ調整します。

f) Pro Logic II Music Center Width
（プロロジック II ミュージック センターウイズス）

プロロジック II デコーディングでは、顕著なセンター信号はセンタースピーカーからのみ出力されることになります。センタースピーカーがない場合、デコーダーはセンター信号をフロント左右スピーカーに等分に振り分け、「ファントム」センター音像を創り出します。
センターウイズスは、センター音像がセンタースピーカーからだけ、あるいはファントム音像としてフロント左右スピーカーからだけ、あるいは種々の割合で三つすべてのスピーカーから聞こえるように、センター音像の可変調整をできるようにします。家庭のユーザーにとって、少量の「幅(ウイズス)」をセンター信号に適用する事はセンタースピーカーとメインスピーカーの配合を改善し、センターの音像幅、すなわち「重量」感に影響を与えます。ステレオ再生用に処理された多くの音楽録音はこのコントロールを使ってよりよい音になります。したがってミュージック（音楽）モードに対して位置「3」の値を使用するコントロールに設定することをおすすめします。これはまた、自動的にコントロールを位置「0」にプリセットされるプロロジック II ムービー（映画）モードとプロロジック II ミュージックモードを区別するのにも役立つことになります。

3-9. THX Setup

このサブメニュー画面でパラメーターを設定しておくと、リスニングモードにTHXを選んだときに、その設定になります。

項目	パラメーター	初期値
a Re-EQ (THX)	Off、On	On
b Decoder (Analog/PCM)	PL II Neo:6	PL II
c THX Surround EX (Dolby D)	Auto、On、Off	Auto
d THX Surround EX (AAC)	On、Off	Off

a) Re-EQ（リ・イーキュー）

映画館用にミキシングされた音声をホームシアターのスピーカーで再生すると、高音域が強調される傾向があります。
Re-EQは、高音域をホームシアター音声用に補正します。「On」または「Off」の設定が可能です。
このパラメーターは、THXモードの時に有効です。また、本機の電源をオンにしたときは、「On」に設定されます。

b) Decoder

THX処理のためのデコードモードを選びます。

PL II：Dolby Pro Logic II Movieでデコードします。

Neo:6：DTS Neo:6 Cinemaでデコードします。

c) THX Surround EX（Dolby D）

サラウンドバックスピーカーを使用しているとき、Dolby DigitalソースをTHXサラウンドEX再生するかどうかを設定します。

Auto：EX識別信号が有るソースの場合、自動的にTHX サラウンド EX再生になります。

On：EX識別信号の有無にかかわらず、THX サラウンド EX再生を行います。

Off：EX識別信号の有無にかかわらず、THX サラウンド EX再生を行いません（通常のDolby D再生）。

d) THX Surround EX（AAC）
サラウンドバックスピーカーを使用しているとき、Dolby Digital以外(AAC)のソースをTHXサラウンドEX再生するかどうかを設定します。

On：THXサラウンドEX再生を行います。

Off：THXサラウンドEX再生を行いません。

3-10. 3-11. 3-12. 3-13. 3-14. 3-15. Mono Movie Setup／Enhanced 7 Setup／Orchestra Setup／Unplugged Setup／Studio-Mix Setup／TV Logic Setup
このサブメニュー画面でパラメーターを設定しておくと、リスニングモードにMono Movie、Enhanced 7、Orchestra、Unplugged、Studio-Mix、TV Logicを選んだときに、その設定になります。

項目	パラメーター	初期値
a Front Effect	Off, On	On
b Reverb Level	Low、Middle、High	Middle
c Reverb Time	Short、Middle、Long	Middle

a) Front Effect（フロントエフェクト）
ライブコンサートなどが録音されたソースはあらかじめ周囲の残響音が収録されています。このようなソフトを再生するとこれにDSPによる残響音が加わるため過剰な効果となり、雰囲気がぼやけたように聞こえることがあります。このような場合、FRONT EFFECTをオフにするとフロント3チャンネルからの再生音にはDSPによる残響音を加えずに再生しますので、ソースの情報をありのまま再生することができます。

b) Reverb Level（残響レベル）
再生するソース、部屋の状況などに合わせて、残響音の大小を調節します。「Low」、「Middle」、「High」の3段階から選べます。

c) Reverb Time（残響時間）
再生するソース、部屋の状況などに合わせて、残響時間の長短を調節します。「Short」、「Middle」、「Long」の3段階から選べます。

OSD（オンスクリーンディスプレイ）

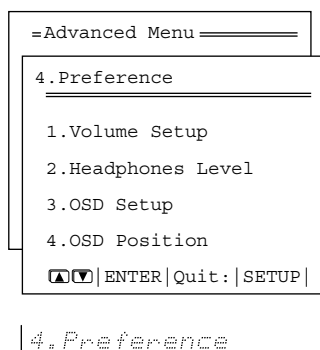
リスニングモードと設定できるパラメーター

パラメーター / リスニングモード	Tone Control	Subwoofer	Re-EQ	Surround Speakers	Upsampling	LATE NIGHT	LFE Level	Front Effect	Reverb Level	Reverb Time
Multiplex	●	●	●							
Direct										
Stereo	●	●	●		●					
Mono	●	●	●							
Theater-Dimensional	●	●								
Dolby Pro Logic II	●	●	●*1	●	●					
Dolby Digital	●	●	●	●		●	●			
DTS Neo:6	●	●	●*1							
DTS	●	●	●	●			●			
DTS-ES Discrete	●	●	●				●			
DTS-ES Matrix	●	●	●				●			
AAC	●	●	●	●			●			
THX Cinema(PLII)		●	●	●						
THX Cinema(Neo:6)		●	●							
THX Surround EX		●	●				●			
DTS-ES THX Cinema		●	●				●			
Mono Movie	●	●	●	●				●	●	●
Enhanced 7	●	●	●					●	●	●
Orchestra	●	●	●	●				●	●	●
Unplugged	●	●	●	●				●	●	●
Studio-Mix	●	●	●	●				●	●	●
TV Logic	●	●	●	●				●	●	●
All CH Stereo	●	●	●							

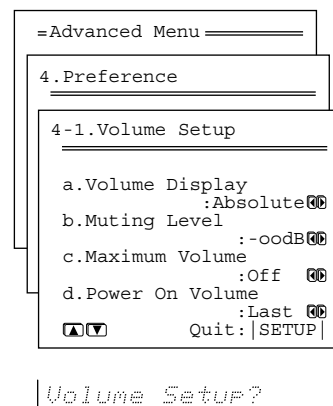
ここで言うSurroundとは、基本になるサラウンドモードのことで、Dolby Pro Logic II、Dolby Digital、DTS、AACなどのことです。

*1 DTS Neo:6 Cinema, PL II Movieのときに有効です。

4. Preferenceメニュー

4.Preference

4-1. Volume Setupサブメニュー

本機の音量に関するさまざまな設定を行います。

Volume Setup?

a. Volume Display（音量表示）

画面上に表示する音量設定に関して、次の2つの方法から選択できます。

Absolute(絶対値)：最小Min(0)(無音)〜最大Max(100)の範囲で音量を設定できます。絶対値設定のRef(82)は、相対値設定のレベル0dBに相当します。

Relative(相対値)：音量は、スケール上に0で表示される基準点のdB値で表示されます。この基準点は、絶対値設定の82に相当します。相対値設定では、最小が−∞、次が−81、最大が＋18となります。

b. Muting Level (ミューティングレベル)

再生中にリモコンのMUTINGボタンを押した時の音量を設定します。設定は−∞、−50dB〜−10dBの範囲を10dB単位で行えます。

c. Maximum Volume（最大音量）

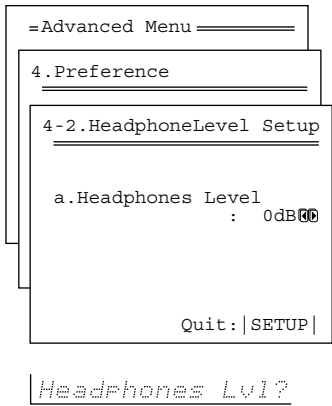
MASTER VOLUMEつまみの最大出力レベルを設定し、音量が大きくなりすぎないようにします。絶対値方式の音量設定を選択した場合、50〜99の範囲で設定できます。また、相対値方式の場合は、−32〜＋17dBの範囲を設定できます。設定しないときは、「Off」を選びます。

d. Power On Volume

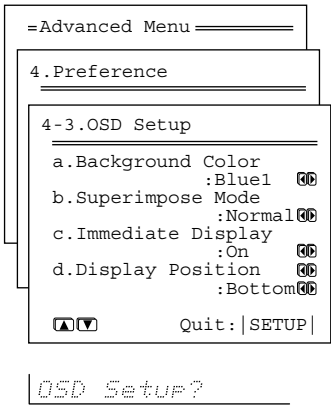
本機に電源を入れた時の音量を設定し、大音量設定時でも、電源オン時に一定の音量が出力されるようにします。絶対値方式の音量設定を選択した場合、Min、1〜Ref(82)〜99、Maxの範囲で設定できます。また、相対値方式の場合は、−∞、−81〜＋18dBの範囲で設定できます。次回電源を入れた時に現在の音量設定を使用したい場合は、「Last」に設定します。

4-2. Headphones Level Setupサブメニュー

スピーカーで聞くときと音量差があるときにヘッドホンの音量を微調整できます。－12dB～＋12dBの範囲で微調整します。

Headphones Lvl?

4-3. OSD Setupサブメニュー

OSD（On Screen Display）メニューの表示方法をカスタマイズできます。

OSD Setup?

a. Background Color（背景色）
OSDメニューを表示する時の背景色を、Blue1（青1）、Blue2（青2）、Green1（緑1）、Green2（緑2）、Magenta（紅色）、Red1（赤1）、Red2（赤2）の中から選択します。

b. Superimpose（スーパーインポーズ）

Off：選択中の背景色の上にOSDメニューを表示します。

Normal（ノーマル）：映像の表示中は映像の上にOSDメニューを、映像信号を受信していないときは選択中の背景色の上にOSDメニューを表示します。

Black（ブラック）：常に黒の背景色の上にOSDメニューを表示します。

c. Immediate Display（同時表示）

On：操作をした時にすぐに関連画面を表示し、操作終了後しばらく表示されます。たとえば、入力切り換えボタンを押すと選んだ入力が表示されます。

Off：同時表示をしません。

VIDEO 1

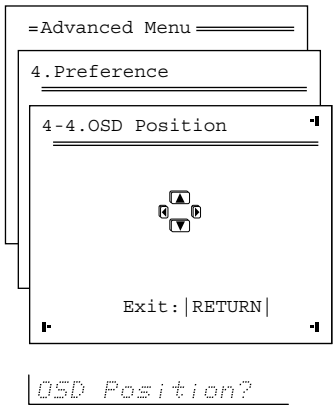
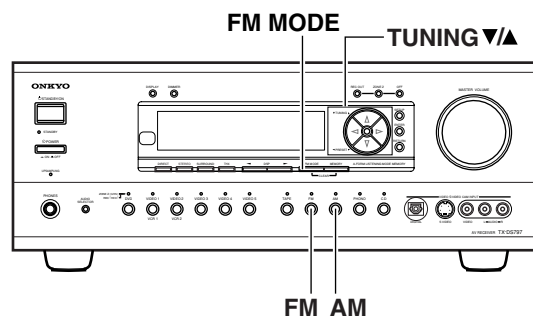
ヒント

「Off」に設定すると映像信号がない時でも背景色は表示されません。

d. Display Position（表示位置）
操作をした時にすぐに表示される同時表示の位置を設定します。同時表示の位置は、画面のTop（上）からBottom（下）まで、10段階の中から設定できます。

4-4. OSD Positionサブメニュー

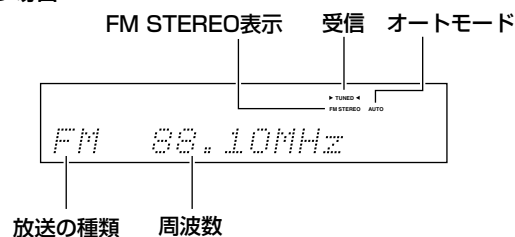
画面に表示されたOSDメニューの位置を微調整できます。
使用するテレビによっては、OSDメニューが中央に表示されず、メニューの一部が表示されないことがあります。
OSDメニューの位置調整には、カーソルボタンを使用します。移動したい方向のカーソルボタン押すたびに、メニューが少しずつ移動します。

OSD Position?

ラジオ放送を聞く

FM/AM放送を聞く

本機はさまざまなリスニングモードを備えているため、ご使用のオーディオシステムの性能を最大限に引き出しながら、ラジオ放送をお楽しみいただけます。また、よく聞く放送局をプリセットしておけば、リモコンのCH +/− ボタンを使って自動受信できます。

AM放送の場合

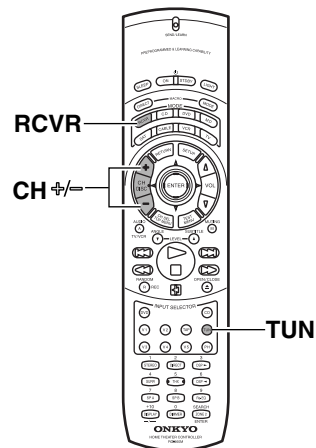
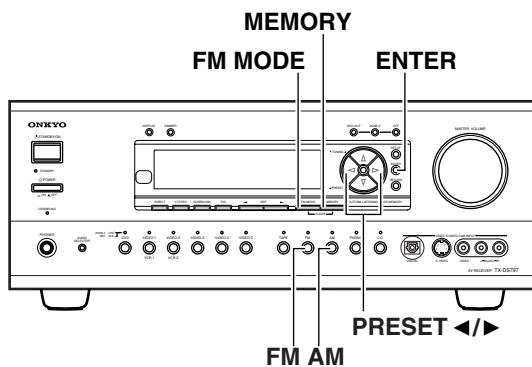
FM放送の場合

放送局を受信する

1. 入力切り換えボタンのAMまたはFMを押す

2. フロントパネルのTUNING ▲/▼ボタンで、受信したい放送局の周波数に合わせる

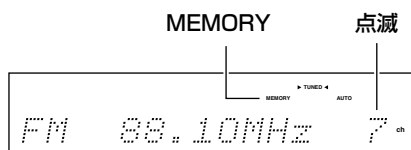
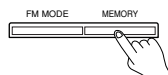
放送局を受信するとTUNED表示が点灯します。ステレオ放送の場合は、FM STEREO表示が点灯します。ノイズが多くて聞きづらいときは、フロントパネルのFM MODEボタンを押します。AUTO表示が消えてモノラルモードになります。受信操作中に放送局間のノイズが聞こえますが、ステレオモードの時の音切れがなくなります。再びステレオモードに戻したいときは、FM MODEボタンを押すとAUTO表示が点灯します。

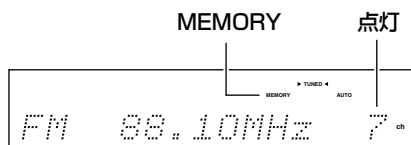
- FMの場合は100kHz単位、AMの場合は9kHz単位で周波数を変更できます。
- FMの場合は、▲（または▼）ボタンをしばらく押してから手を放すと自動的に周波数が上がり（下がり）放送局を受信すると止まります。

ラジオ放送を聞く

放送局をプリセットする

本機で操作します。

1. プリセットしたい放送局を受信する
   （前項の「放送局を受信する」をご覧ください。）

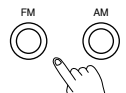
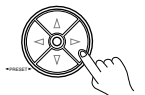
2. フロントパネルのMEMORYボタンを押す

3. PRESET ◀/▶ ボタンで、プリセットしたい放送局に割り当てるプリセット番号（1〜40）を選ぶ

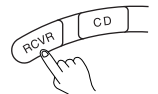
4. ENTERボタンを押してプリセットする

受信した放送局がプリセットされます。

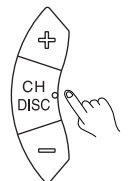
- 本体のメモリーに40局まで放送局をプリセットできます。
- 各プリセット局に名前をつけることができます。（☞39ページ）

プリセットした放送局を受信する

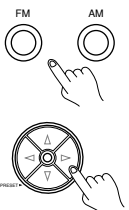
本機で操作する場合：

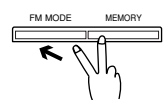
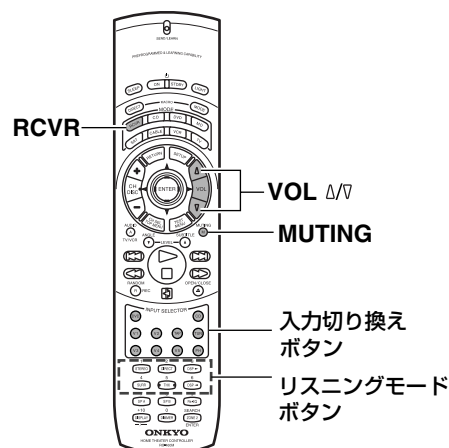
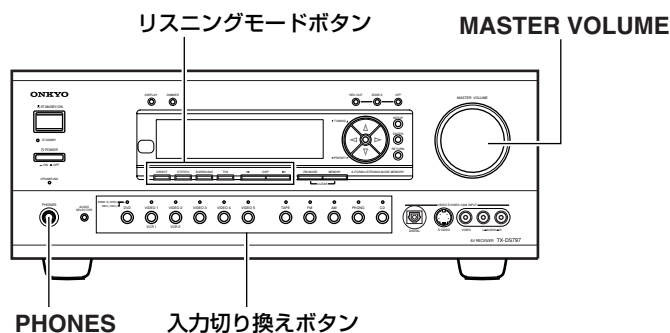
1. 入力切り換えボタンのFMまたはAMボタンを押す

2. PRESET ◀/▶ ボタンを押して、受信したいプリセット番号を選ぶ

リモコンで操作する場合：

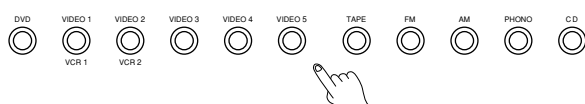
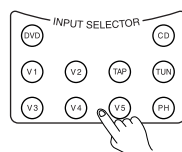
1. RCVRボタンを押す
   RCVRボタンが緑色に点灯します。

2. TUNボタンを押す

3. CH +/−ボタンを押して受信したいプリセット番号を選ぶ

プリセットした放送局を削除する

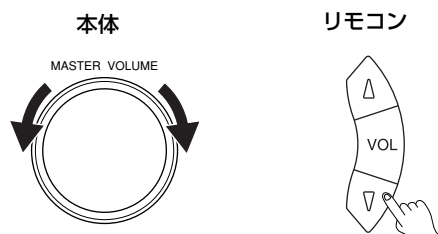
本機で操作します。

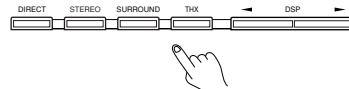
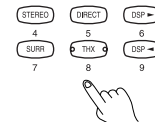
1. FMまたはAMボタンを押し、PRESET ◀/▶ ボタンを押して、削除したい放送局を選ぶ

2. MEMORYボタンを押しながら、FM MODEボタンを押す
   選択した放送局が削除されプリセット番号が消えます。

音楽／映画を鑑賞する

音楽やビデオを再生する

再生ソースを選ぶ

再生ソースを選択するには、再生したいソースに対応するフロントパネル（またはリモコン）の入力切り換えボタンを押します。

ソースを選択したら、選択した機器の電源を入れて再生状態にします。

音量を調整する

リモコンのVOL∆/∇ボタンまたは本体のMASTER VOLUMEを回します。音量を上げるときは右に、下げるときは左に回します。接続しているすべてのスピーカーの音量を同時に調節します。
ヘッドホンを接続しているときは、ヘッドホンの音量を調整します。

リスニングモードを変更する

再生中にリスニングモードを変更するには、フロントパネルまたはリモコンのリスニングモードボタンを押します。

名ボタンの操作については「リモコン」（14ページ）をご覧ください。
リモコンの各ボタンと本体のボタンとの対応は下表のとおりです。

本体	リモコン
DIRECT	DIRECT
STEREO	STEREO
SURROUND	SURR
THX	THX
DSP ◀/▶	DSP ◀/▶

本体とリモコンのボタンの機能は同じです。

ヘッドホンで聞く

ヘッドホンで聞くには、フロントパネルのPHONES端子に標準ステレオプラグを挿入します。サラウンドモードは自動的にステレオになり、スピーカーからの音は出なくなります。

ご注意

ZONE 2スピーカーからの音は、ヘッドホンを接続した状態でも出力されます。

本機のさまざまな機能を使う

異なる入力ソースを組み合わせて出力する:
あるソースの映像を見ながら、別のソースの音声を聞くことができます。（☞ 38ページ「Video Setupサブメニュー」）

入力ソースとチューナープリセット局に名前を付ける:
各ソースの名前を入力すれば、ソースを選択した時にフロントパネルの表示部に機器名などを表示できます。（☞ 39ページ）

スピーカーの出力レベルを一時的に変更する:
各スピーカーの音量を変更するには、リモコンで以下の操作を行います。本機をスタンバイ状態にすると、設定内容が変更前の値に戻ります。

1. CH SELボタンを押して、出力レベルを変更したいスピーカーを選ぶ。
2. LEVEL▲またはLEVEL▼ボタンを押して、音量を調節する。

スリープ機能を使用する:
スリープタイマーを設定するには、リモコンのSLEEPボタンを押した後、本機がスタンバイ状態になるまでの時間を設定します。（☞ 13ページ「SLEEPボタン」）

一時的に音を消す:
電話がかかってきたときなど、一時的に音を消したい場合、リモコンのMUTINGボタンを押します。（☞ 14ページ「MUTINGボタン」）

低音と高音を調節する:
SetupメニューのTone Controlサブメニュー（Audio Adjust→Tone Control）で低音と高音のレベルを調節できます。（☞ 43ページ）

ただし、リスニングモードでDIRECTを選んでいるときは調整できません。

フロントパネルの表示部の明るさを調節する:
リモコンまたはフロントパネルのDIMMERボタンでフロントパネルの表示部の明るさを調整できます。（☞ 11、14ページ「DIMMERボタン」）

マルチチャンネル音声を楽しむ

操作の前に、マルチチャンネル出力を備えた機器が正しく接続されていること、およびInput SeupメニューのMultichannel Setupサブメニューの設定が「YES」になっていることを確認してください。（☞ 38ページ）

1. リアパネルのMULTI CHANNEL INPUT端子に接続した機器に対応した入力切り換えボタンを押す

2. フロントパネルのAUDIO SELECTORボタン（またはリモコンのAUDIOボタン）を押して、“Multich”を選ぶ

3. マルチチャンネル出力機器の電源を入れ、ソースを再生する

4. MASTER VOLUMEつまみ（またはリモコンのVOL △/▽ボタン）で音量を調整する

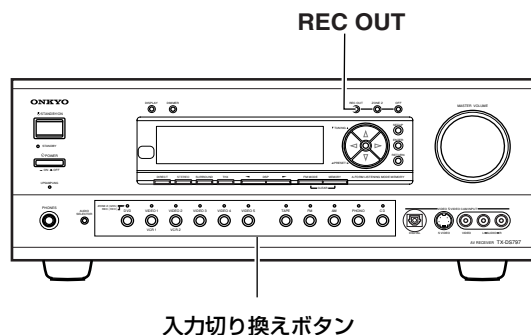
各スピーカーの音量を調整するには
（左項「スピーカーレベルを一時的に調整する」参照）
左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーは、−12〜＋12dBの範囲で、サブウーファーは−30〜＋12dBの範囲で調整できます。

ご注意
MULTI CHANNEL INPUTの各スピーカーレベルは、テストトーンで設定したスピーカーレベルとは独立していますので反映されません。

録音・録画する

あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは著作憲法上、権利者に無断で使用できません。

REC OUT

入力切り換えボタン

ご注意

- サラウンド効果は録音されません。
- DIGITAL INPUT（COAX）およびDIGITAL INPUT（OPT）の各入力端子から入力されたデジタル信号は、DIGITAL OUTPUT（OPT）の出力端子から出力されます。
- デジタル信号の録音・録画については制約があります。デジタル録音されるときは、デジタル録音機器（MDレコーダーやDATなど）の取扱説明書もご覧ください。
- MULTICHANNEL INPUT端子に接続したソース機器からの信号は録音・録画できません。

音楽や映画を再生しながら録音・録画する

現在再生中の音楽や映画を録音・録画します。

1. 入力切り換えボタンを押して、録音・録画ソースを選ぶ

2. REC OUTボタンをくり返し押して「Rec Sel : SOURCE」を表示させる

現在選択中のソースからの信号がTAPE OUT、VIDEO 1 OUT、VIDEO 2 OUTの各出力端子に出力され、録音・録画可能な状態になります。

Rec Sel :SOURCE

3. 録音・録画機器で、録音・録画を始める

異なるソースの音楽と映像を録音・録画するには：

あるソースの音を別のソースの映像に加えて、オリジナルビデオを作成できます。
以下の手順は、CD IN端子に接続したCDプレーヤーの音声とVIDEO 5端子に接続したビデオカメラの映像をVIDEO 1 OUT端子に接続したビデオデッキで録音・録画する例です。

1. 入力切り換えボタンを押して、CDを選ぶ

2. SetupメニューのVideo SetupサブメニューでVideoを「Video 5」に設定する（Input Setup→Video Setup→Video）

3. CDプレーヤーにCDをセットし、VIDEO 5端子に接続したビデオカメラにテープをセットする

4. VIDEO 1 OUT端子に接続したビデオデッキにビデオテープをセットする

5. あとの手順は上記2、3と同じです

ご注意

- 録音・録画中にソースを切り換えると、新しく選択されたソースからの信号が録音・録画されます。
- デジタル音声入力はデジタル音声出力にのみ、アナログ音声入力はアナログ音声出力にのみ出力されます。

再生中に別のソースを選んで録音・録画する

現在再生中の音楽や映画以外のソースを録音・録画します。

1. REC OUTボタンを押す

2. 5秒以内に入力切り換えボタンを押して、録音・録画ソースを選ぶ

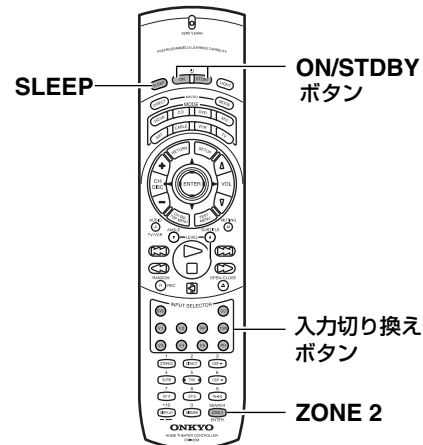
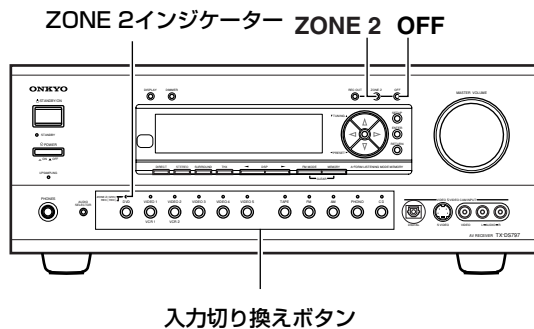
再生中のソースとは別に、選択されたソースが表示窓に表示され、録音・録画ソースの信号がTAPE OUT、VIDEO 1 OUT、VIDEO 2 OUTの各出力端子に出力され、録音・録画可能な状態になります。

Rec Sel :VIDEO3

3. 録音・録画機器で、録音・録画を始める

ご注意

- リモート出力端子（ZONE 2）と録音・録画出力端子（REC OUT）は同一回路を使用しているため、同時に使用できません。
- 録音ソースをFM（またはAM）にしているときに入力切り換えボタンでAM（またはFM）を選ぶと録音ソースもAM（またはFM）に切り換わります。

音楽を別室で楽しむ

本機で操作する

1. ZONE 2ボタンを押す

2. ソースを選ぶ

ZONE 2ボタンを押した後、5秒以内に入力切り換えボタンを押してください。ZONE 2インジケーターが緑色に点灯します。

例）CDボタンを押したとき

Zone2Sel:CD

メインルームで選択中のソースと同じソースを選択するときは、ZONE 2ボタンを繰り返し押して"Zone2Sel: SOURCE"を表示させます。

Zone2Sel:SOURCE

「Zone2Sel:Off」のときは、Zone 2からの出力はありません。

ご注意

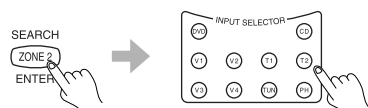
- SLEEPボタンでスリープ時間を設定すると、別室（ZONE 2）でも働きます。
- メインルームと別室（ZONE 2）で同じソースを再生している場合、メインルームで入力ソースを切り換えると別室の入力ソースも切り換わります。
- ZONE 2端子はアナログ出力ですので、デジタル音声は出力されません。選んだソースの音声が聞こえない場合は、その機器がアナログ（L/R端子）接続されているかご確認ください。
- 別室でシステムを使用中にメインルームでREC OUTボタンを押した場合、ZONE 2機能は働かなくなり、別室での再生は停止します。
- ZONE 2ソースをFM（またはAM）にしているとき、入力切り換えボタンでAM（またはFM）を選ぶとZONE 2ソースもAM（またはFM）に切り換わります。
- ZONE 2使用時、RIによるシステム動作は働きません。
- **ZONE 2機能を使わないときは、ZONE 2ボタンを押してからOFFボタンを押し、ZONE 2インジケーターを消してください。**

リモコンで操作する

ZONE 2機能をオンにして、本機のスタンバイ状態を解除する

ZONE 2ボタンを押した後、ON/STDBYボタンを5秒間押します。

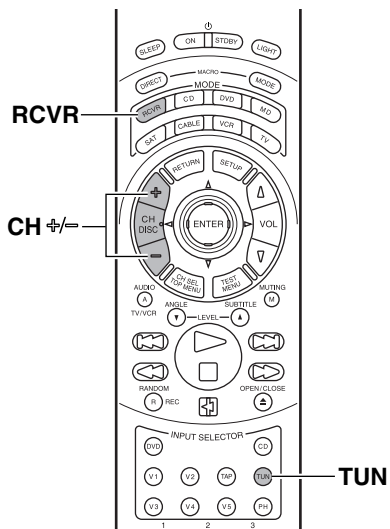
ソースを選ぶ

ZONE 2ボタンを押した後、入力切り換えボタンを5秒間押します。
TUNボタンでチューナーを選んだ場合は、CH+/−ボタンは操作できません。

ご注意

- 音量調節はプリメインアンプで行ってください。
- リモコンのZONE 2ボタンを押した後5秒間は、本機のSTANDBYインジケーターが点滅します。この間はメインゾーンの操作はリモコンではできません。

リモコンを使う

はじめに

本機のリモコンで、接続した機器が操作できます。
接続した機器を操作するには、はじめにモードボタンで操作する機器を選び、次に各操作ボタンを押します。たとえばCDプレーヤーを操作するには、CD MODEボタンを押してから、CD操作ボタンを押します。

プリセット局を呼び出す

1. **RCVR MODEボタンを押す**
   RCVR MODEボタンが緑色に点灯します。
2. **TUNボタンを押す**
3. **CH+または CH−ボタンを押して、プリセット番号を選ぶ**

オンキヨー製テープデッキを操作する

あらかじめテープデッキはRI 接続しておいてください。（☞17ページ）

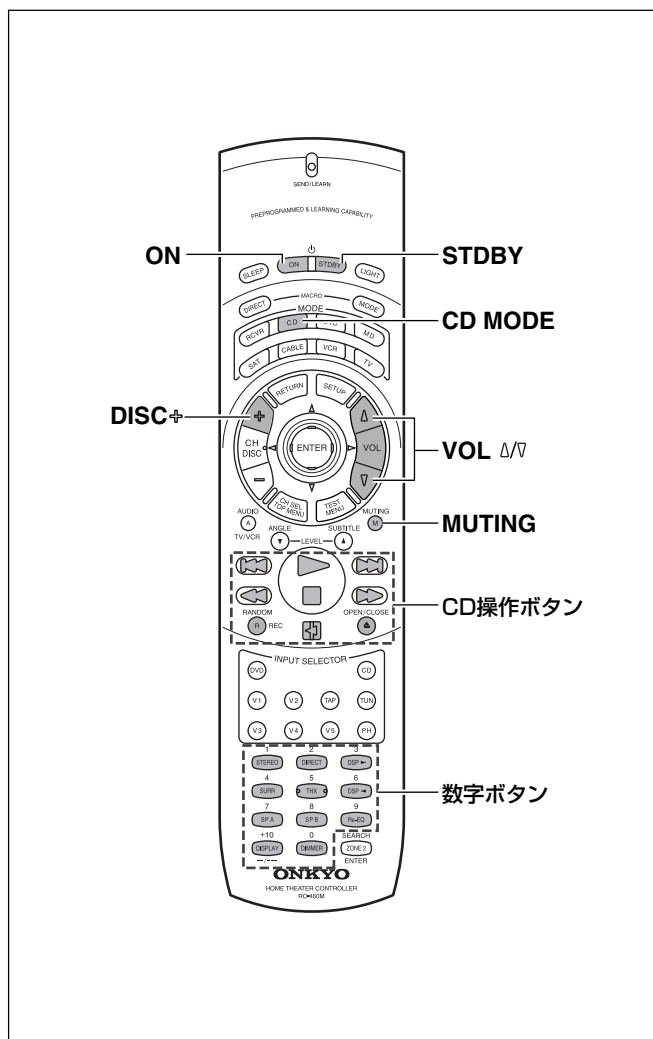
1. **RCVR MODEボタンを押す**
   RCVR MODEボタンが緑色に点灯します。
2. **各操作ボタンを押す**
   左の図にグレーで示したボタンが、テープデッキ操作用のボタンです。

操作ボタン

▷: 再生
□: 停止
◁◁: 巻戻し
▷▷ : 早送り
▷▷|: 再生中に押すと、次の曲の始めにスキップします。
|◁◁: 再生中に押すと、現在再生中の曲の始めにスキップします。
REC: 録音／一時停止
⇄: リバース再生

下記のボタンも操作することができます。
VOL∆/∇ : 本機の音量調整
MUTING: 本機のミューティング

ご注意

録音状態によっては|◁◁ ／▷▷|ボタンを押したときに正しく動作しないことがあります。

オンキヨー製CDプレーヤー

あらかじめCDプレーヤーはRI 接続しておいてください。
(☞17ページ)

1. **CD MODEボタンを押す**
   CD MODEボタンが緑色に点灯します。

2. **各操作ボタンを押す**
   左の図にグレーで示したボタンが、CDプレーヤー操作用のボタンです。

操作ボタン

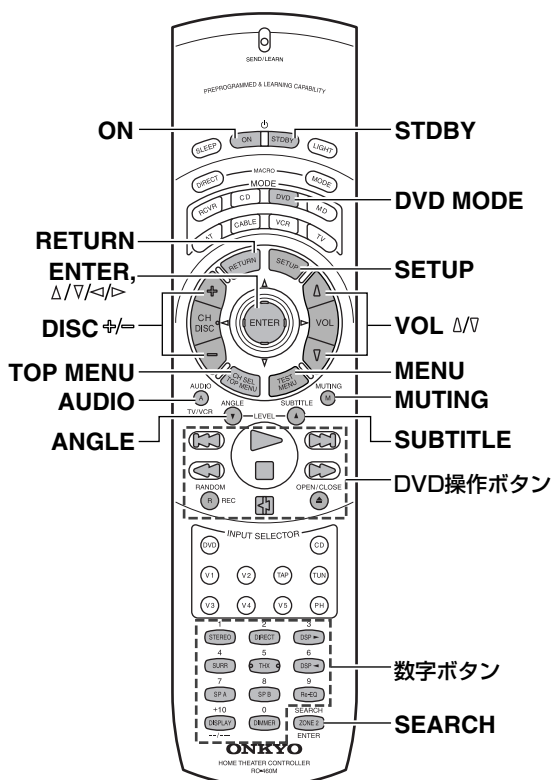
ON: CDプレーヤーの電源オン／オフ（STDBY ボタンも同じ働きです）
DISC+ : CDチェンジャーのディスクの選択
⏮: トラックダウン
⏭: トラックアップ
▷: 再生
□: 停止
◁◁: 早戻し
▷▷: 早送り
⏸: 一時停止
OPEN/CLOSE ⏏: ディスクトレイの開閉
0, 1から9, +10: 数字ボタン
RANDOM: ランダム再生

下記のボタンも操作することができます。
VOL ∆/∇: 本機の音量調整
MUTING: 本機のミューティング

オンキヨー製DVDプレーヤーを操作する

あらかじめDVDプレーヤーーRI接続しておいてください。
(☞17ページ)

1. **DVD MODEボタンを押す**
   DVD MODEボタンが緑色に点灯します。

2. **各操作ボタンを押す**
   左の図にグレーで示したボタンがDVDプレーヤー操作用のボタンです。

操作ボタン

ON: DVDプレーヤーの電源オン／オフ

STDBY: DVDプレーヤーの電源オフ (このボタンが働かない場合は、ONボタンを押してDVDプレーヤーをスタンバイ状態にして下さい。)

SETUP: セットアップメニュー表示

∆/∇/◁/▷: DVDプレーヤーOSDのカーソル移動

ENTER: DVDプレーヤーOSDの決定

RETURN: DVDプレーヤーOSDのリターン

TOP MENU／MENU: トップメニューまたはメニュー表示

DISC+/−: DVDチェンジャーのディスク選択

AUDIO: 音声言語の選択

ANGLE: カメラアングルの選択

SUBTITLE: 字幕の選択

SEARCH: サーチ

RANDOM: ランダム再生

⏮: チャプター／トラックダウン

⏭: チャプター／トラックアップ

▷: 再生

□: 停止

◁◁: 早戻し

▷▷: 早送り

⏸: 一時停止

OPEN/CLOSE ⏏: ディスクトレイの開閉

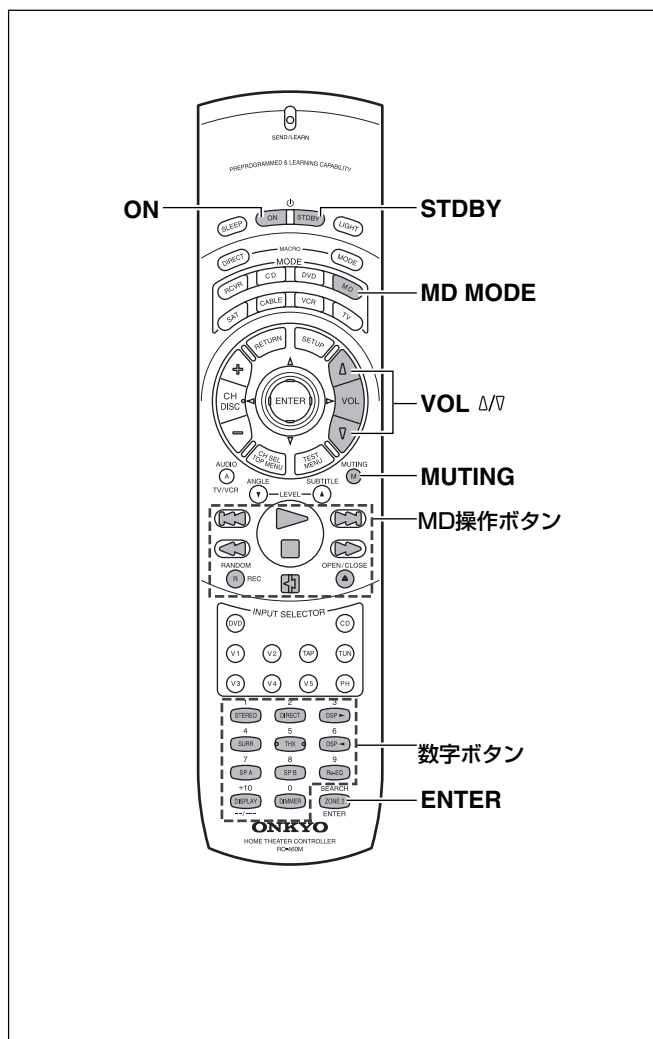
0, 1から9, +10: 数字ボタン

下記のボタンも操作することができます。

VOL ∆/∇: 本機の音量調整

MUTING: 本機のミューティング

ご注意

DVDプレーヤーを RI接続していないとき、またはRI端子のないDVD プレーヤーを操作するときは、リモコンコードを記憶させる必要があります。 (☞61ページ)

オンキヨー製MDレコーダーを操作する

あらかじめMDレコーダーは RI接続しておいてください。(☞17ページ)

1. MD MODEボタンを押す
   MD MODEボタンが緑色に点灯します。
2. 各操作ボタンを押す
   左の図にグレーで示したボタンがMDレコーダー操作用のボタンです。

操作ボタン

ON: MDレコーダーの電源オン／オフ（STDBY ボタンも同じ働きです）

⏮: トラックダウン

⏭: トラックアップ

▷: 再生

□: 停止

⏪: 早戻し

⏩: 早送り

REC: 録音

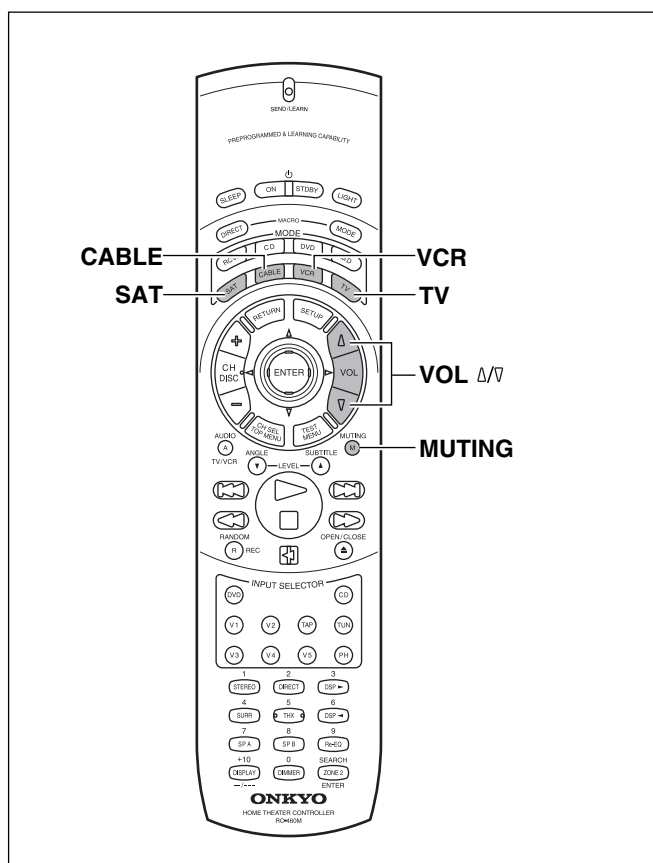
⏸: 一時停止

⏏: 取り出し

1から9, 0, --/---: 数字ボタン

ENTER: 決定

下記のボタンも操作することができます。

VOL ∆/∇: 本機の音量調整

MUTING: 本機のミューティング

SAT／CABLE／VCR／TV MODEボタン

これらのボタンで他機を操作するためには、リモコンコードを記憶させることが必要です。

「リモコンコードを記憶させる」（☞ 次ページ）または「他機のリモコンから学習させる」（☞ 64ページ）をご覧ください。

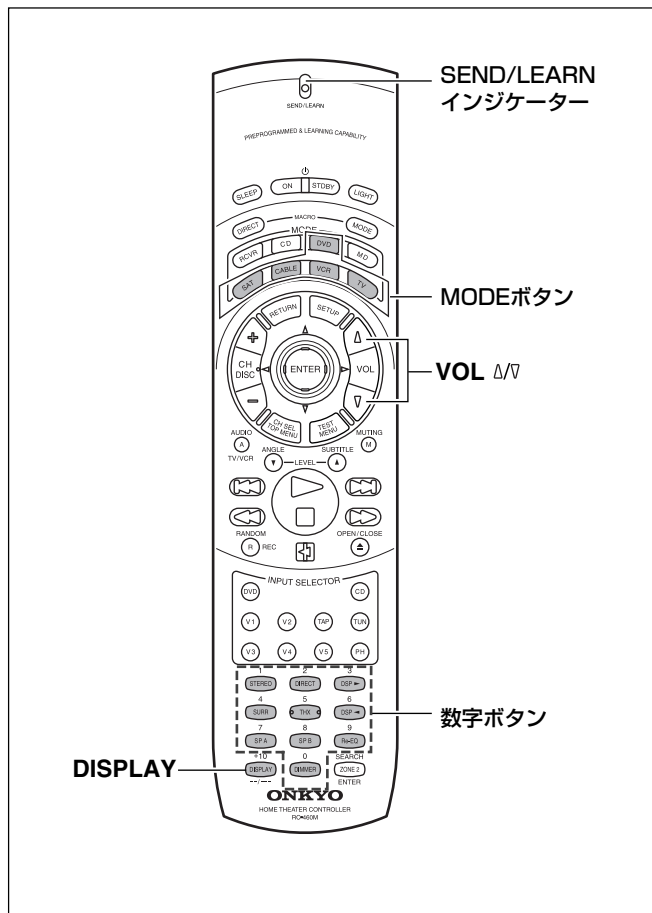
下記のボタンも操作することができます。

VOL∆/∇ : 本機の音量調整

MUTING: 本機のミューティング

リモコンコードを記憶させる

リモコンコードを記憶させるには、次の3つの方法があります。

- 他機のリモコンコードを登録する
- 他機のリモコンから学習させる（☞ 64ページ）
- マクロ機能を使う（☞ 67ページ）

機器によっては、正しく操作できないことがあります。その場合は、「他機のリモコンから学習させる」（☞ 64ページ）の方法で学習させてください。

他機のリモコンコードを登録する

次ページのコード表を参照しながら操作してください。

1. **登録したい他機のメーカー名別コード（3桁）を確かめる（☞次ページ）**

2. **操作したい他機の電源を入れる（DVD、チューナー、TVなど）**

3. **登録したいMODEボタンを押しながら、DISPLAYボタンを押し、両方から指を離す**
   MODEボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが点灯し、DISPLAYボタンを押すと消えます。SEND/LEARNインジケーターが消えてから、指を離してください。指を離すと、SEND/LEARNが再び点灯します。

4. **30秒以内に、3桁のコードを入力する**
   SEND/LEARNインジケーターが、2回ゆっくり点滅します。3回すばやく点滅したときは、登録に失敗しているので、改めて手順3から操作してください。

5. **登録したボタンを押して、他機を操作する**

- もし他機が操作できないときは、手順3に戻って登録をやり直してください。
- 登録をやり直しても他機が操作できないときは、「他機のリモコンから学習させる（☞ 64ページ）の方法でボタンごとにコードを登録してください。

オンキヨー製DVDプレーヤーのコードを登録するときは

次の3種類のコード番号があります。DVDプレーヤーの使用方法に応じて、選んでください。

No. 601/613: これらのコードでは、RI端子がついていない、またはRI接続していないDVDプレーヤーを直接操作することができます。まず「601」を登録し、正しく動作しないときは、「613」にしてください。

No. 600: このコードでは、RI接続しているDVDプレーヤーを操作することができます。リモコンは本機のリモコン受光部に向けて操作できます。初期設定は「600」になっているので、そのまま使用するときは設定の必要はありません。「601」または「613」設定の状態から「600」設定に戻すときに操作してください。

リモコンコード表

ご注意
複数のコード番号があるときは、1つずつ登録し、機器に合った方を選んでください。

DVD（DVDプレーヤー）

ブランド名	コード番号
DENON	602, 609
HITACHI	603
JVC	604
KENWOOD	605
MAGNAVOX	606, 613
MARANTZ	607
MITSUBISHI	608, 613
ONKYO	600, 601, 613
PANASONIC	609
PIONEER	610
PROSCAN	611
RCA	611
SONY	612
TOSHIBA	613
YAMAHA	609, 614
ZENITH	613, 615

SAT（衛星放送チューナー）

ブランド名	コード番号
ECHOSTAR	700
GENERAL INSTRUMENTS	701
HITACHI	702
HUGHES NETWORK SYSTEMS	703
PANASONIC	704
PRIMESTAR	705
PROSCAN	706, 707
RCA	706, 707
SONY	708
TOSHIBA	709

CABLE（ケーブルテレビ）

ブランド名	コード番号
GENERAL INSTRUMENTS	500
GEMINI	501
HAMLIN	502, 503 504, 505
JERROLD	500, 506 507, 508 509, 510 511, 512 513, 514
MACOM	515, 516, 517
MAGNAVOX	518
OAK	519, 520, 521
PANASONIC	522, 523
PHILIPS	524, 525 526, 527 528, 529
PIONEER	530, 531
SCIENTIFIC ATLANTA	532, 533, 534
SAMSUNG	535
TOCOM	536
ZENITH	537, 538

VCR（ビデオデッキ）

ブランド名	コード番号
AIWA	300, 301, 302
AKAI	303, 304, 305 306, 307
BAIRD	308
BELL & HOWELL	309
BLAUPUNKT	310
CGM	311, 312, 313
COLTINA	314
DAEWOO	315, 316
DIGITAL	317
EMERSON	318, 319, 320 321,322
FENNER	323
FISHER	324, 325, 326 327
FUJITSU GENERAL	328
FUNAI	329
GE	330, 331
GO VIDEO	332, 336, 337
GOLDSTAR	333, 334
GOODMANS	335
GRUNDIG	338
HITACHI	339, 340, 341
JVC	342, 343, 344 345, 346, 347 348, 349, 350
LOEWE	351, 352
MAGNAVOX	353, 354, 355
MITSUBISHI	356, 357, 358 359,360, 361 362, 363, 364
NEC	365, 366, 367
NOKIA	313
NORDMENDE	368, 369, 370
OKANO	371, 372
ORION	319, 373
PANASONIC	374, 375, 376 377,378
PHILIPS	353, 379, 380
PHONOLA	311
PIONEER	381
RCA	382
SABA	383
SAMSUNG	384, 385, 386 387, 388, 389 390
SANYO	391, 392, 393
SCOTT	394
SELECO	395
SHARP	396, 397, 398 399
SHINTOM	400
SIEMENS	401
SONY	402, 403, 404 405, 406, 407 408, 409, 410 411, 412, 413
SYMPHONIC	414
TEKNIKA	414, 415
TELEFUNKEN	416, 417
TOSHIBA	418, 419, 420
WHITE WESTINGHOUSE	333
WATSON	421
ZENITH	422

TV（テレビ）

ブランド名	コード番号
AIWA	100, 101
AKAI	102, 103, 104
AUDIOSONIC	105
BELL & HOWELL	106
BLAUPUNKT	107
BRIONVEGA	108, 109
CENTURION	110
COLTINA	111, 112, 113
CORONAD	114
CROWN	115, 116
DAEWOO	117, 118, 119 120, 121
DUAL	122
EMERSON	123, 124, 125 126, 127
FENNER	128, 129
FERGUSON	130, 131
FISHER	132
FUNAI	133, 134, 135
FUJITSU GENERAL	136, 137, 138
GE	139, 140, 141
GOLDSTAR	142, 143
GOODMANS	144
GRUNDIG	145, 146
HITACHI	147, 148, 149 150
HYPER	151
INNO HIT	152
IRRADIO	103
JVC	153, 154, 155 156, 157
KENDO	158
KTV	159, 160
LUXOR	161
MAGNAVOX	162, 163
MARANTZ	164
MARK	165
MATSUI	166, 167, 168 169
MITSUBISHI	170, 171, 172 173
MIVAR	174, 175
NEC	176, 177
NOKIA	178, 179, 180 181
OCEANIC	181
NORDMENDE	182, 183
OKANO	152
ORION	184, 185, 186
PANASONIC	187, 188, 189 190
PHILIPS	152, 162, 191
PIONEER	192, 193
PROSCAN	194
QUASAR	195
RADIO SHACK	196
RCA	110, 141, 197 198, 199, 200
SABA	182, 183, 201
SAMSUNG	202, 203, 204 205, 206, 207 208
SANYO	209, 210, 211 212
SCHNEIDER	103
SEARS	213
SELECO	214, 215
SHARP	216, 217
SONY	218, 219, 220 221,222, 223
SYMPHONIC	224, 225
TELEFUNKEN	201, 226, 227
THOMSON	228
TOSHIBA	213, 229
UNIVERSUM	230
ZENITH	231, 232

記憶させたリモコンで操作する

ここでの操作をする前に、あらかじめリモコンコードを記憶させてください。（☞60ページ）

DVDプレーヤーを操作する

58ページの説明と同じ操作ができます。

衛星放送チューナーを操作する

1. SAT MODEボタンを押す

SAT MODEボタンが緑色に点灯します。

2. 各操作ボタンを押す

左の図にグレーで示したボタンが衛星放送チューナー操作用のボタンです。

操作ボタン（リモコンコード記憶後）

ON: 衛星放送チューナーの電源オン／オフ（STDBYボタンも同じ働きです）

CH +/−: プリセット局の選局

△/▽/◁/▷: カーソル移動

ENTER: 決定

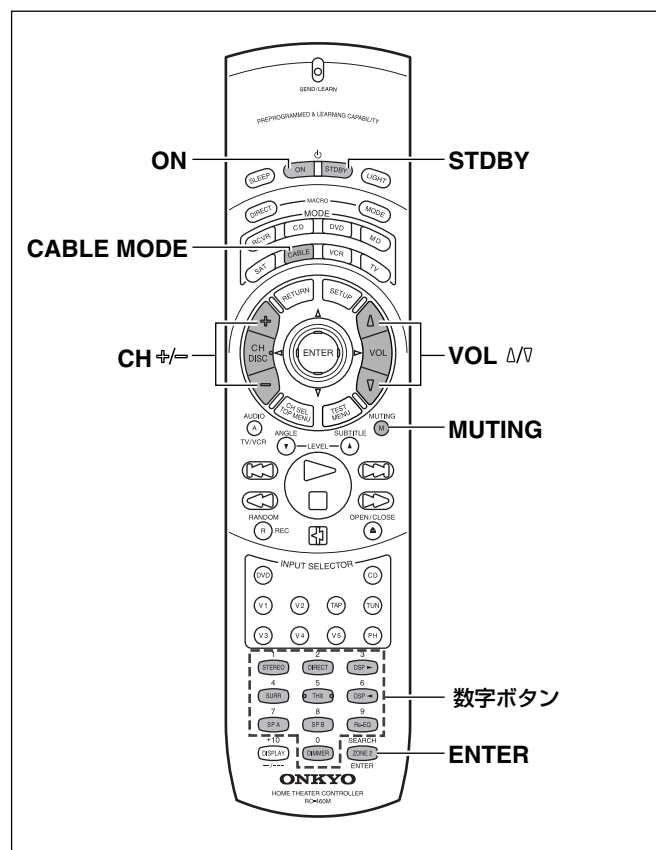
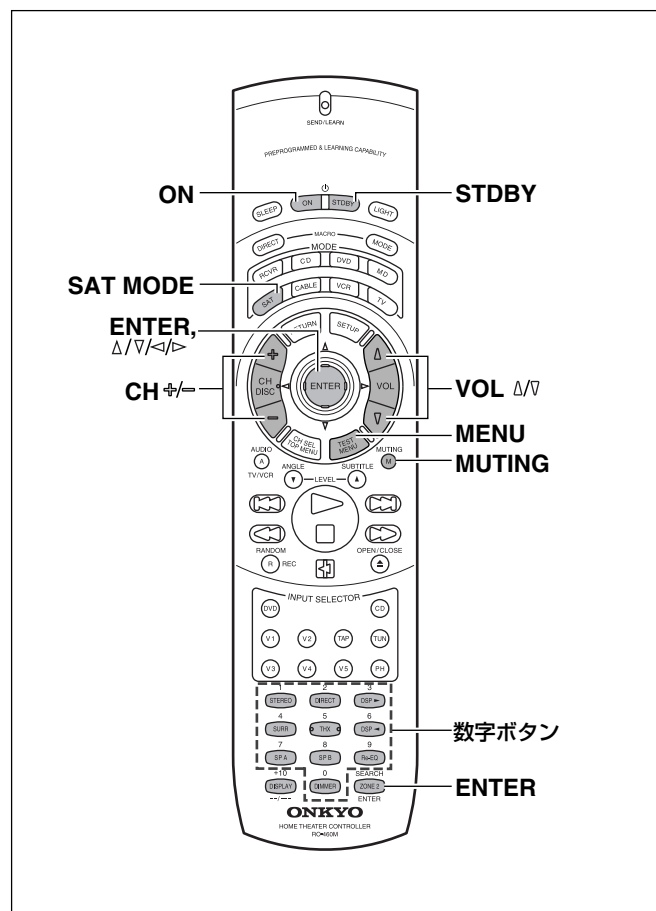
MENU: メニュー表示

0,1から9: 数字ボタン

ENTER: 決定

下記のボタンも操作することができます。

VOL △/▽: 本機の音量調整

MUTING: 本機のミューティング

ケーブルテレビを操作する

1. CABLE MODEボタンを押す

CABLE MODEボタンが緑色に点灯します。

2. 各操作ボタンを押す

左の図にグレーで示したボタンがケーブルテレビ操作用のボタンです。

操作ボタン（リモコンコード記憶後）

ON: ケーブルテレビの電源オン／オフ（STDBYボタンも同じ働きです。）

CH +/−: プリセットチャンネル番号の選択

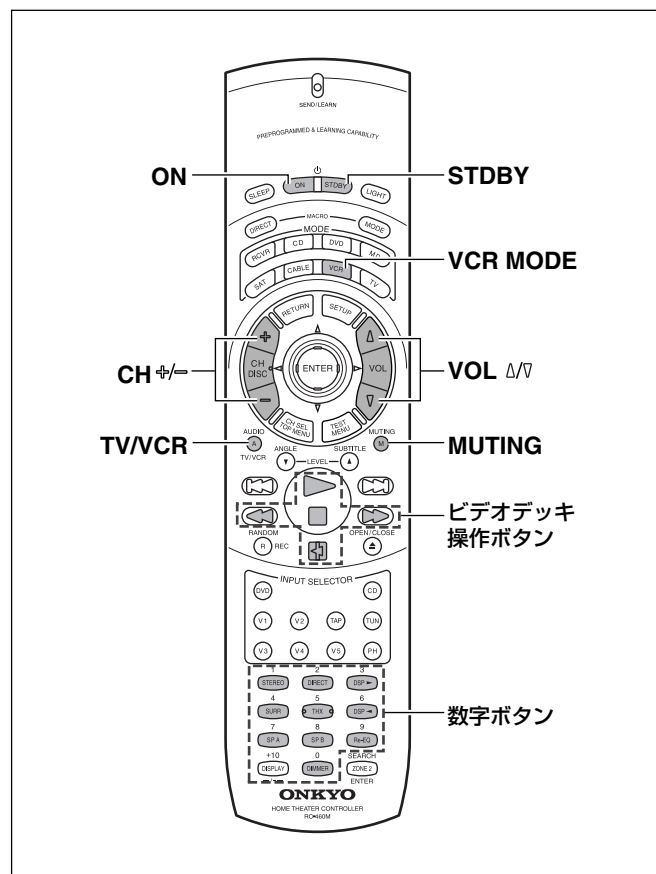
0,1から9: 数字ボタン

ENTER: 決定

下記のボタンも操作することができます。

VOL△/▽ : 本機の音量調整

MUTING: 本機のミューティング

記憶させたリモコンで操作する

ビデオデッキを操作する

1. **VCR MODEボタンを押す**
   VCR MODEボタンが緑色に点灯します。

2. **各操作ボタンを押す**
   左の図にグレーで示したボタンがビデオデッキ操作用のボタンです。

操作ボタン（リモコンコード記憶後）

ON: ビデオデッキの電源オン／オフ（STDBYボタンも同じ働きです）

CH+/− : プリセット局の選局

TV/VCR: テレビ／ビデオの切り換え

▷: 再生

□: 停止

◁◁: 巻戻し

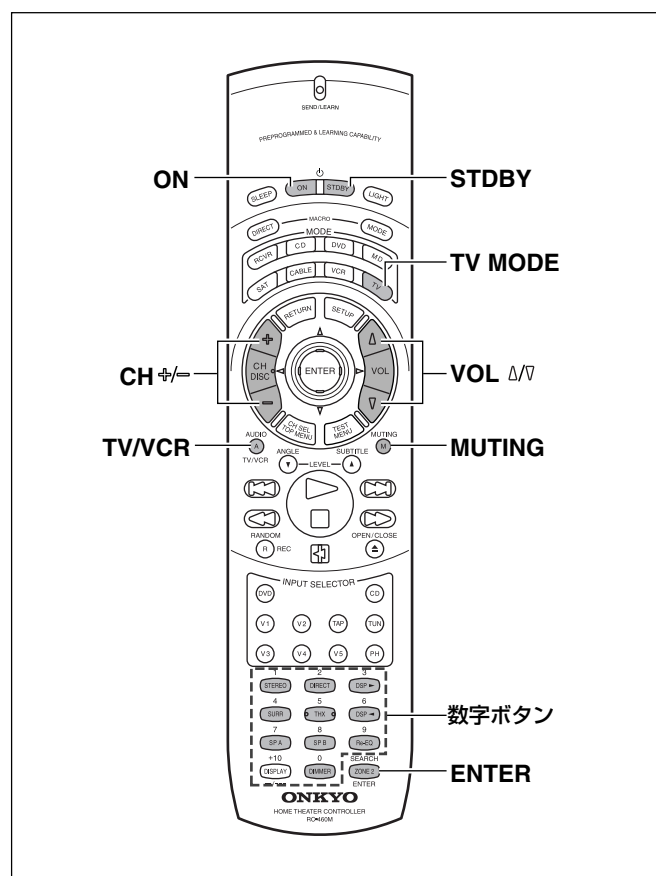
▷▷: 早送り

⧉: 一時停止

0,1から9, +10: 数字ボタン

下記のボタンも操作することができます。

VOL ∆/∇: 本機の音量調整

MUTING: 本機のミューティング

テレビを操作する

1. **TV MODEボタンを押す**
   TV MODEボタンが緑色に点灯します。

2. **各操作ボタンを押す**
   左の図にグレーで示したボタンがテレビ操作用のボタンです。

操作ボタン（リモコンコード記憶後）

ON: テレビの電源オン／オフ（STDBYボタンも同じ働きです）

CH+/− : チャンネル選択

TV/VCR: テレビ／ビデオの入力切り換え

0,1から9, +10: 数字ボタン

ENTER: 決定

下記のボタンも操作することができます。

VOL∆/∇ : テレビの音量調整

MUTING: テレビのミューティング

他機のリモコンから学習させる

学習の手順

他機のリモコンコードを本機のリモコンに学習させる場合、まずどのMODEボタンにコードを学習させるかを選択します。転送元の機器に合ったMODEボタンを選ぶのが一般的です。たとえばCDプレーヤーのリモコンコードを学習させる場合は、CD MODEボタンを押します。

使用するMODEボタンが決まったら、本機のリモコンのボタンに他機のリモコンコードを1つずつ転送します。各リモコンコードは、それぞれ異なるボタンに登録します。8つのMODEボタン（AUDIO、CD、DVD、MD、SAT、CABLE、VCR、TV）、2つのMACROボタン（DIRECTとMODE）、そしてLIGHTボタン以外は、どのボタンにも登録できます。

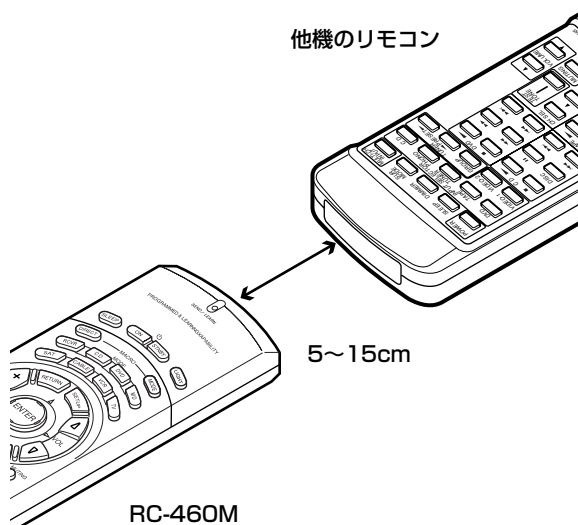
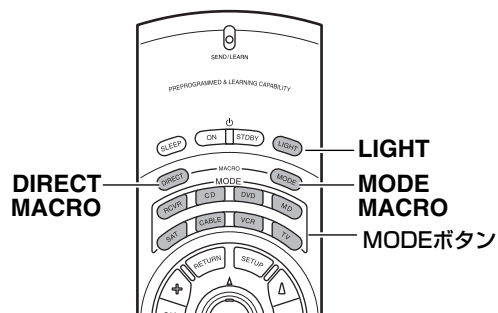
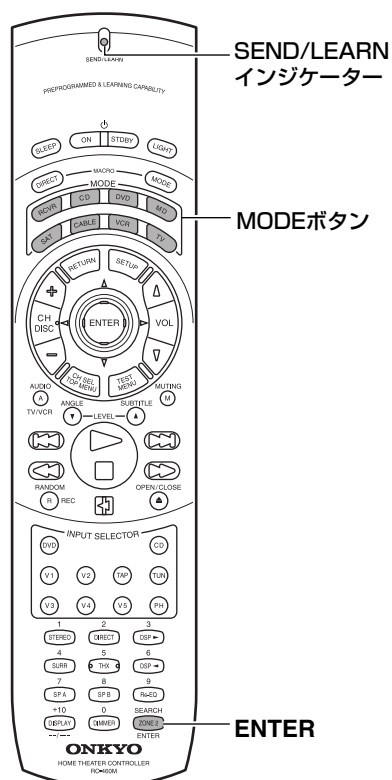
電池切れなどの理由でリモコンコードが消えてしまった場合のために、他機のリモコンは大切に保管しておいてください。

1. **他機のリモコンと本機のリモコンを、5～15cm離して置く**

2. **学習させたいMODEボタンを押しながら、ENTERボタンを押し、指を離す**

   MODEボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが点灯し、ENTERボタンを押すと消えます。SEND/LEARNインジケーターが消えてから、指を離してください。指を離すと、SEND/LEARNが再び点灯します。

3. **登録する操作ボタンを押して、指を離す**

   下記に示したボタン以外なら、どのボタンに登録することもできます。ボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが消え、指を離すと再び点灯します。
   押すボタンを間違えたときは、同じボタンをもう一度押してください。SEND/LEARNインジケーターが2回点滅し、学習モードが解除されます。

▭：登録できないボタン

4. 他機のリモコンの登録したい操作ボタンを、SEND/LEARNインジケーターが2回点滅するまで押し続ける

SEND/LEARNインジケーターは2回点滅したあと、再び点灯します。

5. 同じMODEで別の操作ボタンを登録する場合は、手順3〜4を繰り返す

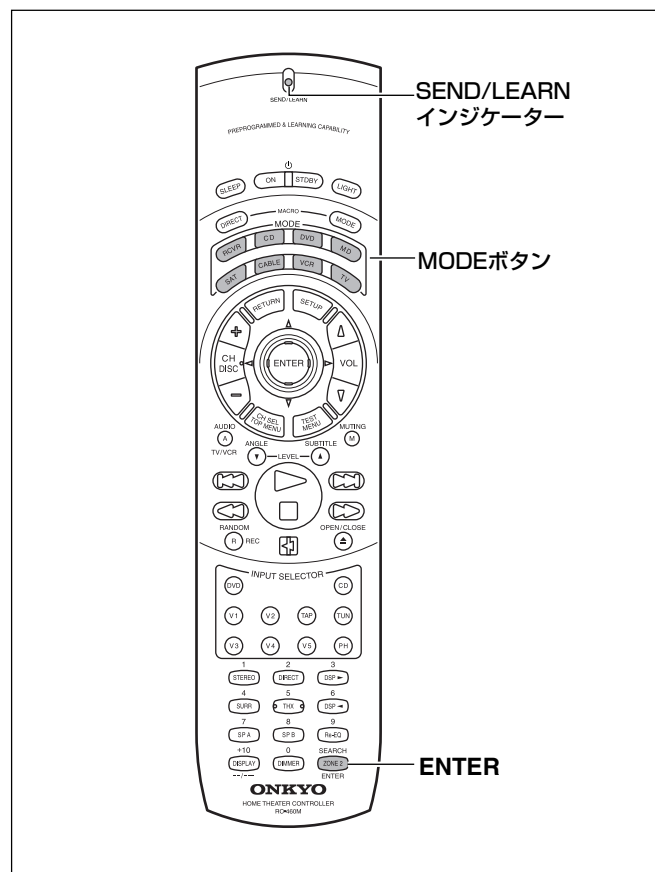
別の機器のリモコンのコードを学習させるなど、異なるMODEボタンを選んで登録する場合は、手順2〜4を繰り返します。

6. 学習を終了する場合は、手順2で選んだMODEボタンを押す

7. 登録したボタンで正しく操作できることを確かめる

ご注意

- 本機のリモコンは、オンキヨー製CDプレーヤー、テープデッキ、DVDプレーヤー、MDレコーダー用のコードをすでに記憶しています。しかし、これらのボタンに他機のコードを記憶させることもできます。記憶内容を消去すると（☞次ページ）、元の働きに戻ります。
- 本機のリモコンには、学習エリアとして408個（8モード×51ボタン）のボタンがあります。ただし、他機リモコンのメーカーや機種によって、記憶できるボタン数には違いがありますので、ボタンの優先順位を決めて学習させてください。
- 学習操作の途中で、30秒以上ボタン操作をしなかったときや、無効な操作をしたときは、SEND/LEARNインジケーターが3回すばやく点滅し、学習モードが解除されます。そのときは、手順2から操作してください。
- 学習操作を間違ったときは、SEND/LEARNインジケーターが3回すばやく点滅し、学習モードが解除されます。そのときは、手順3から操作してください。
- 学習操作を続けて5回間違ったときは、SEND/LEARNインジケーターが3回すばやく点滅し、学習モードが解除されます。そのときは、手順3から操作してください。
- 学習容量を超えた場合は、SEND/LEARNインジケーターが6回すばやく点滅し、学習モードが解除されます。そのときは、別のMODEボタンを選んで操作してください。
- すでにコードが登録されているボタンに、新しいコードを記憶させるときも、同じ手順で操作します。そのときは、新しいコードが上書きされます。
- 本機のリモコンは、ほとんどのリモコンと同様に赤外線を利用しています。しかし、リモコンによっては、転送システムの違いによってコードを転送できないものがあります。
- リモコンによっては、1つのボタンで複数の操作を実行させるものがあります（たとえば、ボタンを押すたびに機能が切り換わるものなど）。その場合は、各機能を別々のボタンに記憶させてください。
- 本機のリモコンに記憶させた他機の操作方法については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
- 本機および他機のリモコンの電池は新しいものをご使用ください。電池が消耗していると、学習操作ができないことがあります。

記憶内容を消去する方法については、次ページをご覧ください。

記憶させたコードを消去する

消去できるのは学習されたコードのみです。あらかじめプリセットされているコードを消すことはできません。

1. 消去したいボタンのあるMODEボタンを押しながら、ENTERボタンを押し、指を離す

MODEボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが点灯し、ENTERボタンを押すと消えます。SEND/LEARNインジケーターが消えてから、指を離してください。指を離すと、SEND/LEARNが再び点灯します。

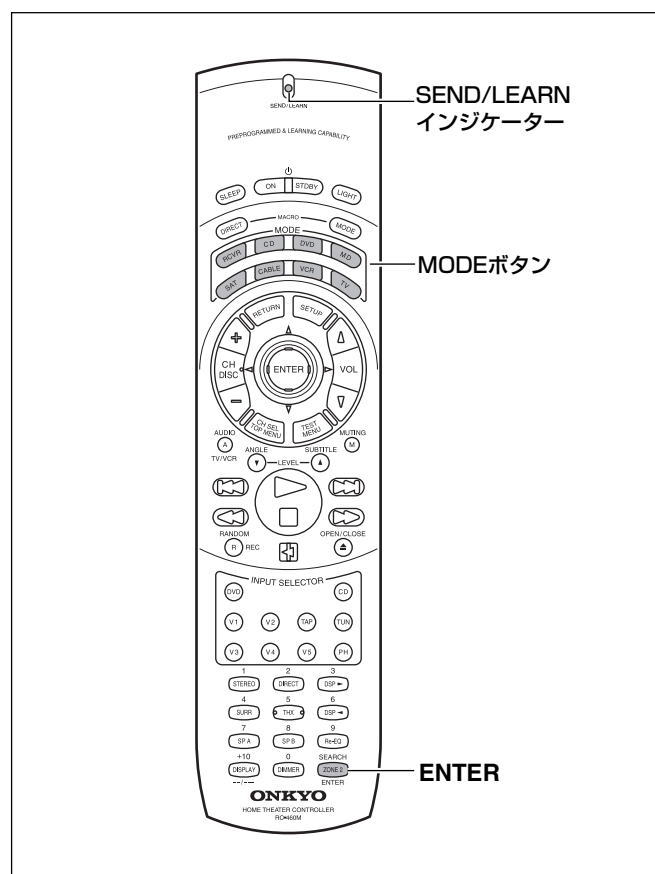
2. 消去したいボタンを押して、指を離す

ボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが消え、指を離すと再び点灯します。

3. 消したいボタンをもう一度押して、指を離す

SEND/LEARNインジケーターがゆっくり2回点滅します。

ご注意

操作の途中で、30秒以上ボタン操作をしなかったときは、SEND/LEARNインジケーターが3回すばやく点滅し、消去モードが解除されます。そのときは、手順1から操作してください。

あるMODEボタンに登録したすべてのボタンのコードをまとめて消去する

1. 消去したいMODEボタンを押しながら、ENTERボタンを2回押し、指を離す

MODEボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが点灯し、ENTERボタンを押すと消えます。SEND/LEARNインジケーターが消えてから、指を離してください。指を離すと、SEND/LEARNが2回ゆっくり点滅したあと、再び点灯します。

2. 消したいMODEボタンをもう一度押して、指を離す

指を離すと、SEND/LEARNインジケーターが2回ゆっくり点滅します。これで消去が完了し、元の状態に戻ります。

ご注意

- 操作の途中で、30秒以上ボタン操作をしなかったときは、SEND/LEARNインジケーターが3回すばやく点滅し、消去モードが解除されます。そのときは、手順1から操作してください。
- 操作を間違ったときは、SEND/LEARNインジケーターが3回すばやく点滅し、消去モードが解除されます。そのときは、手順1から操作してください。
- MODE ボタンへの登録ボタンの数が多いときは、手順2で、SEND/LEARNインジケーターが最長で20秒間点灯し続けることがありますが、故障ではありません。

マクロ機能を使う

マクロ機能とは?

連続した操作（最大16操作）をリモコンの1つのボタンに記憶させることのできる機能です。たとえば、CDプレーヤーで演奏するには、次のような操作が必要になります。

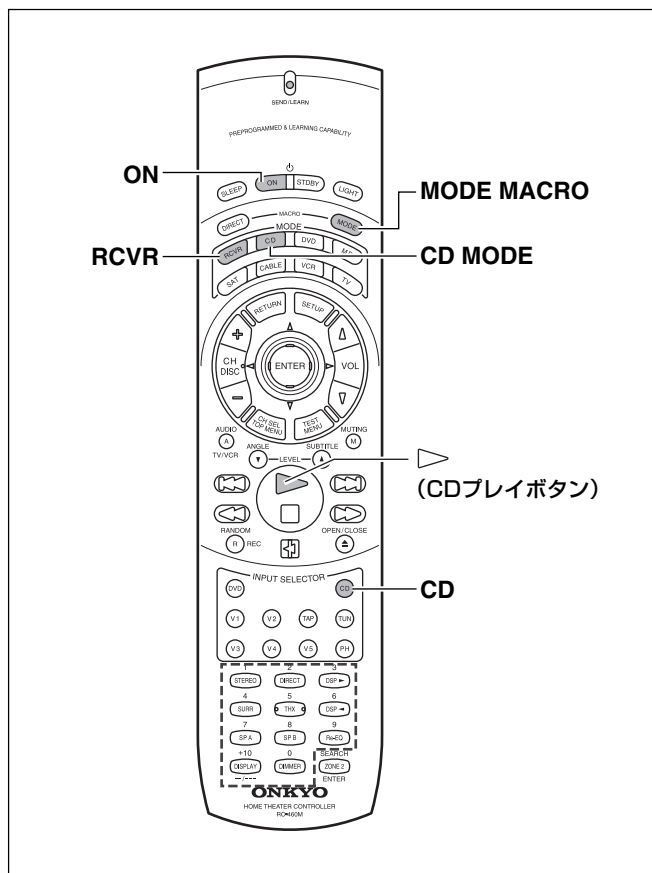
1. RCVR MODEボタンを押す

2. ONを押す

3. 入力切り換え部のCDボタンを押す

4. CD MODEボタンを押す

5. 再生 (▷) ボタンを押す

マクロ機能を使うと、上記の5つの操作を、2つのボタン操作で行うことができます。

ご注意

- マクロに記憶させたあとで、その中の操作ボタンを消去したり、別の信号を記憶させた場合は、その操作ボタンは働かなくなります。このような場合は誤動作を防ぐため、再度マクロ学習をさせ直してください。
- マクロ信号は、0.5秒間隔で次々に送信されます。そのため操作する機器によってはひとつの動作が0.5秒で完了せず、次の信号が読み取れない場合があります。このような時は、マクロを記憶させるときに連続したボタン操作の間でそのMODEボタンを押すと、約1秒の間隔をさらにあけることができます。

マクロ機能を記憶させる

8つのMODEボタンにそれぞれ1つのマクロ機能を記憶させることができます。マクロを実行するには、操作したいソースのMODEボタンを押してから、MODE MACROボタンを押します。たとえば、左記の操作をCD MODEボタンのMODE MACROボタンに記憶させるには、次のように操作します。

1. 希望のMODEボタン（CD MODEボタン）を押しながら、MODE MACROボタンを押し、指を離す

CD MODEボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが点灯し、CD MODEボタンが緑色に点灯します。MODE MACROボタンを押すと、SEND/LEARNインジケーターが消え、指を離すと再び点灯します。

2. 記憶させたい操作ボタンを、操作順に連続して押す（RCVR MODE→ON→CD（INPUT SELECTOR）→CD MODE→▷ ）

各ボタンを押すたびに、SEND /LEARNインジケーターが消え、指を離すと再び点灯します。

3. MODE MACROボタンを押して終了する

SEND/LEARNインジケーターが2回ゆっくり点滅します。

4. マクロを実行して、正しく記憶されたかを確かめる

ご注意

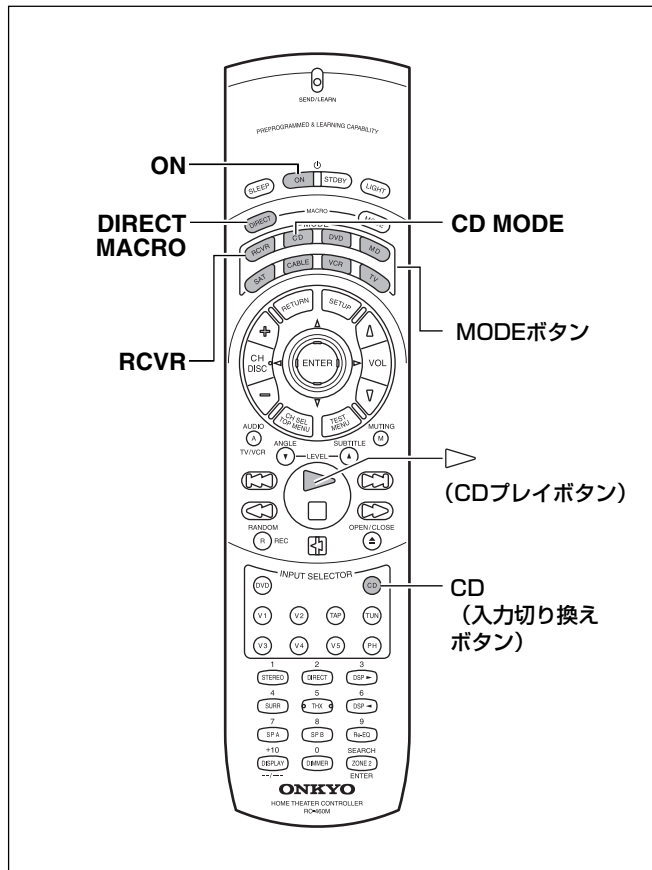
- 連続して記憶できるボタン操作は16個までです。17個目を記憶させようとしても16個までで終了します。
- 操作の途中で、30秒以上ボタン操作をしなかったときは、SEND/LEARNインジケーターが3回すばやく点滅し、記憶モードが解除されます。そのときは、手順1から操作してください。
- 操作を間違ったときは、SEND/LEARNインジケーターが3回すばやく点滅し、記憶モードが解除されます。そのときは、手順1から操作してください。

マクロを実行する

リモコンに記憶させたマクロを実行するには、下記のように操作します。新しいマクロを記憶させたときは、必ず一度実行してみて、正しく動作することを確認してください。

1. リモコンを本機のリモコン受光部に向けて、記憶済みのMODEボタン（CD MODEボタンなど）を押す

2. MODE MACROボタンを押して、機器が正しく動作することを確認する

マクロを転送し終えるまで時間がかかる場合がありますので、SEND/LEARNインジケーターが消えるまで、リモコンをリモコン受光部に向けておいてください。

ヒント

- マクロに記憶させたあとで、その中の操作ボタンを消去したり、別の信号を記憶させた場合は、その操作ボタンは働かなくなります。このような場合は誤動作を防ぐため、再度マクロ学習をさせ直してください。
- マクロ信号は、0.5秒間隔で次々に送信されます。そのため操作する機器によってはひとつの動作が0.5秒で完了せず、次の信号が読み取れない場合があります。このような時は、マクロを記憶させるときに連続したボタン操作の間でそのMODEボタンを押すと、約1秒の間隔をさらにあけることができます。

ダイレクトマクロモードを学習させる

ダイレクトマクロ機能を使うと、DIRECT MACROボタンを押すだけで、ひとつながりの操作をすることができます。ダイレクトマクロ機能では、記憶させることのできるマクロは1とおりのみです。たとえば、前ページの操作をDIRECT MACROボタンに記憶させるには、次のように操作します。

1. **希望のMODEボタン（CD MODEボタン）を押しながら、DIRECT MACROボタンを押し、指を離す**
   CD MODEボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが点灯し、CD MODEボタンが緑色に点灯します。DIRECT MACROボタンを押すと、SEND/LEARNインジケーターが消え、指を離すと再び点灯します。
2. **記憶させたい操作ボタンを、操作順に連続して押す（RCVR MODE→ON→CD（INPUT SELECTOR）→CD MODE→▷ ）**
   各ボタンを押すたびに、SEND/LEARNインジケーターが消え、指を離すと再び点灯します。
3. **DIRECT MACROボタンを押して終了する**
   SEND/LEARNインジケーターが2回ゆっくり点滅します。
4. **ダイレクトマクロを実行して、正しく記憶されたかを確かめる**

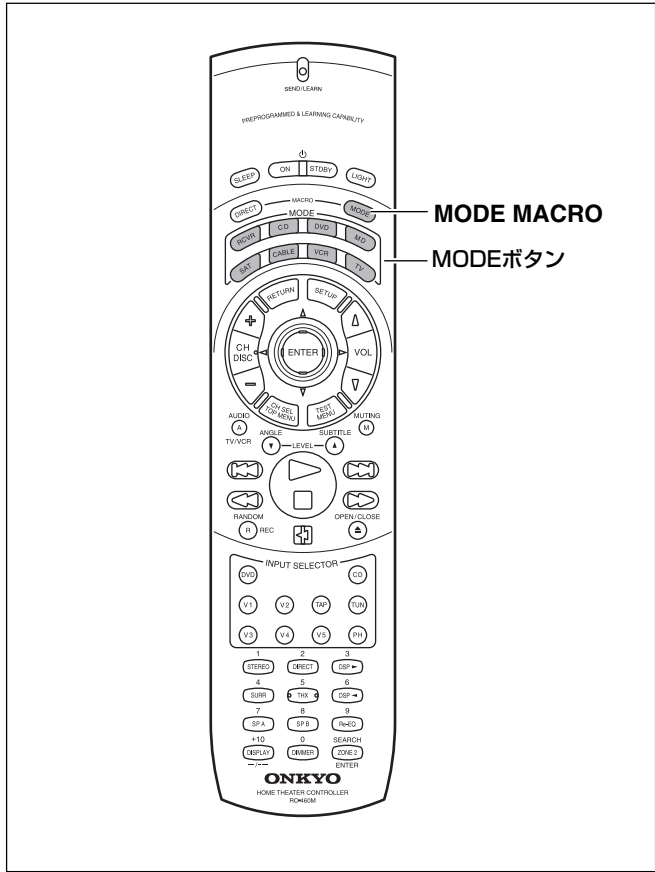
ご注意

- 連続して記憶できるボタン操作は16個までです。17個目を記憶させようとしても16個までで終了します。
- 操作の途中で、30秒以上ボタン操作をしなかったときは、SEND/LEARNインジケーターが3回すばやく点滅し、記憶モードが解除されます。そのときは、手順1から操作してください。
- 操作を間違ったときは、SEND/LEARNインジケーターが3回すばやく点滅し、記憶モードが解除されます。そのときは、手順1から操作してください。

ダイレクトマクロを実行する

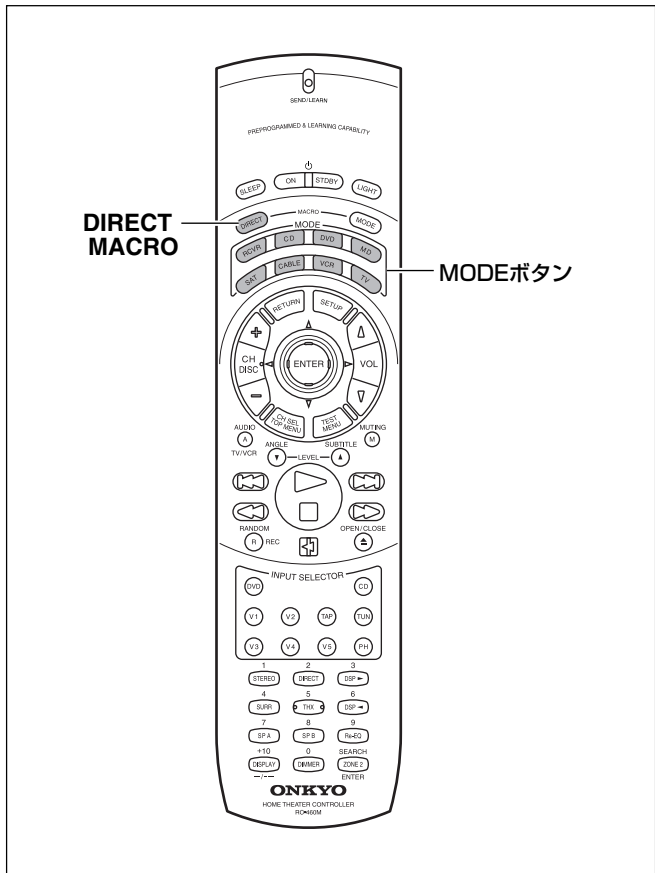
リモコンに記憶させたダイレクトマクロを実行するには、下記のように操作します。新しいダイレクトマクロを記憶させたときは、必ず一度実行してみて、正しく動作することを確認してください。

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて、DIRECT MACROボタンを押す

マクロを転送し終えるまで時間がかかる場合がありますので、SEND/LEARNインジケーターが消えるまで、リモコンをリモコン受光部に向けておいてください。

MODE MACROボタンに記憶させたマクロを消去する

1. **消去したいボタンのあるMODEボタンを押しながら、MODE MACROボタンを押し、指を離す**
   MODEボタンを押すと、MODEボタンが緑色に点灯し、SEND/LEARNインジケーターが点灯します。MODE MACROボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが消え、指を離すと1回だけ点滅します。
2. **MODE MACROボタンをもう一度押す**
   指を離すと、SEND/LEARNインジケーターが2回ゆっくり点滅します。これで手順1で押したMODEボタンのマクロは消去されます。

ご注意

- 操作の途中で、30秒以上ボタン操作をしなかったときは、SEND/LEARNインジケーターが3回すばやく点滅し、消去モードが解除されます。そのときは、手順1から操作してください。
- 手順2でMODE MACRO以外のボタンを押すと、新しいマクロとして上書きされてしまいます。

DIRECT MACROボタンに記憶させたマクロを消去する

1. **MODEボタンのいずれかを押しながら、DIRECT MACROボタンを押し、指を離す**
   MODEボタンを押すと、MODEボタンが緑色に点灯し、SEND/LEARNインジケーターが点灯します。DIRECT MACROボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが消え、指を離すと1回だけ点滅します。
2. **DIRECT MACROボタンをもう一度押す**
   指を離すと、SEND/LEARNインジケーターが2回ゆっくり点滅します。これでDIRECT MACROボタンのマクロは消去されます。

ご注意

- 操作の途中で、30秒以上ボタン操作をしなかったときは、SEND/LEARNインジケーターが3回すばやく点滅し、消去モードが解除されます。そのときは、手順1から操作してください。
- 手順2でDIRECT MACRO以外のボタンを押すと、新しいダイレクトマクロとして上書きされてしまいます。

リモコンコードとマクロをすべて消去する

この操作を行うと、リモコンに記憶させたすべてのコードとマクロが消去され、リモコンが初期設定の状態に戻ります。したがって、初期設定のリモコンでは効果はありません。

1. 電池カバーを開け、電池を取り出す

2. ONボタンとSTDBYボタンを同時に押しながら, 電池を正しく入れ、ボタンから指を離す

SEND/LEARNインジケーターがゆっくり点滅します。

3. ENTERボタンを押す

SEND/LEARNインジケーターが約10秒間点灯してから、消えます。

リモコンに記憶させたすべてのコードとマクロが消去され、リモコンが工場出荷時の状態に戻ります。

ご注意

- 手順2から手順3へは、すばやく操作してください。手順2の状態でそのままにしておくと、電池が消耗してしまいます。
- 手順3でENTER以外のボタンを押すと、消去は実行されません。その場合は、手順1から操作しなおしてください。

マクロモード設定メモ

MACRO	MODE MACRO ↓ RCVR	MODE MACRO ↓ CD	MODE MACRO ↓ DVD	MODE MACRO ↓ MD	MODE MACRO ↓ SAT	MODE MACRO ↓ CABLE	MODE MACRO ↓ VCR	MODE MACRO ↓ TV	DIRECT MACRO
操作 1									
操作 2									
操作 3									
操作 4									
操作 5									
操作 6									
操作 7									
操作 8									
操作 9									
操作 10									
操作 11									
操作 12									
操作 13									
操作 14									
操作 15									
操作 16									

仕様

■アンプ（音声）部

定格出力
全てのチャンネル（2チャンネル駆動時）
8Ω　100W（20Hz〜20,000Hz）
全高調波歪率：0.08%以下
6Ω　130W（1,000Hz）
全高調波歪率：0.1%以下

ダイナミックパワー（2チャンネル駆動時）
4Ω　210W

混変調ひずみ率：
定格出力時で0.08%
1W出力時で0.08%

ダンピングファクター：8Ω負荷時で60

入力感度/インピーダンス
PHONO：2.5mV/50kΩ
LINE入力：200mV/50kΩ

MULTI CHANNEL INPUT
FRONT LEFT/CENTER/RIGHT、SURROUND LEFT/RIGHT、SURROUND BACK LEFT/RIGHT：
200mV/50kΩ
SUBWOOFER：36mV/50kΩ

COAX 1、2、3（DIGITAL）：0.5Vp-p/75Ω

DVD、VIDEO 1、2、3、4、5
VIDEO（コンポジット信号）：1Vp-p/75Ω
S VIDEO（Y信号）：1Vp-p/75Ω
S VIDEO（C信号）：0.28Vp-p/75Ω
COMPONENT/（D4） VIDEO：
1Vp-p/75Ω（Y）
0.7Vp-p/75Ω（CR,CB）

定格出力/インピーダンス
REC OUT：200mV/470Ω
PRE OUT：1V/470Ω

VIDEO、MONITOR
VIDEO（コンポジット信号）：1Vp-p/75Ω
S VIDEO（Y信号）：1Vp-p/75Ω
S VIDEO（C信号）：0.28Vp-p/75Ω
COMPONENT/（D4）VIDEO：
1Vp-p/75Ω（Y）
0.7Vp-p/75Ω（CR,CB）

ZONE 2 LINE OUT：100mv、470Ω

PHONO最大許容入力
120 mV RMS（1,000Hz、0.5% THD時）

周波数特性
10Hz〜100kHz、+1/−3dB（CD入力、ダイレクトモード）

RIAA偏差：20〜20,000Hz、±0.8dB

トーンコントロール
BASS：±10dB（50Hz時）
TREBLE：±10dB（20,000Hz時）

SN比（Stereo時）
PHONO：80dB（IHF A、5mV入力時）
CD/TAPE：110dB（IHF A、0.5V入力時）
ミューティング：Setupの設定による

■チューナー部

●FM
受信範囲：76.0〜90.0MHz（100kHzステップ）
実用感度
モノラル：11.2dBf、1.0μV（75Ω）
ステレオ：17.2dBf、2.0μV（75Ω）
キャプチャレシオ：2.0dB
イメージ妨害比：40dB
IF妨害比：90dB
SN比
モノラル：76dB
ステレオ：70dB
2信号選択度：55dB
AM抑圧比：50dB
ひずみ率
モノラル：0.2%
ステレオ：0.3%
周波数特性：30〜15,000Hz、±1.0dB
ステレオセパレーション：
45dB（1kHz）
30dB（100〜10,000Hz）
ミューティングレベル：17.2dBf
アンテナインピーダンス：75Ω

●AM
受信範囲：522〜1,629kHz
実用感度：30μV
イメージ妨害比：40dB
IF妨害比：40dB
SN比：40dB
ひずみ率（400Hz）：0.7%

■一般仕様

使用電源：AC100V、50/60Hz
消費電力：260W（電気用品取締法規格）
外形寸法：435（幅）×175（高さ）×459（奥行）mm
質量：17.3kg

■リモコンRC-460M

方式：赤外線
信号到達距離：約5m
使用電池：単3型（1.5V）乾電池 2個

※ 仕様および外観は予告なく変更することがあります。

故障?と思ったときは

まず下の表で点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もあります。他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

表や他機の取扱説明書で点検しても正常に動作しないときは、電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店、またはオンキョーサービスステーションまでご連絡ください。その際に「お名前」「おところ」「電話番号」「製品名TX-DS797」と「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお知らせください。

	症　状	原　因	処　置	参照ページ
電源	● 電源が入らない。	● 電源プラグが抜けている。	● 電源プラグをコンセントにしっかりと差し込んでください。	28
		● 外部ノイズが本機内部のマイクロコンピューターに影響した。	● 電源を一度切り、5秒以上たってから再度電源を入れてください。	28
		● 本機内部のヒューズが切れた。	● お買い上げ店もしくはオンキヨーサービスステーションにご連絡ください。	–
	● 電源は入るが、音が出ない。	● “Muting”表示されている。	● リモコンのMUTINGボタンを押してMUTING表示を消してください。	14
		● ピンコードやスピーカーコードの接続が正しくない。	● もう一度接続を確認してください。プラグやコード類はしっかりと接続してください。	19〜22
		● 入力切り換えが演奏したいソースになっていない。	● 入力切り換えで演奏したいソースを選んでください。	–
		● ヘッドホンを接続している。	● 音量を下げてからヘッドホンをはずしてください。	–
	● ふいに電源が切れ、電源を入れ直してもまた切れた。	● アンプ保護回路が作動した。	● ただちに電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店もしくはオンキヨーサービスステーションにご連絡ください。	–
スピーカー	● センタースピーカーの音が小さい、または音が出ない。	● スピーカーコードが接続されていない。	● アンプとの接続を確認してください。	24
		● リスニングモードによってセンタースピーカーからの音の出方が異なる	● STEREOとDIRECTのときは、センタースピーカーからの音声出力はありません。また、リスニングモードによって、センタースピーカーからの音の出方が異なります。	–
		● センタースピーカーの設定が「None」になっている。	● センタースピーカーを接続しているときは、センタースピーカーを「Large」または「Small」に設定してください。	32
		● センタースピーカーの音量が正しく調整されていない。	● センタースピーカーの音量を確認してください。	34
	● ブーンという音や低音のノイズが聞こえる。	● レコードプレーヤーのアース（GND）接続に原因がある。	● アース線を接続したりはずしたりして、ノイズの小さくなる方にしてください。	–
		● ピンコードがノイズの影響を受けている。	● ピンコードを動かしてみて、ノイズがいちばん小さくなるところに固定してください。	–
	● 音量を上げるとハウリングがおこる。	● レコードプレーヤーとスピーカーとの距離が近すぎる。	● 両機器を互いに離し設置してください。	–
	● 耳障りな雑音や引っ掻き音が聞こえる。または、高音域が明瞭に聞こえない。	● レコードプレーヤーのレコード針が摩耗したり汚れているなど、他機に原因がある。	● 他機の取扱説明書もあわせて参照し、確認してください。	–
		● 高音域が強すぎる。	●「Audio Adjust」の「Tone control」で「Treble」を調節してください。	43
	● サブウーファーから音がでない。	● サブウーファーの設定が「No」になっている。	● スピーカー設定を確認して下さい。	32
	● サブウーファーの音が小さい。	● サブウーファーのレベルが小さい。	● 適正なレベルにしてください。	34
	● 右サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	●「Speaker Config」で「Surr Back Out」の設定が「1ch」になっている。	●「Surr Back Out」の設定を「2ch」にしてください。	32
	● サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	●「Speaker Config」で「Surr Back Out」の設定が「2ch」になっている。	●「Surr Back Out」の設定を「1ch」にしてください。	32

故障?と思ったときは

	症　状	原　因	処　置	参照ページ
音声と映像	● 希望の映像が出てこない。	● 接続が正しくない。 ● 「Input Setup」の「Video Setup」が正しくない。	● もう一度接続を確認してください。プラグやコード類はしっかりと接続してください。 ● 設定を確認してください。	20~22 38
	● 画面表示が出ない。	● 接続が不完全。 ● OSDはMONITOR OUT VIDEOまたはS VIDEOに接続した場合に使用できます。	● 接続を確認してください。 ● 接続を確認してください。	20~22 22
	● 映像と音声が違う。	● 接続が間違っている。 ● 「Input Setup」の「Video Setup」が正しくない。	● 接続を確認してください。 ● 設定を確認してください。	20~22 38
	● 音が聞こえない。選んだ入力と違う音声が出る。	● 「Input Setup」の「Digital Setup」が正しくない。	● 設定を確認してください。	36
	● テレビに映像が出ない。	● テレビの入力切り替えが正しくない。 ● 映像コードの接続が不完全。 ● COMPONENT VIDEO INPUT から入った信号はCOMPONENT VIDEO OUTPUTおよびD4出力端子にしか出力されません。	● 正しい入力を選んでください。 ● 正しく接続してください。 ● 入力信号と出力信号の接続を確認してください。	– 20~22 20
FM/AMラジオ	● AM放送が受信できない。	● アンテナ接続が不完全。	● 付属のAM室内アンテナが、本機のAMアンテナ端子に正しく接続されているかどうか確認してください。	26、27
	● AM放送受信中にノイズが入る（特に夜間や、電波が弱い放送局で）。	● 蛍光灯など他の電気製品がノイズの原因になることがあります。	● AM室内アンテナの設置場所を変えるか、AM屋外アンテナを接続してください。	26、27
	● AM放送受信中に高音にノイズが入る。	● テレビがノイズの原因になることがあります。	● AM室内アンテナをテレビからできるだけ離れたところに設置するか、本機をテレビから離れたところに設置してください。	26、27
	● FM放送受信中にTUNED表示、STEREO表示が点滅し、「ザー」というノイズが入る。	● 受信している放送局の電波が弱い。	● FM屋外アンテナを設置してください。 ● FM屋外アンテナの設置場所か向きを変えるなどして、受信状態が良好になるようにしてください。	27 27
	● 登録した放送局が呼び出せない。	● 登録した内容が消えている。	● 主電源を長期間OFFのままにしていると、登録した内容が消えてしまいます。この場合は、登録した内容をもう一度記憶させ直してください。	51
リモコン	● 本体のボタンで操作できるのに、リモコン操作ができない。	● リモコンに電池が入っていない。 ● 電池が消耗している。	● 乾電池を正しく入れてください。 ● 新しい乾電池と交換してください。	9 9
	● リモコン操作ができない。	● リモコンがリモコン受光部に向けられていない。 ● リモコンを操作する位置が本機から離れ過ぎている。 ● RCVRモードになっていない。	● リモコン受光部に向けて操作してください。 ● 本機から5m以内の場所から操作してください。 ● RCVR MODEボタンを押してください。	9 9 28
その他	● パラメーターが設定できない。	● リスニングモードによっては設定できないものがあります。	● オーディオアジャストの各項をご覧ください。	43~47

故障?と思ったときは

	症　状	原　因	処　置	参照ページ
その他	● Re-EQが働かない。	● リスニングモードがTheater-Dimensional、Direct、PL II MusicまたはNeo:6 Musicになっている。	● 左記以外のリスニングモードにしてください。	44
	● LATE NIGHTが働かない。	● 再生ソースがドルビーデジタルでない。	● “DOLBY DIGITAL”表示が点灯していることを確認してください。	–
	● マルチチャンネル音声が出力されない。	● マルチチャンネル音声を聞くには、その入力ソースの「Input Setup」の「Multichannel Setup」で「Yes」に設定しなければなりません。 ● その入力ソースの音声がMULTI CHANNEL INPUTに接続されていない。	● 設定を確認してください。 ● 接続を確認してください。	38 18
	● ZONE2に接続した機器が作動しない。	● 接続が正しくない。	● 接続を確認してください。	25
	● デジタルソースで、ソフトによって音が出たり出なかったりする。	● デジタル入力のフォーマットが固定されているため、それ以外のフォーマットのときに音が聞こえない。	● 「Input Setup」の「Digital Setup」で「Digital Format」を「All」にしてください。	37
	● DTSソースやPCMソースなど、デジタルソースを再生するとノイズが入ったり出だしが切れたりする。	● デジタルフォーマットの設定で「All」にしているときに、ソースによってはフォーマット切り換えに時間がかかることがある。	● 「Input Setup」の「Digital Setup」で「Digital Format」を各々のソースと同じフォーマットにして再生してみてください。	37

エラーメッセージ一覧

メッセージ	意味
“Not Available With Headphones Use”	ヘッドホンが接続されているため、操作はできません。
“Not Available With Multichannel Use”	マルチチャンネルを使用しているため、操作できません。
“Not Available In This Sp Config”	現在のスピーカーコンフィグ設定では働きません。
“Not Available In Zone 2 Mode”	Zone 2モードを使用しているので、この設定はできません。
“Only Available With Dolby D”	Dolby Digital以外の設定はできません。
“Not Available in this Listening Mode”	現在のリスニングモードでは働きません。
“Not Available with this signal”	現在の入力ソースでは、リスニングモードが選べません。
“Not Available with Muting”	ミューティングがかかっているので操作できません。
“Zone 2 is not On”	Zone 2がOnになっていないので働きません。

※サラウンドモードなどの設定をすべて初期（工場出荷時の設定内容）化したいときは、電源を入れた状態でVIDEO 1ボタンを押したままSTANBY/ONボタンを押してください。表示部に“CLEAR”と表示され、スタンバイ状態になります。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象にはなりませんので大事な録音・録画をするときには、あらかじめ正しく録音・録画できることを確認の上、録音・録画を行ってください。

ONKYO

オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内

オンキヨー製品についてのご購入相談はお近くの販売店へ、修理については、お買い求めの販売店へご依頼ください。
万一お困りの場合には、下記の窓口へご相談くださるようお願いいたします。

お客様ご相談窓口	カスタマーセンター　受付　9:30～17:30（土日祝、弊社休日除く） ■カタログのご請求、製品についてのご相談 ＊e－mail：ホームシアター/オーディオ製品 → customer@onkyo.co.jp 　マルチメディア製品 → mmcadmin@onkyo.co.jp ＊TEL.　：ナビダイヤル 0570－01－8111（全国どこからでも市内料金で通話いただけます） 　または 072－831－8111（携帯電話、PHSから）へどうぞ。 ＊FAX.　：072－831－8124 ＊〒572－8540　大阪府寝屋川市日新町２－１

オンキヨー製品情報、ユーザー登録ホームページへ → http://www.onkyo.co.jp

快適なオーディオライフをお手伝い。ネットショップへ → http://www.e-onkyo.com

修理窓口

修理のご依頼は、取扱説明書の「故障かな？と思ったときは」または「故障？と思ったときは」の項目をご確認のうえご依頼ください。転居されたり、贈物でいただいたものの故障で、お困りの場合は、下記へご相談ください。

パソコン用スピーカー以外のマルチメディア製品は、

マルチメディアサポートセンター	TEL 072-831-7305　FAX 072-831-8124 〒572-8540 大阪府寝屋川市日新町2-1

ホームシアター/オーディオ製品とパソコン用スピーカーは、

地区 / 窓口	連絡先
北海道地区	
札幌サービスステーション	TEL 011-747-6612　FAX 011-747-6619 〒001-0028 札幌市北区北28条西5-1-28　トーシン北28条ビル
青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島地区	
仙台サービスステーション	TEL 022-297-0571　FAX 022-257-7330 〒984-0051 仙台市若林区新寺4-9-5　第二丸昌ビル1F
茨城・栃木地区	
宇都宮サービスステーション	TEL 028-634-4307　FAX 028-634-4308 〒320-0831 栃木県宇都宮市新町2-7-7
群馬・埼玉・新潟地区	
大宮サービスステーション	TEL 048-651-8612　FAX 048-651-9137 〒330-0034 埼玉県さいたま市土呂町2-29-2　高安ビル1F
千葉・東京（23区）地区	
東京サービスセンター	TEL 03-3861-8121　FAX 03-3861-8124 〒111-0054 東京都台東区鳥越1-2-3　ハマスエビル
東京（23区を除く）・山梨・長野地区	
八王子サービスステーション	TEL 0426-32-8030　FAX 0426-36-9312 〒192-0914 東京都八王子市片倉町358番地
神奈川地区	
横浜サービスステーション	TEL 045-322-9342　FAX 045-312-6603 〒220-0072 横浜市西区浅間町1-13　共益ビル5F
岐阜・静岡・愛知・三重地区	
名古屋サービスステーション	TEL 052-772-1229　FAX 052-772-1331 〒465-0013 名古屋市名東区社口1丁目1001番
富山・石川・福井・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山地区	
大阪サービスセンター	TEL 06-6576-7620　FAX 06-6576-7604 〒552-0013 大阪市港区福崎2丁目1番地49号
鳥取・島根・岡山・広島・山口（下関を除く）地区	
広島サービスステーション	TEL 082-262-3315　FAX 082-262-6571 〒732-0057 広島市東区二葉の里2-8-28
徳島・香川・愛媛・高知地区	
高松サービスステーション	TEL 087-868-5662　FAX 087-868-5672 〒760-0079 高松市松縄町44-8　西原ビル1F
山口（下関）・福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄地区	
福岡サービスステーション	TEL 092-418-1357　FAX 092-418-1358 〒812-0006 福岡市博多区上牟田3-8-19　みなみビル202

2001年06月現在　お客様相談窓口･修理窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがございますのでご了承ください。

SN 29358031F-1

修理について

■ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから修理を依頼してください。

■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店または、当社サービスステーションにご依頼ください。詳細は保証書をご覧ください。

■ 修理を依頼されるときは

「おところ」「お名前」「電話番号」「製品名（TX-DS797)」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお買い上げ店、または当社サービスステーションまでご連絡ください。

■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について

当社では本機の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
サービスを依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　年　　月　　日
ご購入店名：
Tel.　　（　　）
メモ：

ONKYO®
オンキヨー株式会社
本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

製品の故障や修理についてのお問い合わせ先：
お買い上げの販売店もしくはサービス網一覧表記載の最寄りのサービスステーションへお申し出ください。
●東京サービスセンター　☎03（3861）8121　●大阪サービスセンター　☎06（6576）7620

http://www.onkyo.co.jp/

SN 29343209A
D0109-2